

獨

998

52

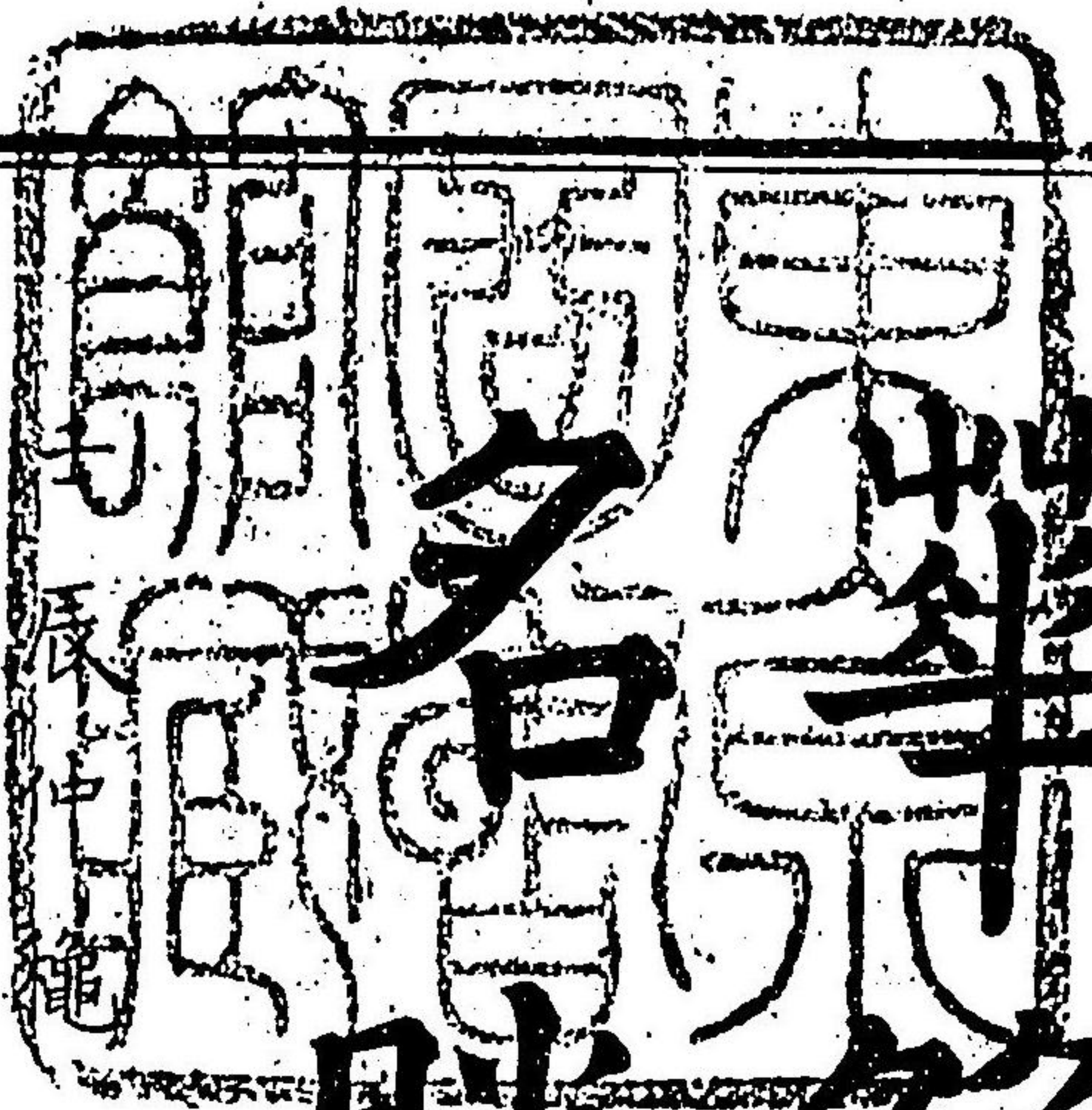
347

新
京都名所圖繪

新 京 名 圖

撰 都 賦 繪

特57
998



坐觀

翠籬
多日
朦

晚翠陳人



凡例

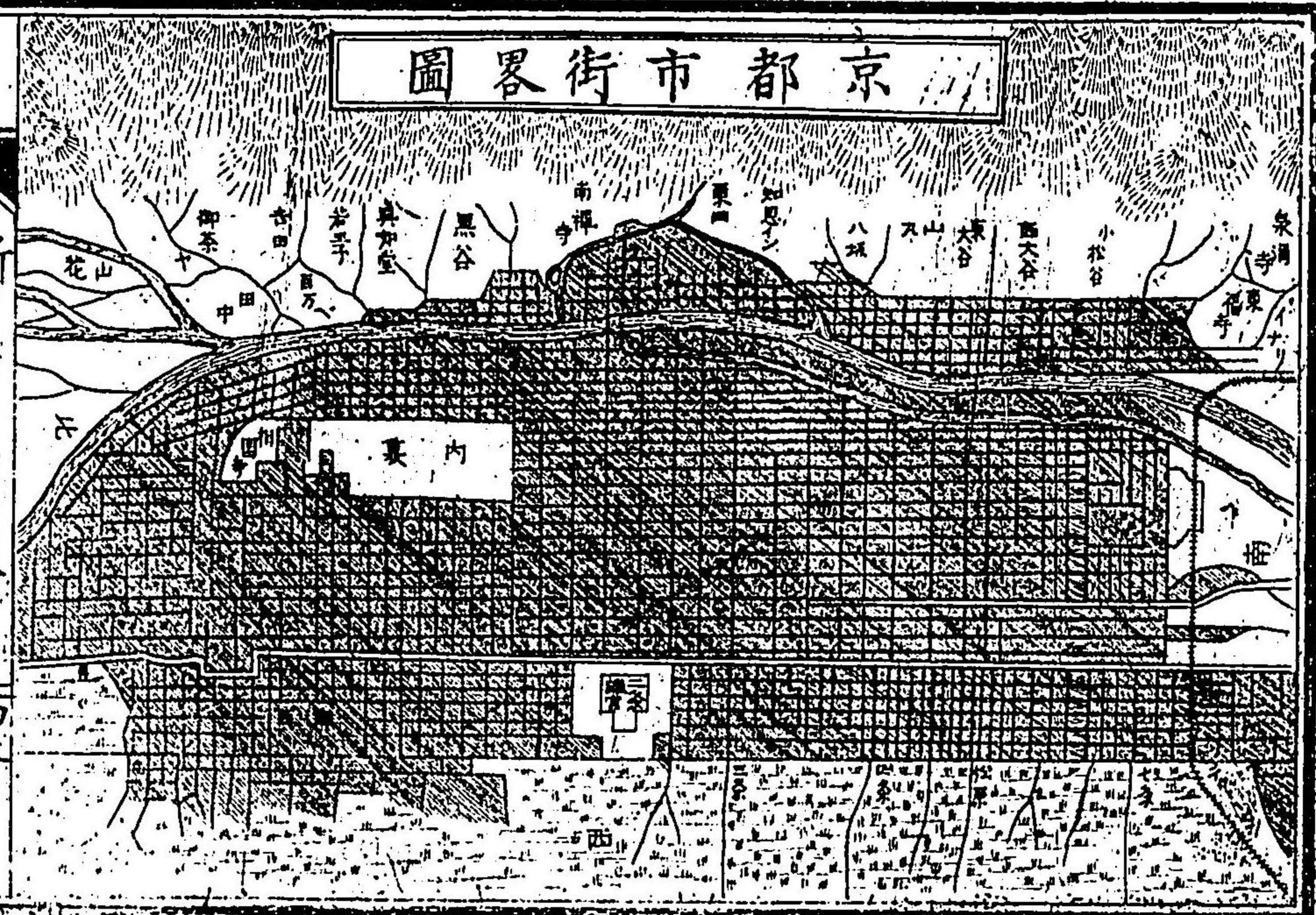
一此編ハ皇居離宮等をとりあ
神社佛閣此佳境及び山川の
美景等を模寫して舊記の大
畧をとりしめしるる名所古蹟
を知るの便益を供す

一洛中洛外よきところある所の有名な
古額書画林泉茶室等枚舉を
追あはれ其最著名なるもののみ
を舉ぐ看客之を諒しめんと
しよとあり

明治廿五年十月

編者志るん

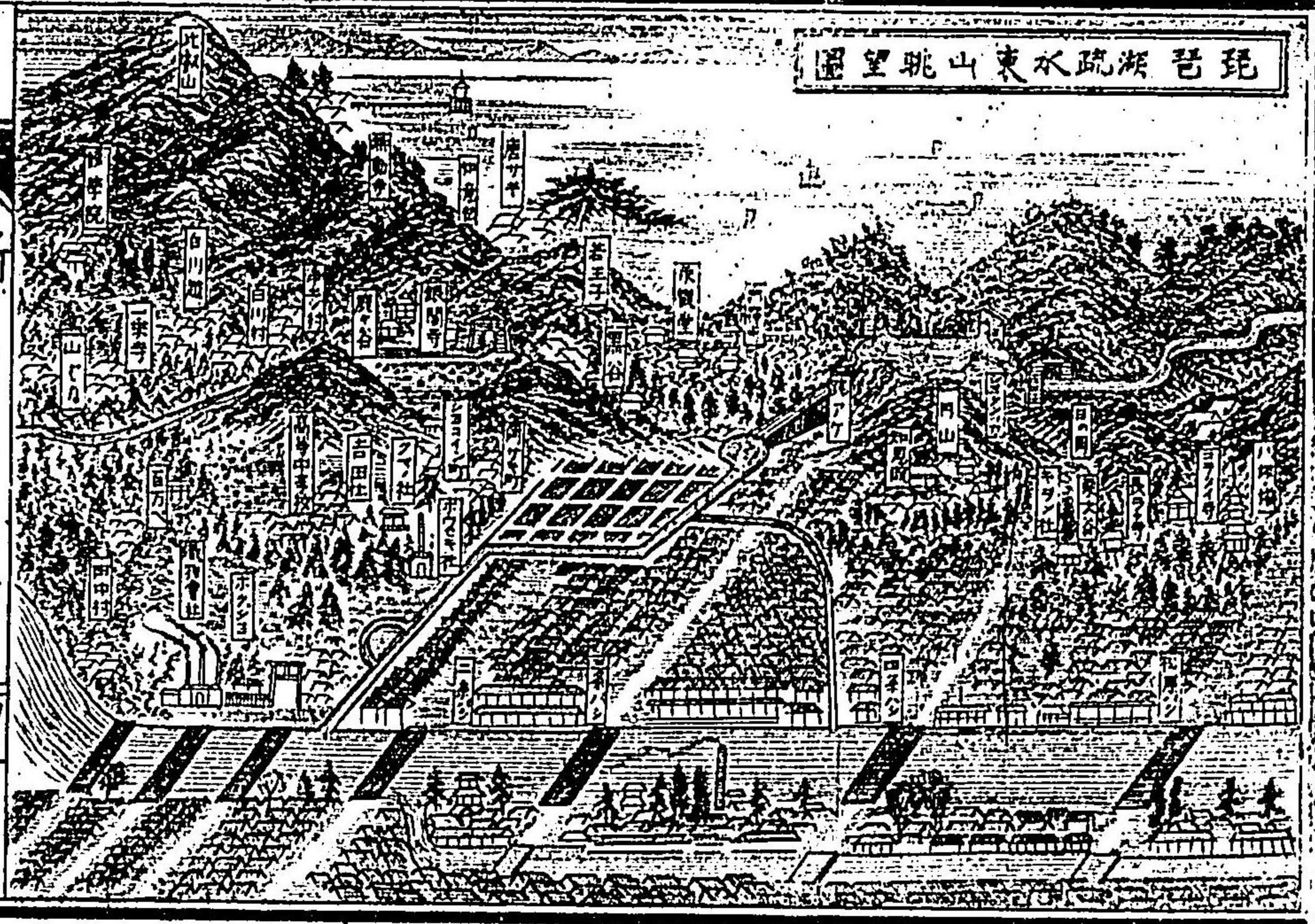
京都市街畧圖



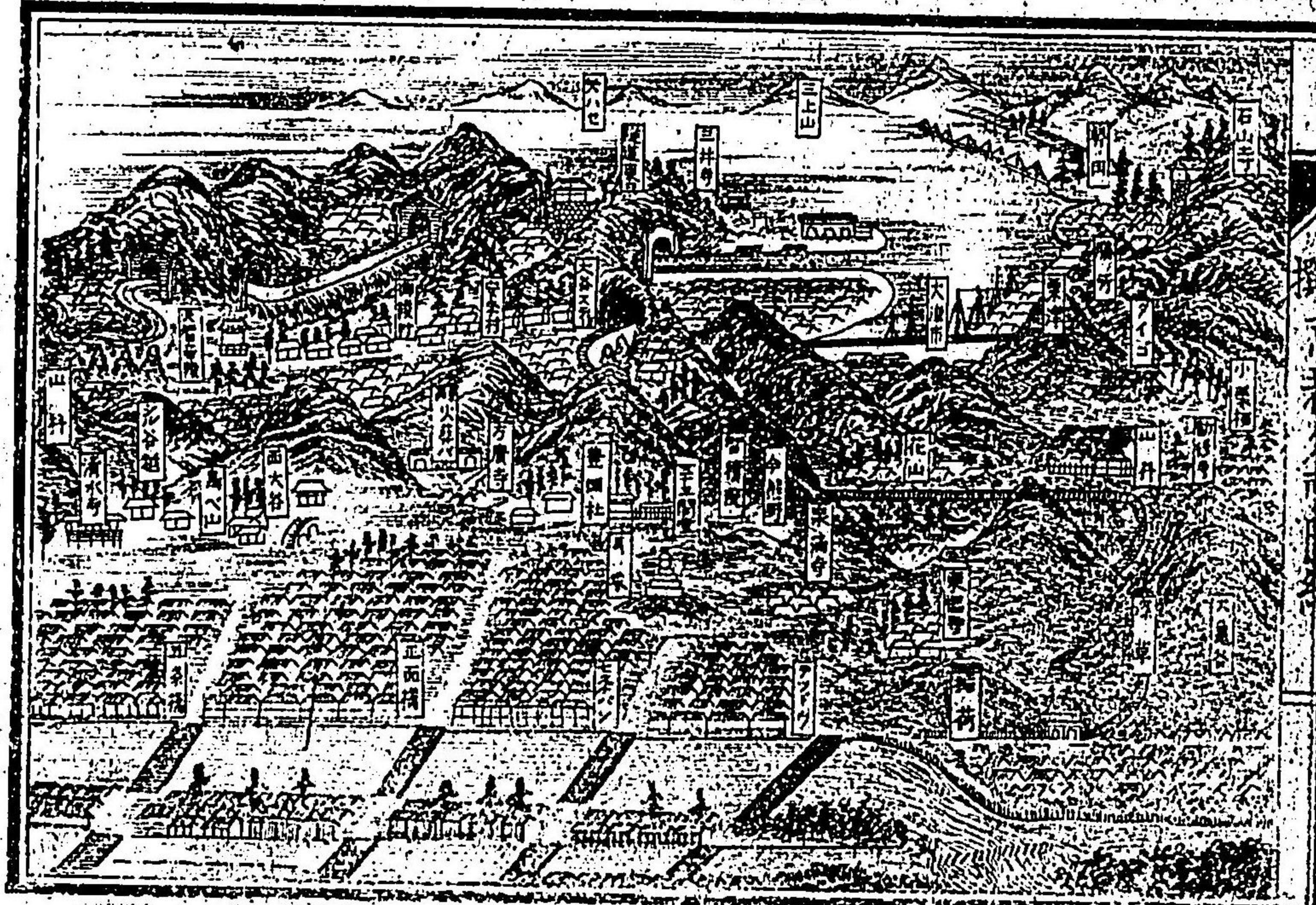
新京都市街圖會

三〇

琵琶湖疏水東山眺望圖

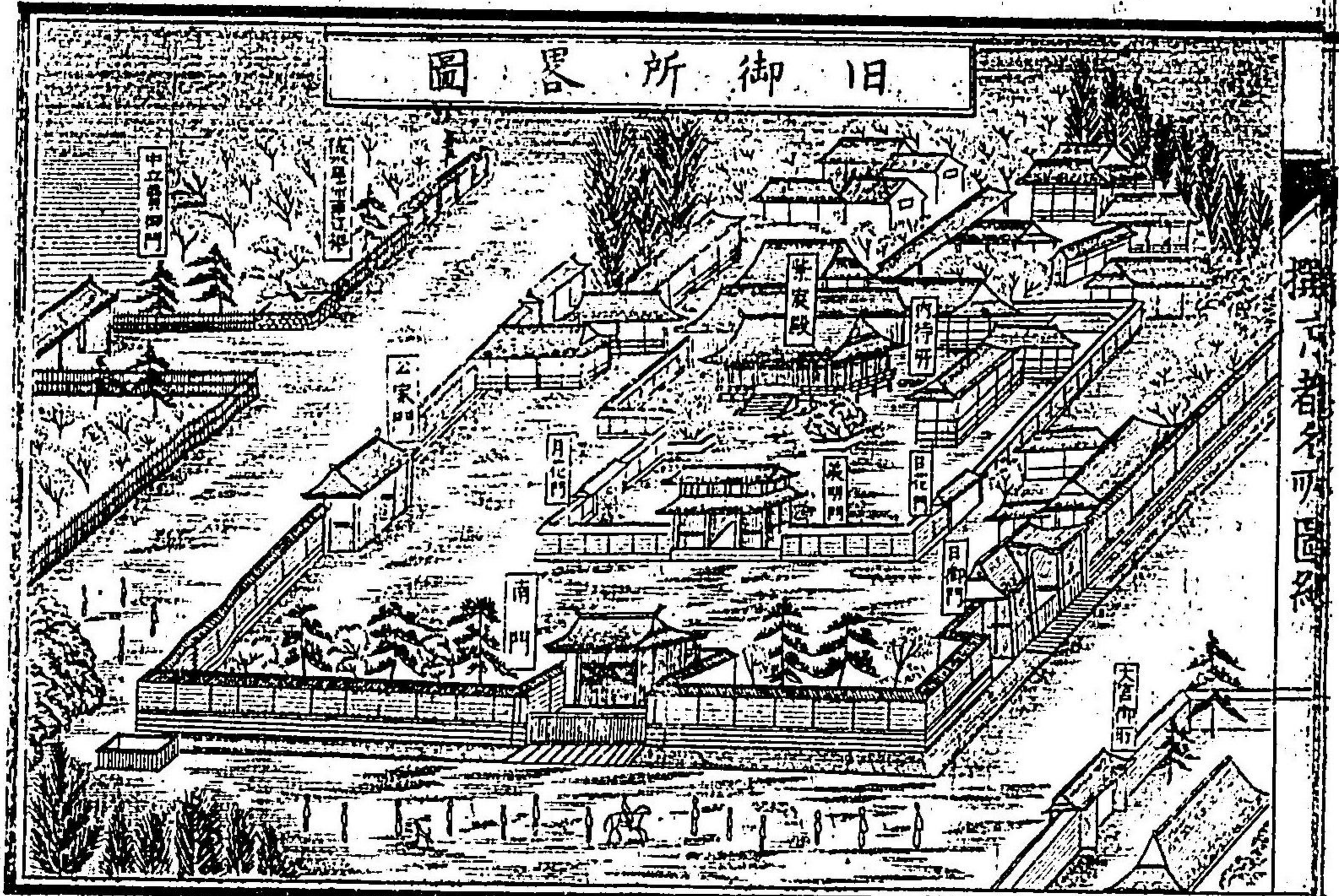


琵琶湖疏水東山眺望圖



新 加 賀 郡 三 口 町	愛 宕 神 社	高 尾 山 神 社	榎 尾 山 神 社	三 妙 心 寺	妙 心 寺	御 安 和 寺	竜 安 寺	等 安 寺	北 野 神 社	平 野 神 社	金 野 神 社	建 野 神 社	大 野 神 社	今 野 神 社	上 野 神 社	寂 光 院	修 光 院	下 御 茶 屋	山 御 茶 屋	下 加 茂 社	上 加 茂 社	相 國 社	京 都 府	大 宮 御 所	仙 洞 御 所	旧 京 都 御 所		
三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町	三 口 町
稻 荷 神 社	藤 森 神 社	御 山 神 社	花 山 神 社	三 室 院	醍 室 院	三 室 院	興 聖 寺	宇 治 寺	伏 見 寺	男 山 神 社	澁 川 神 社	城 南 神 社	離 宮 神 社	六 宮 神 社	長 六 宮 神 社	向 日 神 社	柳 日 神 社	善 日 神 社	松 尾 神 社	三 尾 神 社	花 野 神 社	大 野 神 社	桂 野 神 社	梅 川 神 社	月 川 神 社	嵐 山 神 社		
二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町	二 口 町

三條大橋ヨリ九道法附



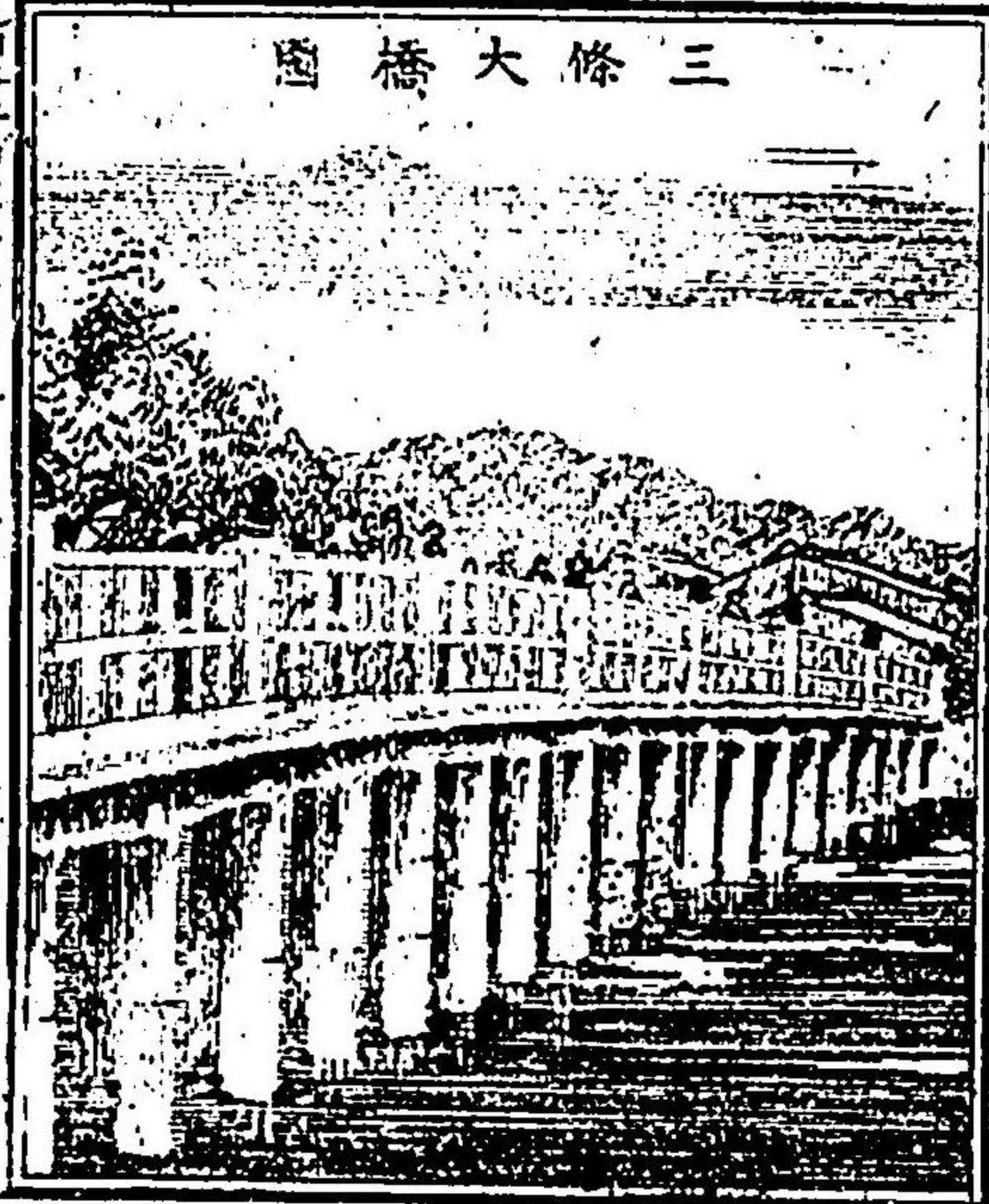
攝
政
所
圖
略

東	新	熊	聖	真	黑	若	永	金	南	植	智	八	六	圓	長	東	双	高	八	小	西	清	西	耳	大	豐	三	新	泉	東	
京	野	護	如	如	王	王	地	地	禪	髮	恩	角	角	樂	大	林	臺	臺	松	水	水	水	大	方	廣	神	間	野	桶	福	
極	社	院	堂	谷	社	堂	院	寺	堂	院	社	堂	山	寺	谷	寺	寺	塔	谷	場	寺	谷	塚	寺	社	堂	音	寺	寺		
一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	
半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	半	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	
庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	庚	
寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	
正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐	豐
臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣	臣
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初

三條大橋

鴨川筋三條通あり

三條大橋ハ東國より平安城に至る喉口あり
 貴賤の行人常小多く京都の繁花ハ此橋上
 小見へより橋の長さ六十三間幅四間五寸
 たり欄干ハ紫銅の擬宝珠十八本ありて
 悉く銘を刻む其銘曰く



三條大橋圖

之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域
 磐石還人度代至之橋三洛陽
 石柱盤觴乎天正十八年庚寅正月日豐臣初

之御代奉増田右衛門尉長盛造之

三條小橋

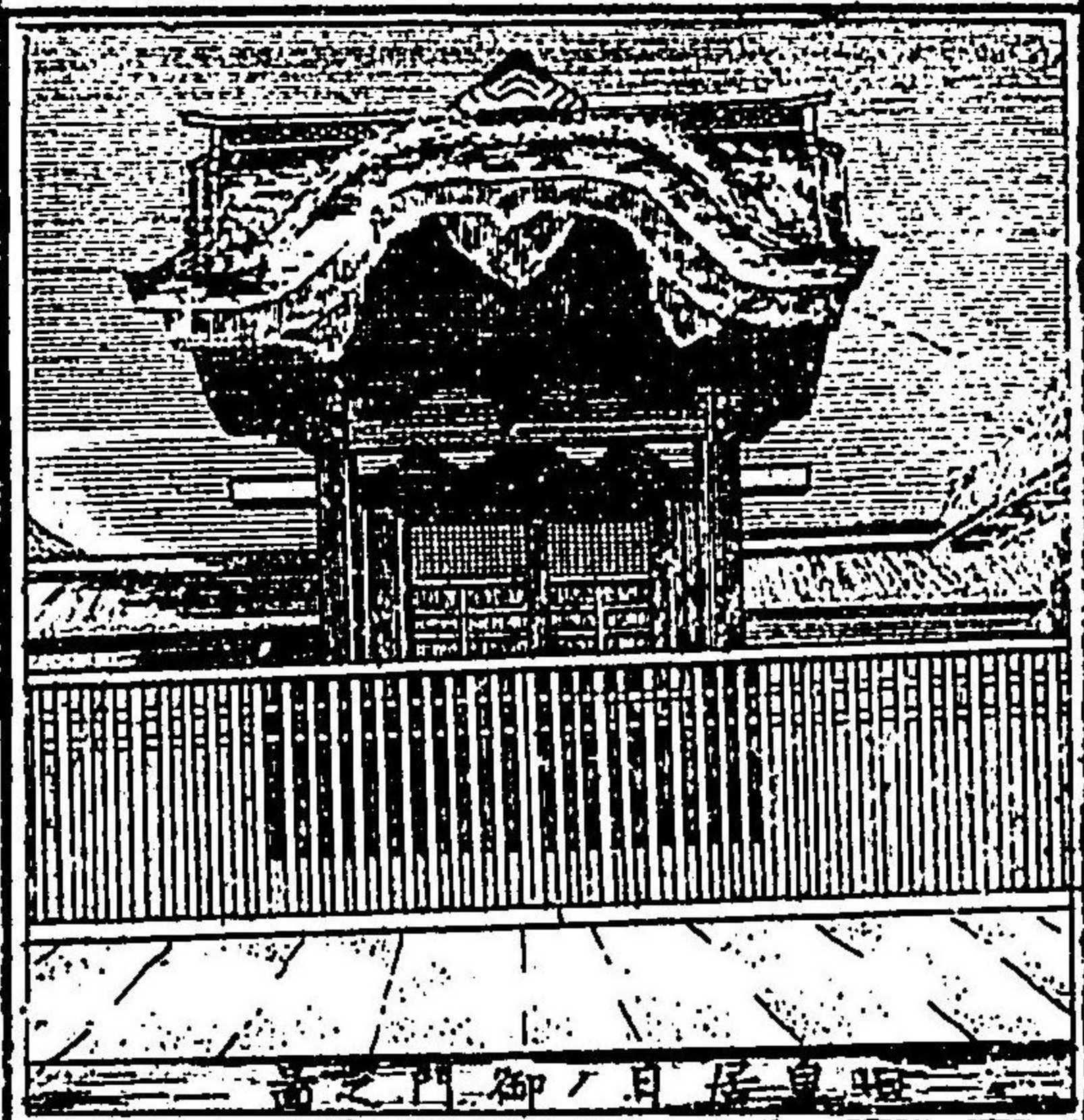
大橋の半丁許西高瀬川に架す

橋の東詰北に至る町を木屋町といふ寄宿
席貸料理屋等多く、ぐまも鴨川の西岸に
浴ひ東山の眺望絶佳なりて旅宿に第一
等と稱す

舊内裏日御門紫宸殿

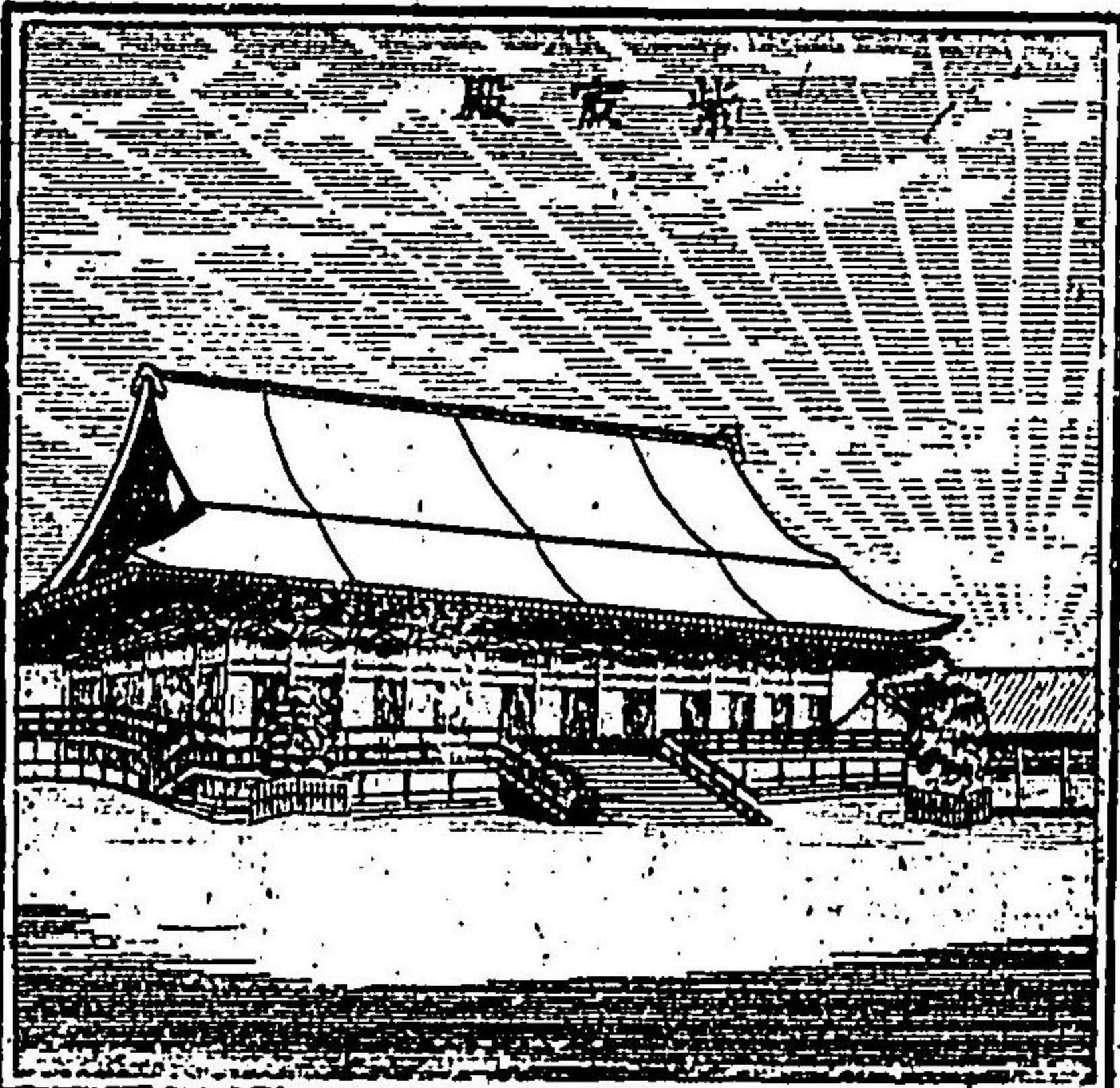
東に寺町西に島丸南に

丸太町今北へ川を限り此を内と御死にふ中央居あり
平安城の興基の人皇五十一代



皇居日御門之南

桓武天皇延暦十二年大内裏御造營今の内裏の正親町天皇正



年中の御修造なり南面の門を建礼門東面の門を建春門西面の門を宜秋門北面の門を朔平門といふ此外郭東西五百四尺南北三百尺中央に紫宸殿あり前の三門の東を日華門と云ひ西を月華門といふ中を承明門といふ南殿の東北に林泉あり北に常御殿ありて其結構善美く仙洞御所の舊趾に

日の御門ひのぎらの南みなみあり御林泉ぎょりんせんの景色けいしき最佳さいか之

大宮御所おほのみやごしよ 仙洞御所せんどうごしよの北きた並ならぶ

殿舎てんしゃ壯麗さうれいなり内裏うちらと共とも保存ぼくぞんせらる

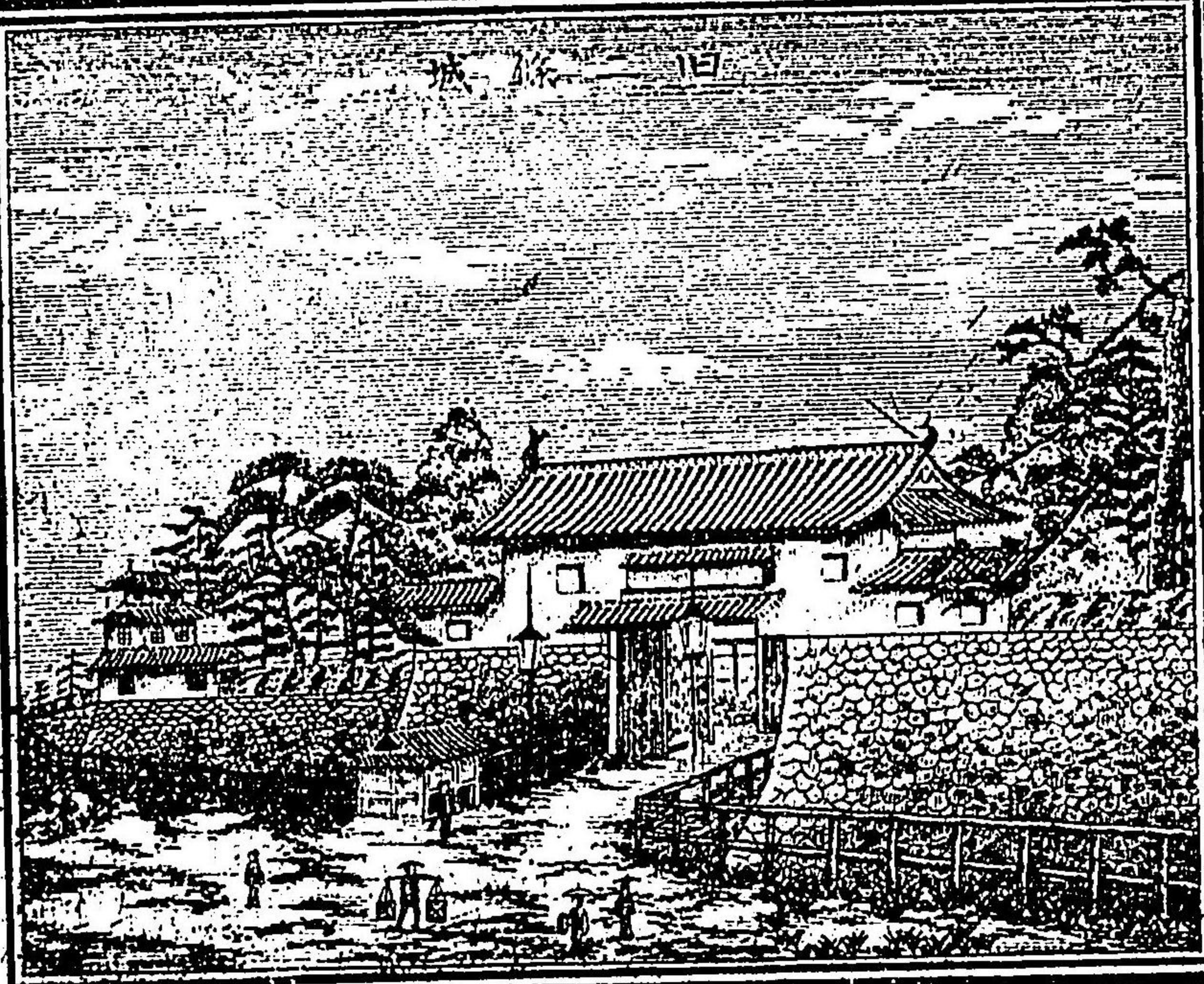


博覽會はくわんかい會場かいじやう 御苑ごえん内の東南とうなんあり

博覽會はくわんかい開設かいせつの始はじめ明治四年三月皇居きやうきよの
空殿くうてんありて催もよほさる其後そのち大宮御所おほのみやごしよ移うつ
る同十四年此所このところ建築けんちくす毎年三月

一日開會いちにちかいかいし六月八日閉場へいじやうす

二條離宮ふたじょうりきゆう 二條通堀川ふたじょうとほりがわの西にしあり



城跡 二條

此城ハ慶長七年徳川家康公の造営ありて
初め天主閣ありて寛延三年八月雷火ニ
炎焼す本丸ハ天明八年正月大火のこめニ
焼す元此城ニ京都所司代を置く王政復
古の際太政官代となり又京都府を置き今
監官ニ定めり。

京都府廳

下立賣新町の西あり

王政維新の際軍務官となり其後京都中學
校となり今京
都府とも此
府廳の前通り
金座丸太町の
北ハ盲啞院あり
盲人啞人ニ
學術工藝等を
授くる所なり



相國寺

今出川御門の北あり

京都五山の第二ありて萬年山相國承天禪
寺といふ開基ハ夢窓國師後小松天皇の御
宇明德三年足利三代の將軍義滿公の建
なり佛殿ハ釋迦如來を安置し迦葉阿難
と左右あり達磨大元の像を脇壇ニ安置す
祖師堂ハ夢窓國師の像あり後水尾院の
御再建して同帝の神牌を安置す塔頭
普光院の竹林ハ黄門定家卿の墓あり

相國寺



上御靈神社

室町頭東北にあり

祭神ハ早良親王伊豫親王藤原夫人文太夫
橘逸勢藤原廣嗣吉備大臣火雷神の八所御
靈あり朱雀院の御宇天慶二年に鎮め奉る

二條以北
堀川以東
此邊
み至る産
土神あり
て例祭ハ



五月十八日ハ神輿を渡す京都四大祭の一
たり四大祭ハ八坂稻荷 下加茂ハ八丁
今宮御靈をいふ

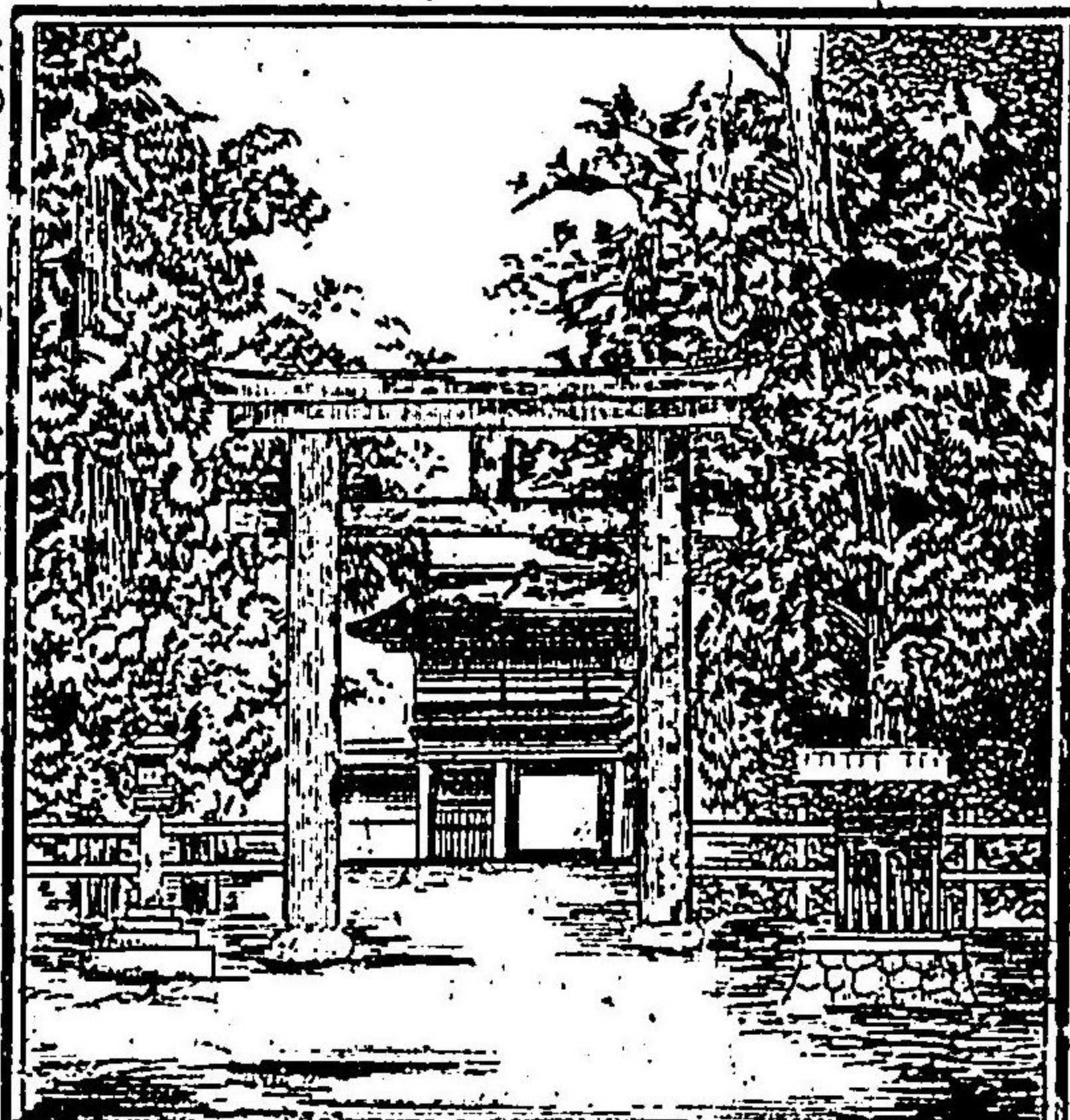
下加茂社

加茂川筋今出川北へ入死

官幣大社ありて玉依毗賣命大山咋神を祭
る山城國一の宮ありて桓武天皇長岡の京

より遷都以前の鎮座なり境内に於神社あり
此社地は諸水を植れへ悉く終に化すと

いふ
其外
末社
多し
亂の
森ハ
清水
涌出
る是



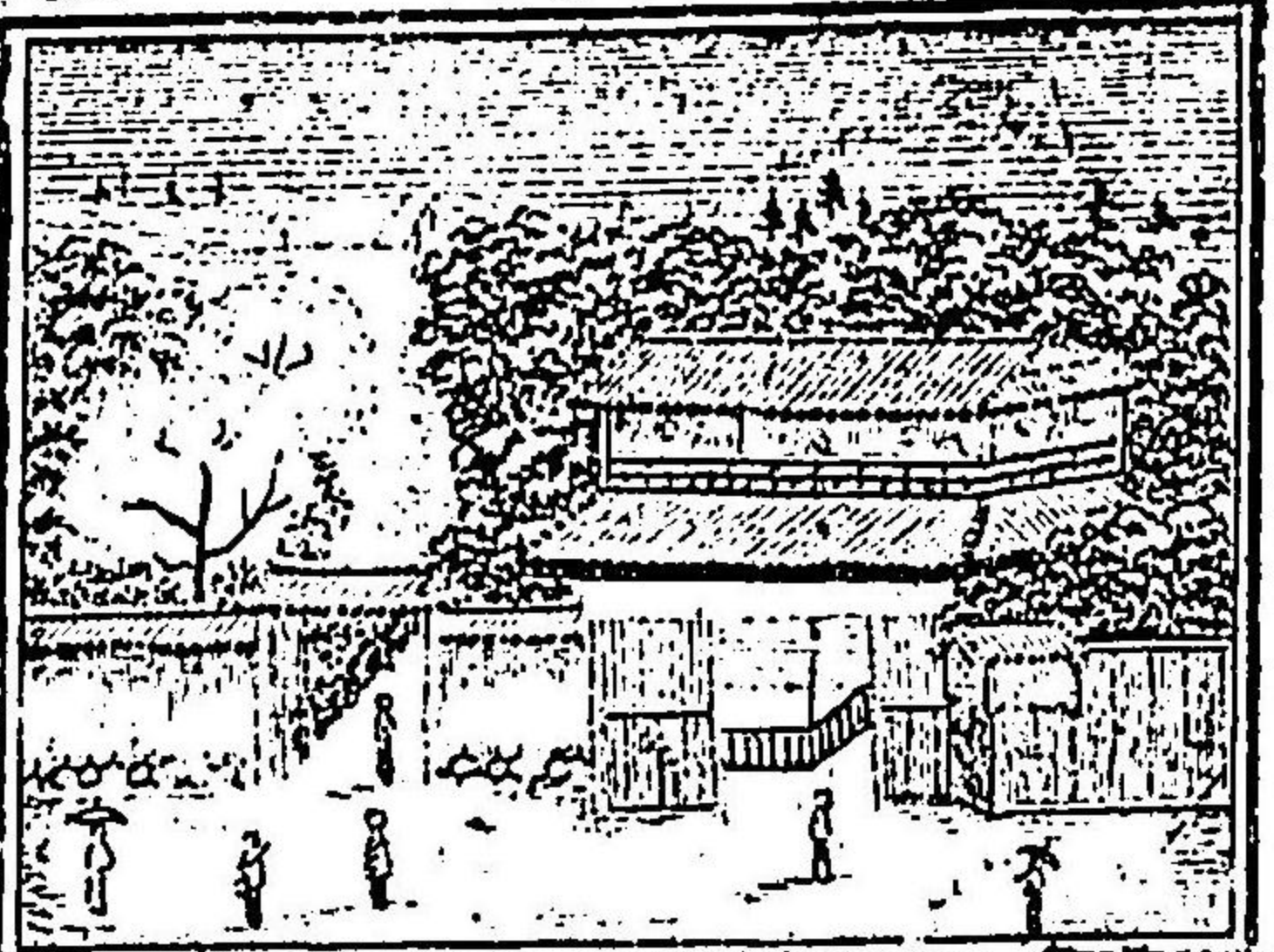
亂川の源あり夏日納涼ハ良好の地とす
官祭ハ五月十五日ありてこまを葵祭と云
此日大内より御車出て公卿騎馬ありてあは
ららとけ其御儀式嚴重ありて美麗の
行遊ありて祭礼なり 此所より山端

へ十五町

山端

愛宕郡修学院村の西にあり

山をたれ料理店平八の麦飯とろ汁の名物なり川魚は高の川の産物として頗る美味あり好こは應じ海魚も賣るあり庭前は高の川の清き流を帯び山水は景色最も美なり此所より下御茶屋へ六丁



下御茶屋

愛宕郡修学院村にあり

風景最も美なり菩提樹壽月觀藏六庵あり彎曲欄は田植御覽の所あり此所より修学院へ三丁

修學院

修学院村の山上にあり

往古修学院といふ寺ありし所なり其寺荒廢して村の名を残りし後水尾天皇の御時離宮を造営し玉ふ林泉風景の美ある筆紙に尽し是を上の御茶屋といふ明治廿三年更に離宮を定め玉ふ

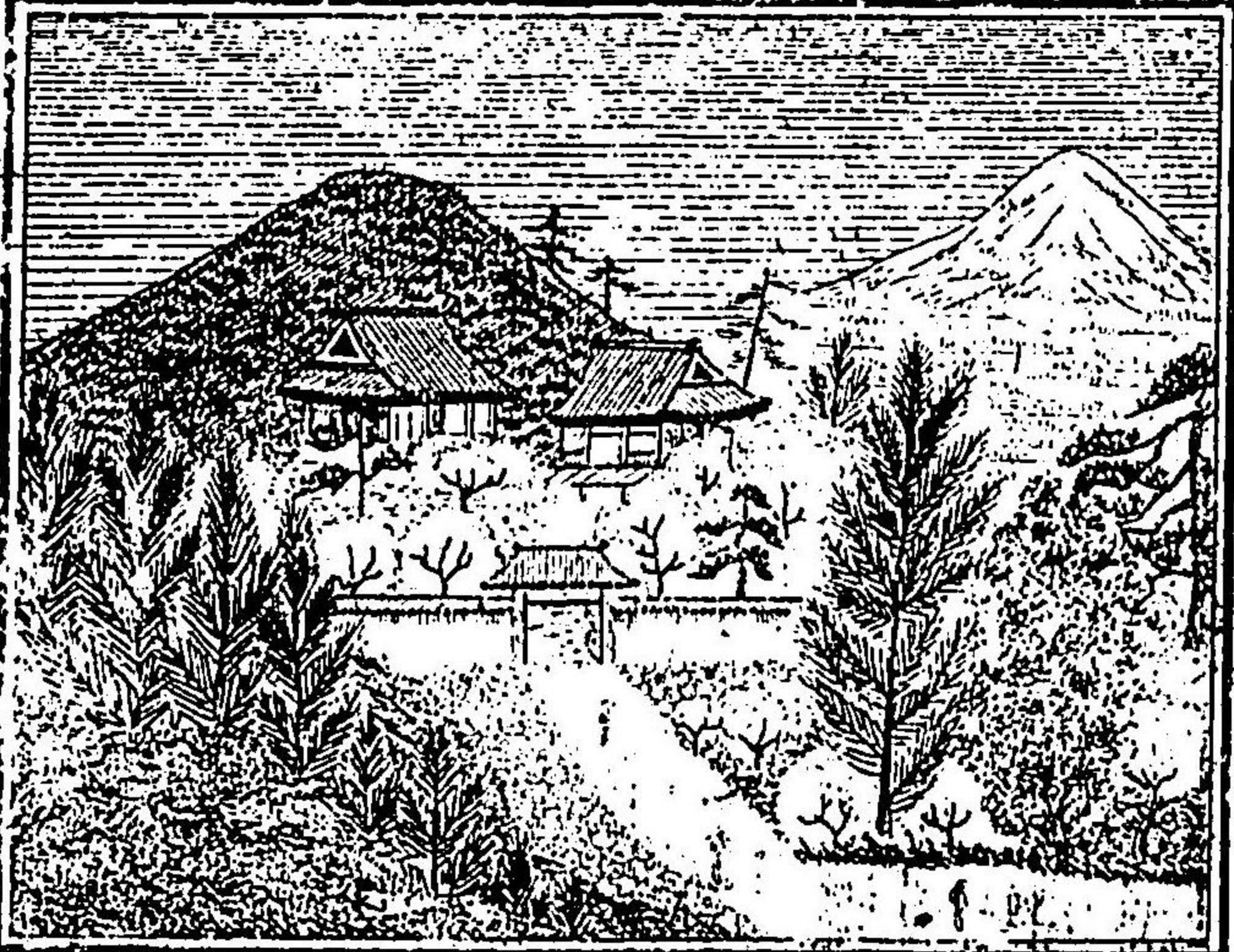


修學院

愛宕郡大原村にあり

真言宗より弘法大師の開基なり本尊地

藏菩薩の
聖徳太子
の作文治
年中建礼
門院閑居
の地あり
て今ニ
寺なり建
礼門院の
御影阿波
内侍の像



あり又同村ニ隆清水あり
人の知所あり此所より証拠の阿弥陀
へ二丁

勝林寺

右同村ニあり世ニ大原寺といふ
天台宗ありて本尊阿弥陀佛ハ文治二年

法然上人
とを世ニとまて証拠の弥陀といふ開基
寂源法師なり

岩倉大雲寺

愛宕郡岩倉村ニあり

天台宗ありて本尊聖観音ハ行基の作あり
圓融帝比御建立たり又岩倉と号するとい
桓武帝此地ニ經を納め玉ひしよよとあり
大雲寺の額ハ参議佐理卿の書開基ハ智弁
僧正なり境内山上ニ妙見堂あり
此所より鞍馬へ一里

鞍馬寺

愛宕郡鞍馬村ニあり

天台宗本尊毘沙門天例年一月初寅の日諸
人参詣群集す牛若丸の住せりまゝ東光坊
の旧跡あり

鼓明神社

大門より二丁許山上ニあり

祭神ハ大己貴命天慶年中の勧請ありて

鞍馬村の産土神なり

貴布祢社

愛宕郡貴舟村あり

官幣中社水神罔象女神を祭る雨を祈る

みちるあり又龍王の瀧あり

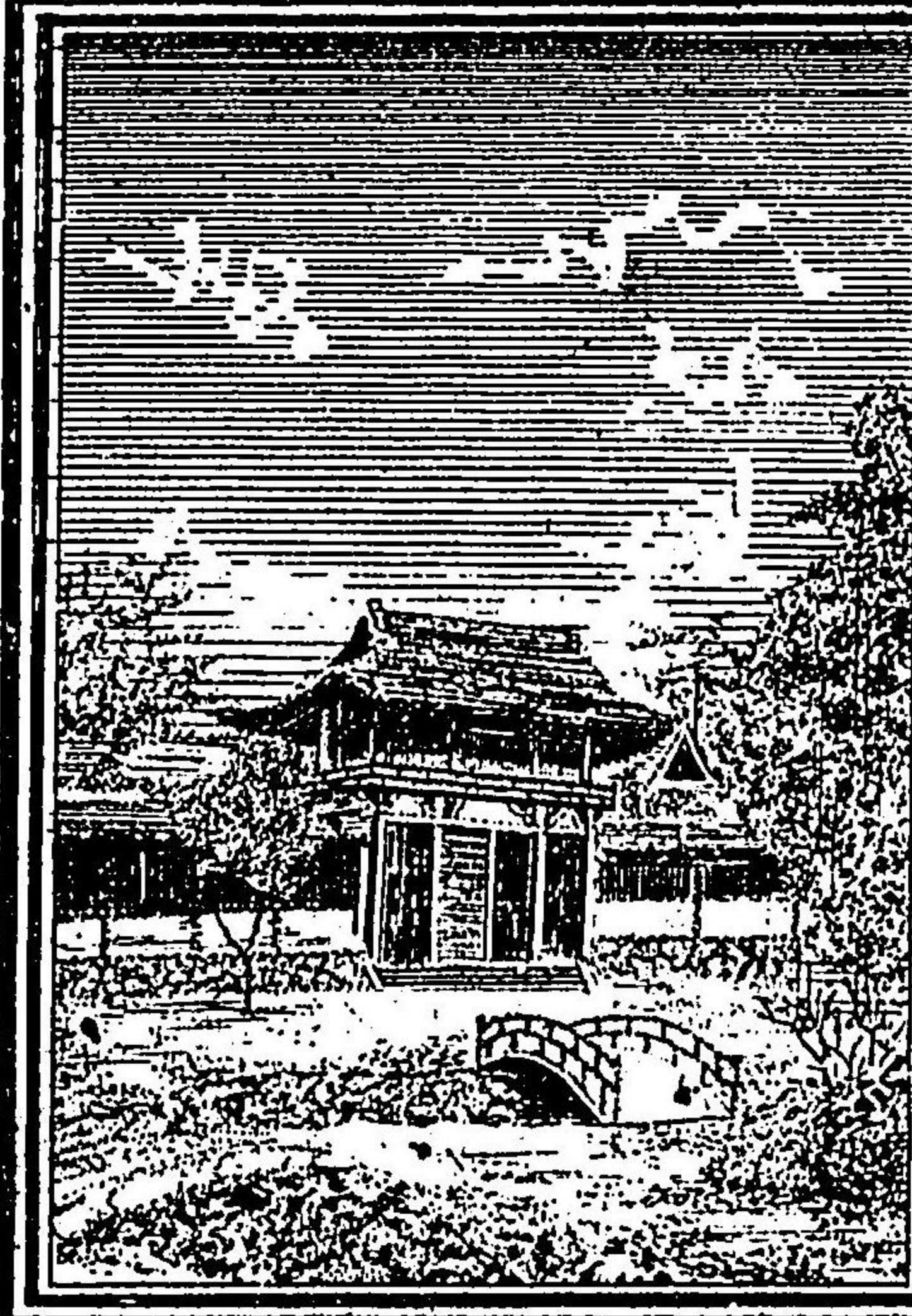
上加茂神社

愛宕郡上加茂村あり

官幣大社山城國一の宮なり加茂皇太神又

別雷皇太神とも稱す天武天皇白鳳五年造

宮なり社前御手洗川と云清流あり後の



山を神山と号す境内廣く風景も今の
本社寛永五年徳川二代の將軍秀忠公の
造立なり官祭は五月五日あり之を葵祭
とよみ五月五日競馬六月三十日七月一日
神能あり

今宮社

愛宕郡東紫竹大門村あり

府社素戔鳴尊稻田媛の二神を祭る長保二

年庚子五月創建あり例年四月十日徘徊祭

あり五月十五日ハ私祭まで大賑ふ

此所より大徳寺へ四丁

大徳寺

右同所の少し南あり

禪宗より龍宝山と云開基ハ大燈國師正中

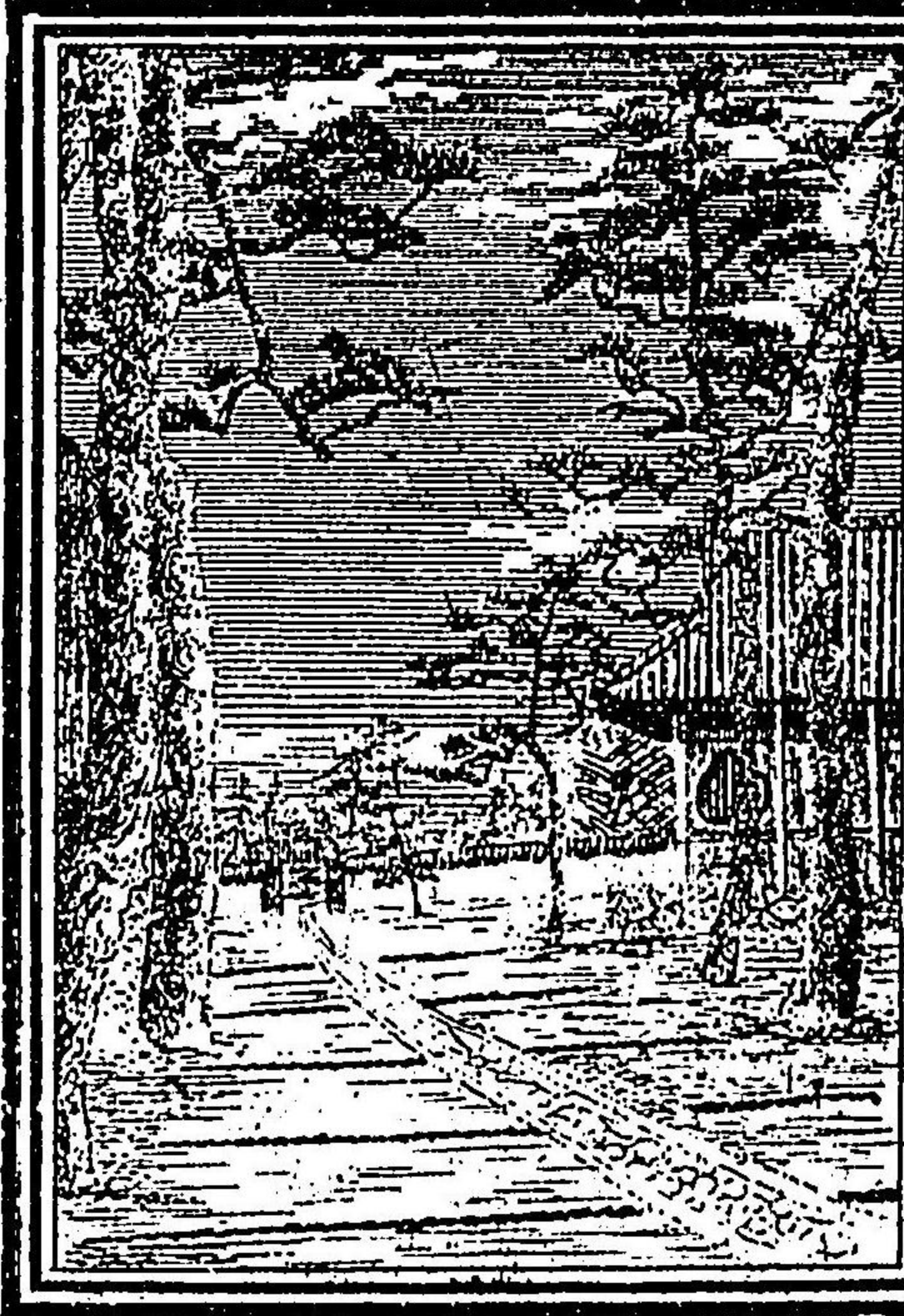
元年の創建あり當寺の伽藍ハ赤松圓心同

く則祐柱石の料を寄附す山門ハ連歌師

宗長修造し閣ハ千利休方丈の門ハ明智光

秀の寄進ありとよ佛殿より釋迦佛を本

尊として梵天帝釋天達磨臨濟の像と安置す雲門菴の大灯國師の像あり其外花園帝後醍醐帝後土御門帝の神主あり真珠菴の休和尚住居し三ひり久人真珠菴と一休の筆を深玉ひり竈あり庭に清泉あり和泉式部が夫少将保昌の宅地ありしといふ是より建勲神社へ六町ありきたり野の今宮大徳寺の邊をりたり



建勲神社

愛宕郡舟岡山東のふもとにあり

別格官幣社なり祭神織田信長公王政維新の後此所を創建せらる



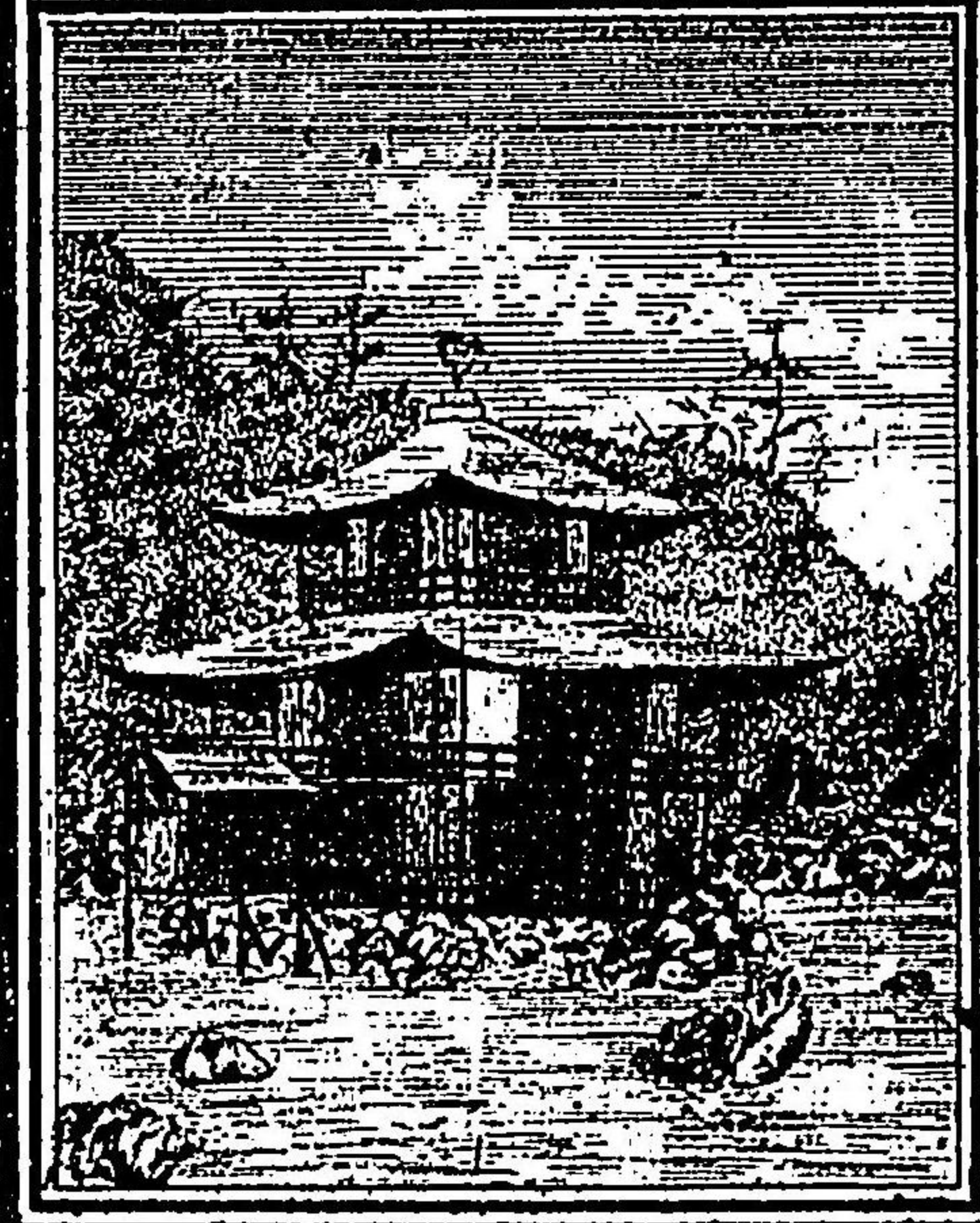
金閣寺へ十四丁西

金閣寺

愛宕郡大北山村にあり

禪宗にして鹿苑寺といふ應永年中足利三代將軍義満公高閣をたて華美をつくり金箔を以て一面を粧ひ閣の前の池廣くして九山八景と名づく奇石さまざまあり金閣三重ありて第一を法水院といふ弥陀の三尊夢窓國師の像義満公の像あり第二を潮

音洞とよ自然木の観音と四天王を安置す第三を究竟頂とよ後小松帝の勅額あり天井の三間四方の一枚板を以て四壁の板をくく金箔を押し然れども星霜數百年を経て風雨の爲め剥落して今所々は金色を存するもの○南天の床柱寺有名のものありて後山を負ひ西に衣笠山の名山を望み北方の奇觀此地は勝れたるあり



平野神社

葛野郡小北山あり
 官幣大社祭神四座なり源平高階大江此四姓の氏神第一今水神源氏第二久度神平氏第三古閑神高階第四比咩神大江なり官祭四月二日境内櫻樹多し世は平野の夜櫻といふ花のころ雅俗群集す北野へ二丁半

北野神社

御前通今出川つゞりあり

北野の王城の北面の方なり
 天曆年中の創建
 天満天神の宮
 菅永相
 中将殿
 菅三品吉



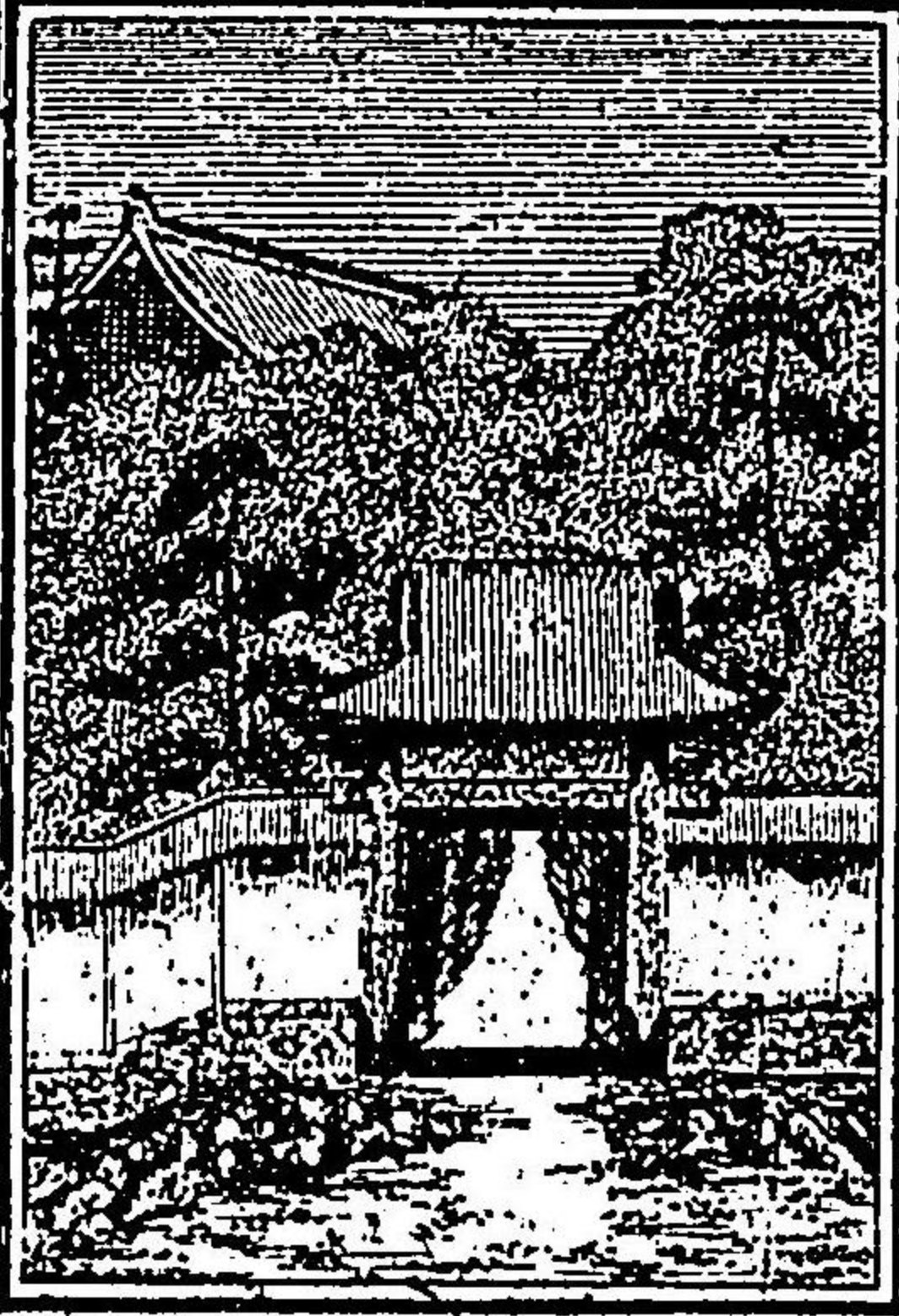
祥女西間 今ひまの社やハ豊臣秀頼公の造
 宮右大臣社壇北方ヲ加藤清正寄附の大鏡あり社域
 廣大末社多諸人常絶ることなり
 官祭八月四日私祭ハ十月四日神幸あり境
 内梅樹多春花見遊人群集す

等持院

葛野郡衣笠山のふもとにあり

禪宗開基ハ夢窓國師足利尊氏
 公の建立等持院の堅額相國義満公の
 筆足利家累代の昭堂慈照院義政公の營證

果なりの額ハ
 開山夢窓
 の筆心う
 しろ衣
 笠山なり



龍安寺

等持院の西にあり

禪宗ありて天雲山といふ文明年中細川勝
 元の造営人堂
 の内天井の画
 ハ兆殿司の筆
 人庭の景色
 勝元の物数奇ん



御室仁和寺

葛野郡花園村にあり

御室ハ真
 言密
 東の
 靈地
 境内
 廣大
 なり



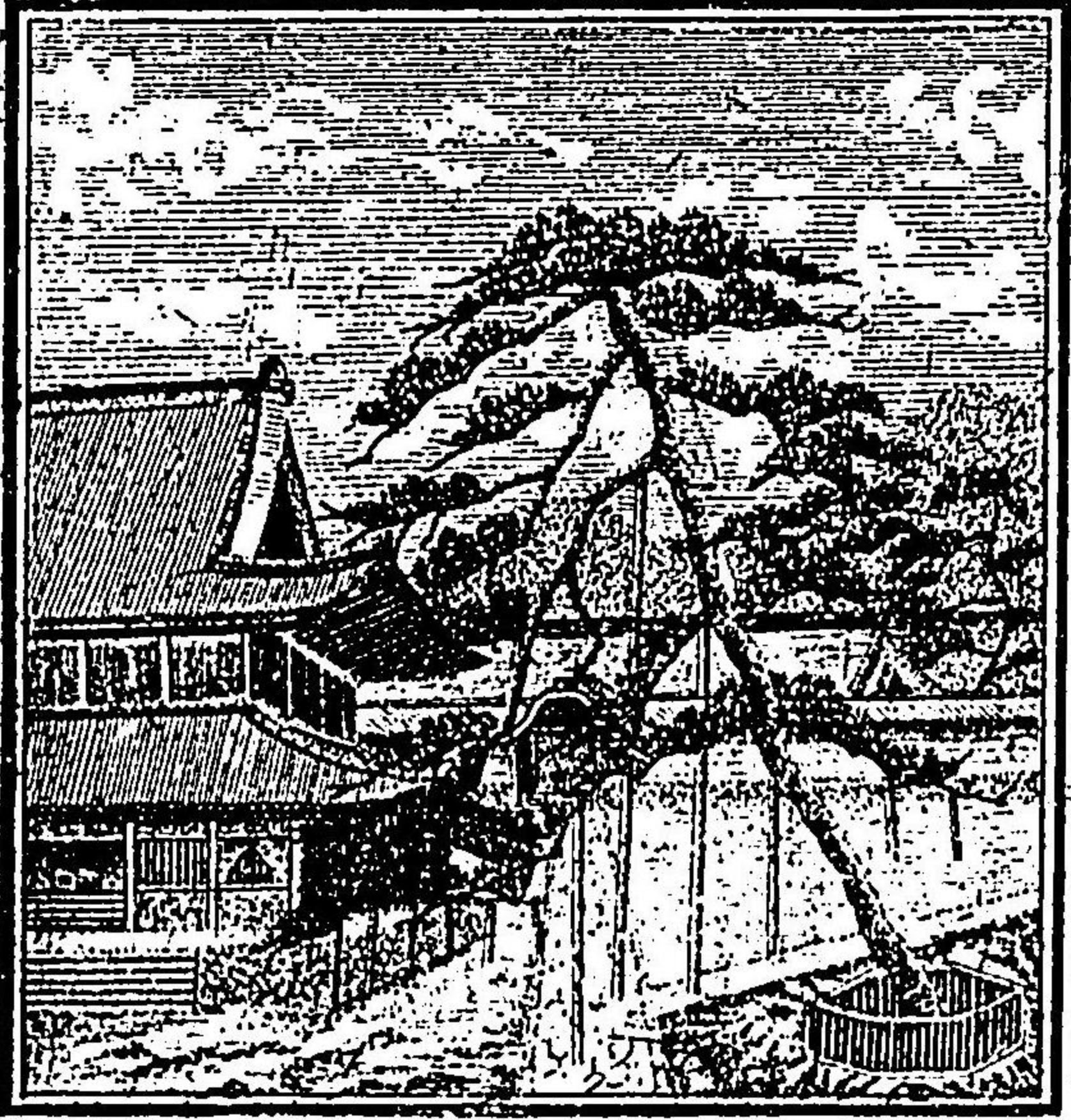
其まづめい光孝天皇の御願として仁和四年八月御州創大内山仁和寺と号す其後宇多天皇寛平九年七月延喜帝の御位を譲り御出家ましく寛平法皇と称し奉る當山は七堂伽藍及び御室を御造立ましくして御入室ありし御門跡の称号として始まる當山は往昔より櫻樹多くおのづから梢高うらず屈曲巧み掬とるが如し故に花盛りの都鄙の貴賤遊客郡集す 妙心寺(七町)

妙心寺

龍安寺の南花園村にあり

禪宗よりして正法山といふ開山の關山國師花園法皇の創建に則し法皇も方丈のうらま一院をいつとめ住せむよと王鳳院といふ正面に唐門あり額に法皇の御震筆に佛殿の本尊釋迦佛左迦葉達磨臨濟法堂の北にあり經藏は東にあり方里小路

藤房卿遁世し當寺に入り關山の法脈を嗣ぎ授翁と号し當寺第二世たり近世謚を圓鑑國師と賜ふ又當山塔頭は高名の林泉敷奇屋及名画寺あり境内の老松名木なり



三寶寺 葛野郡嵯峨にあり

當寺は西の山上にありて日蓮宗の本堂は南向きに釋迦堂の山上にあり開基は日護上人とす



此邊は妙光寺法藏寺般若寺平岡八幡宮善明寺等高名の社寺多しと雖も畧す

楨尾山高山寺

葛野郡楨尾村にあり

當山は華嚴宗にして本尊は釋迦如來明

惠上人紅葉乃殊は景



色より都鄙貴賤の遊客群集す

楨尾山平等院

右同郡楨尾村にあり

真言律兼學にして開基は智泉法師の本尊

の釋迦如來明惠上人の作人千手觀音の御作とぞ聞へし此所も紅



葉の頃ハ美景なり

高雄山神護寺

右同郡中島村あり

當寺ハ光仁帝の御宇和氣の清麻呂奏問し
建立有し初ハ神願寺と号しぬ淳和帝の
御宇天長二年ハ空海ハ賜る神護國作真言
寺とありぬ号に其比詔を下して金剛定
寺の額を空海和尚ハ書しぬんと勅使を立
せしむる

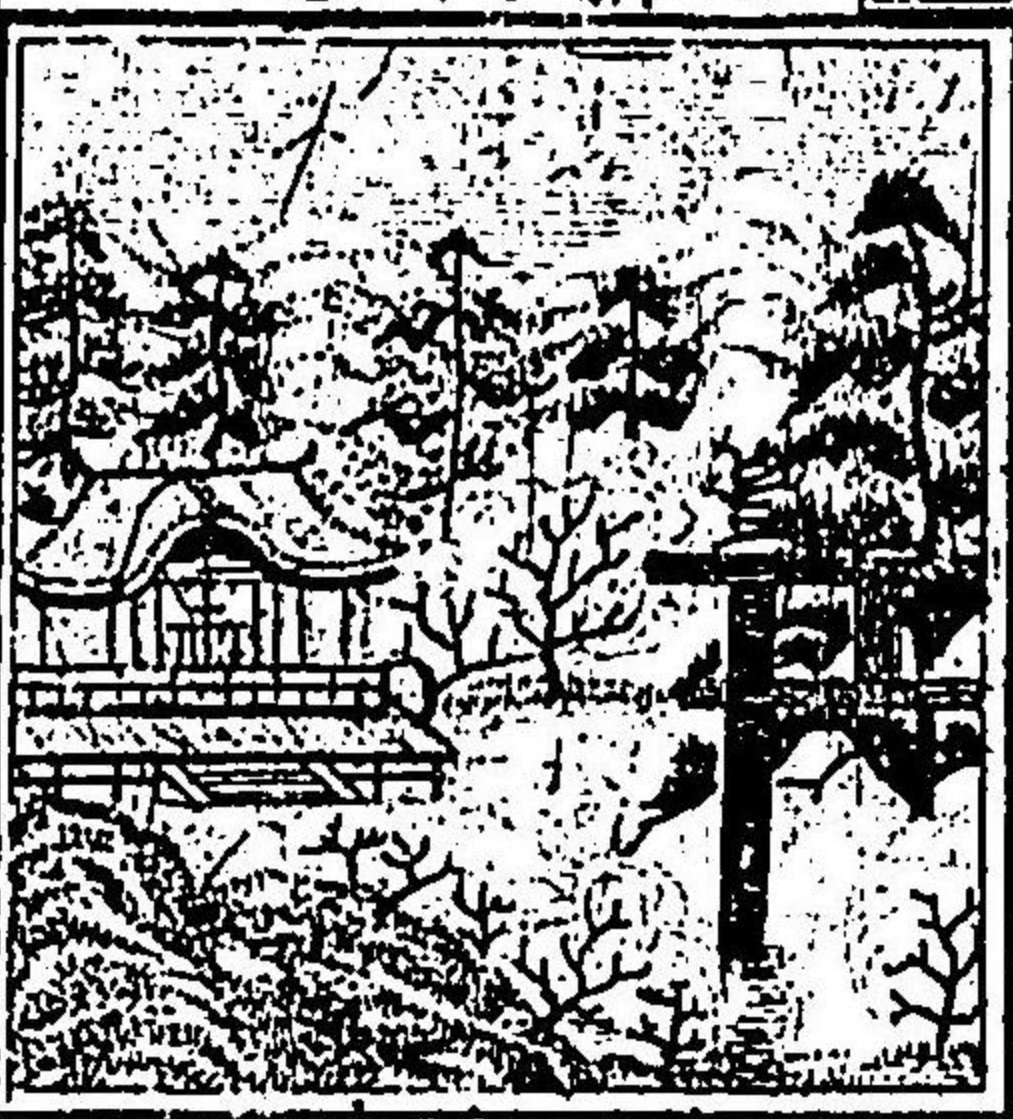
ありあり
五月雨
て清瀧川
の水増し
て高雄山
の往来止
りくる勅
使則ち川



のわたりまゝすみもの案じ煩ひぬ
と空海をぢめして筆ハ墨をうくま
とる額ハ向うて書めふみ墨ハ霧の
飛で額の面ハ忽ち金剛定寺の四字
額書石(石面ハ窪みあり硯石とす
樓門の外
よあり)金堂の本尊藥師如来講堂
の五大尊
とも弘法大師の作鐘樓ハ金堂の良
ありて鐘の銘ハ菅原是善卿序の詞
橋廣
相筆者ハ藤原敏行なり是を世ハ三
絶と号
せ本朝の名器なり此所ハ紅葉の名
所

護王神社

別格官幣社祭神ハ
和氣清磨公ハ維新
後上京區烏丸通下
長者町の角へ御遷
座



日輪寺

愛宕の山腹あり鐵の鳥居あり

鎌倉山と号す當寺の本尊は十一面觀世音を安置す祖師堂より空也上人是實大師月輪殿下の像あり開基は慶長法師也此地は閑居下と稱す龍女水とよみ清泉ありて涌出るくまを所々へ笕まくりて堂の用水とす傍に龍女のやうあり時雨櫻堂の前あり

愛宕山

葛野郡上嵯峨乾より

愛宕山のやうに乾ありて朝日嶽白雲



寺と号す一の鳥居より坂路五十丁ありてはじめの試の峠あり清龍川渡猿橋火燧權現は十七丁目あり密が原北の麓ありて南星峯と乾のくまの嶺と鐵の鳥居の額に表を朝日山裏を白雲寺と書す竹裏良恕法親王の筆本殿に阿太子山權現ありて帝都の守護神なりて火災を退けぬ光仁天皇の御宇天應元年此山をひらき勸請し

嵯峨釋迦堂

葛野郡上嵯峨村あり

五臺山清涼寺と号す六尊の大聖釋



迦牟尼佛の立像ありて長五尺二分天竺毘
首羯磨天の作なり勝士ハ十大弟子の立像
共ニ厨子ニ安置す東西の壇上ニハ文殊普
賢を安置す抑この釋迦如来の尊容ハ三國
無雙の靈佛なり釋尊在世より一奉り
て生身の尊像なり一條院の御宇永延元年
南都東大寺の齋然渡唐し靈告を蒙りて此
尊像を感得し奉り歸帆して同年八月天聽
み達し伽藍を建立す

天龍寺

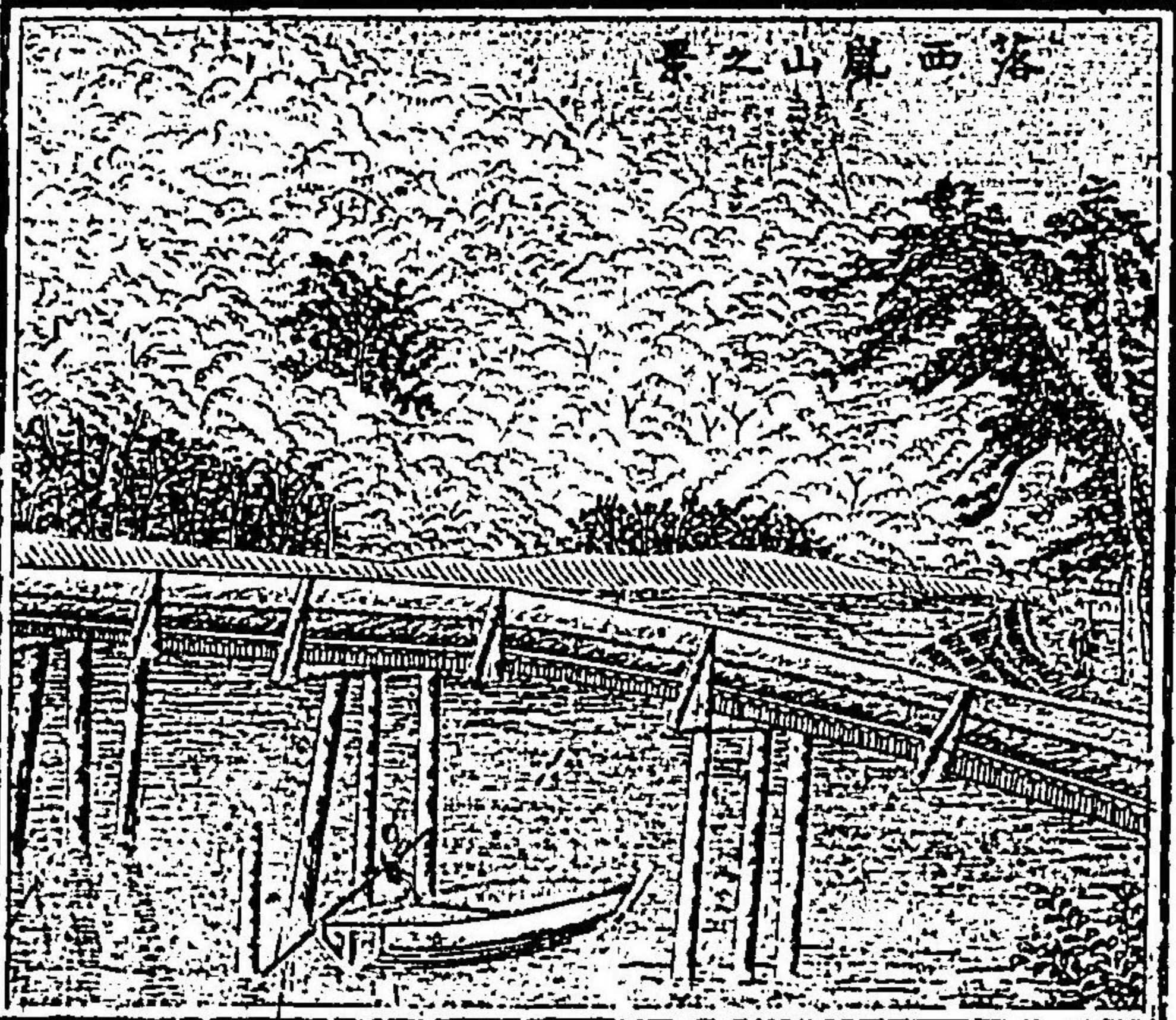
萬野郡下嵯峨村あり

雲龍山天龍資聖禪寺と号す五山の第一
なり大井川の北あり開基ハ夢窓國師ニ
して足利尊氏後醍醐帝追福のため建立
せし寺ニ塔頭多宝院ニハ後醍醐天皇の御
廟あり金剛院の開基ハ普明國師あり
光嚴院帝の御廟あり

嵐山

右同村の西南あり

嵐山 大井川を帯て北に向
ある 山なり 龜山 帝吉野の櫻を



標谷の社ハ嵐山の麓あり松尾七社の内ハ
戸難瀬の瀧ハ標谷の西あり大井川の落
合なり座禪石あり山の上あり夢窓國

師あま来り坐禪しあふとん○嵐山城 峯よ
城跡あり細川政元の家人香西又六郎の築く
所なり○藏王谷 城跡の西あり吉野山を
移して藏王権現を安置す○大悲閣を嵐
山の麓に道ありて渡月橋あり七丁をり
西あり本尊の観音の立像ありて恵心の作
あり角倉了意の碑あり林道春之を撰す
了意大井川の巖石を截て北丹波より舟
筏を通り林木の運送を自由す

法輪寺

山渡月橋の南あり

真言宗ありて本尊の虚空藏菩薩の坐像ん
脇に明星天兩童子人當寺天平年中
の建立ありて葛井寺といひ中興の開基
道昌僧都虚空藏菩薩の像を刻み弘法大
師を請て開眼供養すこも當寺の本尊
なり○轟橋樓門の前より橋をり○参

殊に参詣人群集す

松尾神社

葛野郡山田村あり

官幣
大社
祭る
所二
座み
して
大山
昨神
市杵

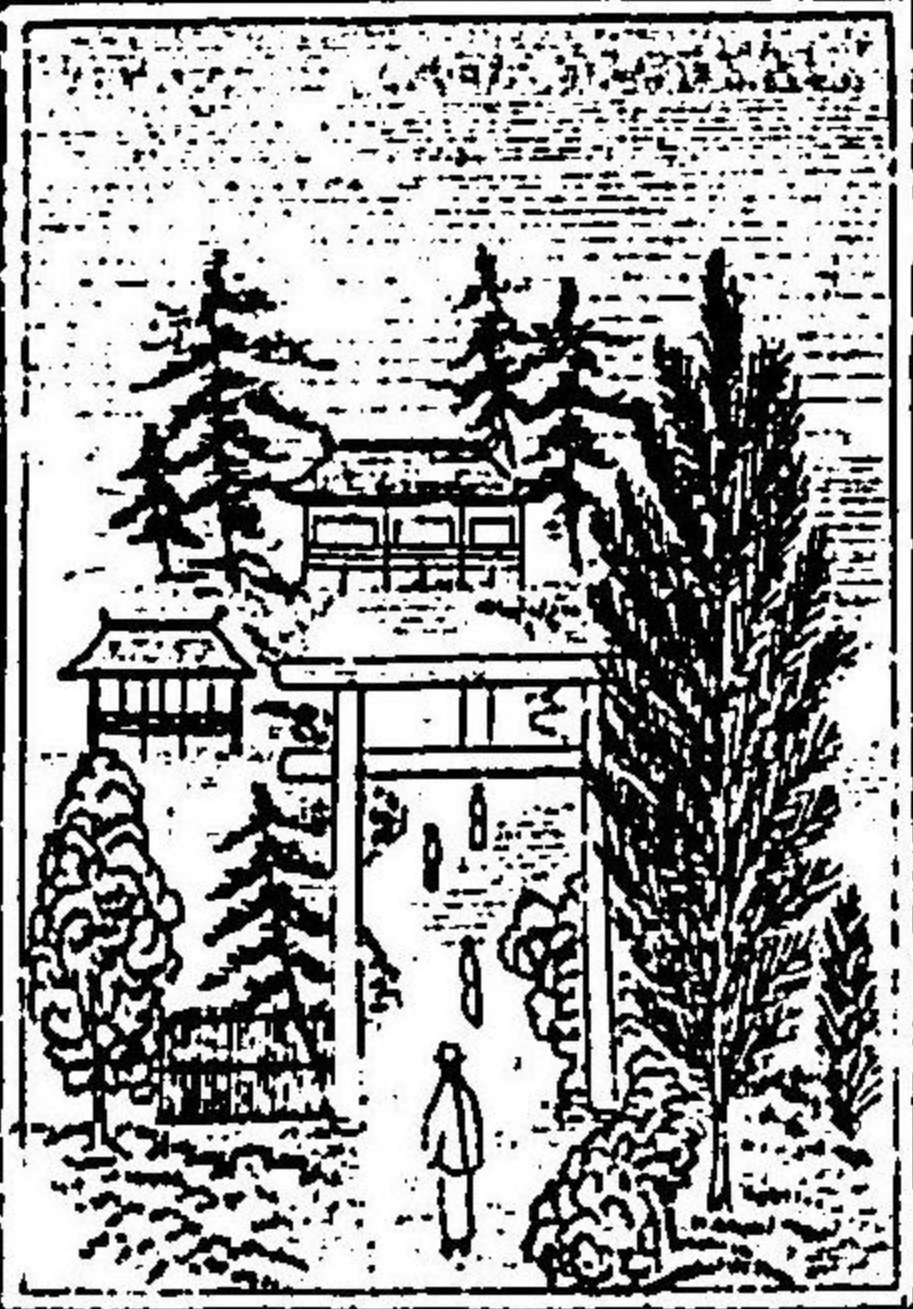


島姫なり大宝元年は秦都理といふ人社を
建て分土山より遷し奉る別雷山の社なり
しらの山なり當社の明神比降臨の地なり
松尾山ともいふ世の酒造家此社へ詣て繁
栄を祈る官祭ハ四月二日私祭五月上酉日

月讀社

松尾より二丁南あり

齊衡三年三月
山城國葛野郡
月讀社を松尾
の南に遷す
文徳實錄



出づり仁壽三年は痘瘡大に流行す此時神
託ありてその害を救ふは是よりして貴賤
痘瘡の災を免んとのめ此社は詣て神の助
を祈るより三代実録あり

梅の宮

葛野郡西梅津村あり

官幣中社祭る所四座ありて酒解神大若子
小若子酒解子神なり相殿あり贈太政大臣
橘清友公と檀林皇后を祭る(此皇后は嵯峨
天皇の御后ありて太子あまきことと常は愁て
酒解神を祈りあり既に感應ありて妊娠

とありま

く則當

社の清砂

を御座の

下敷太

子を降誕

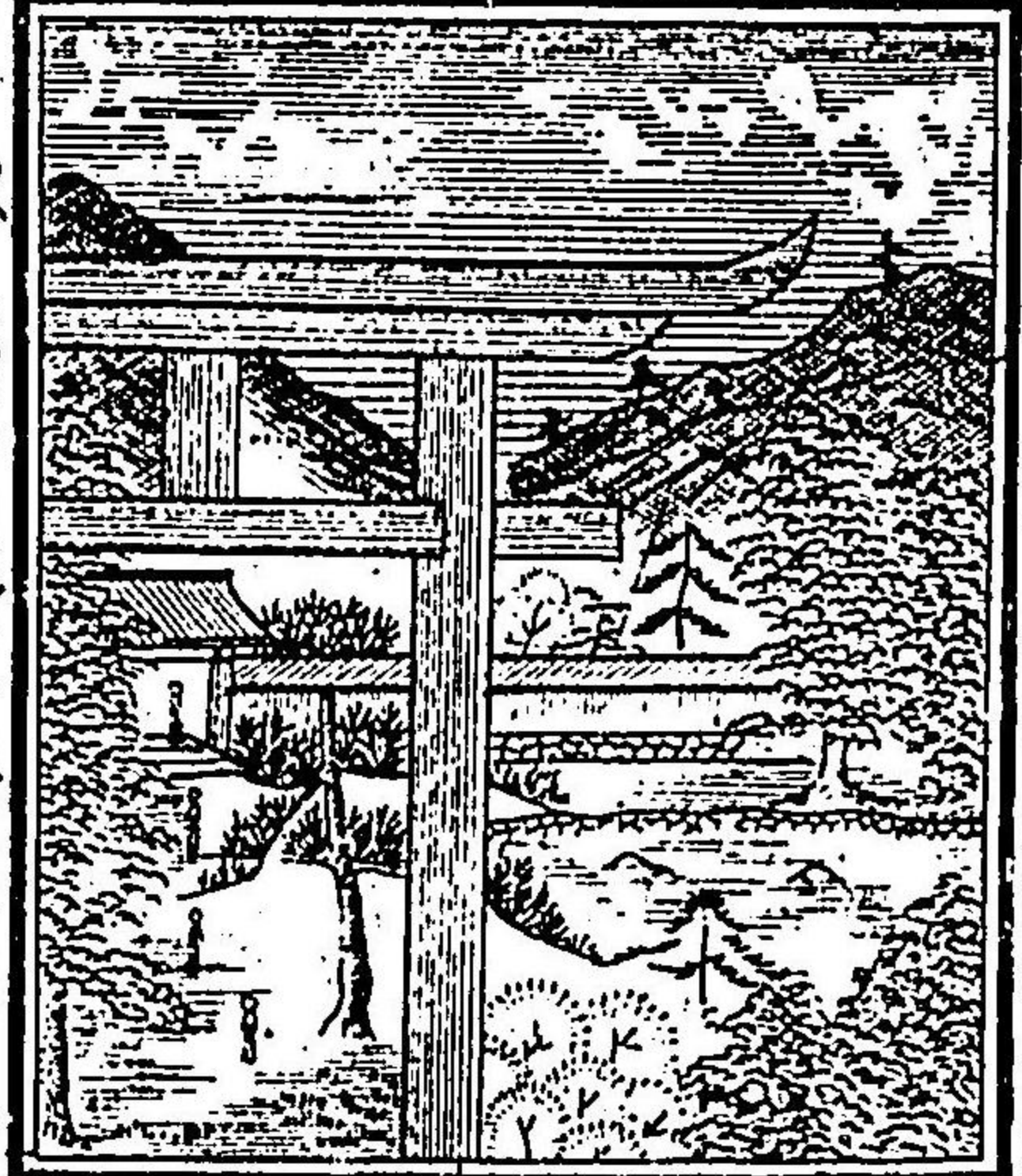
しあふ仁

明天皇是

の砂を取

境内は梅

東は矣れ



たり故み世人産月は臨めは當社

の砂を取て帶襟は佩るは此遺風なりとて

境内は梅樹多し風景甚だしく當社より

東は矣れは四條通の西口は入るなり

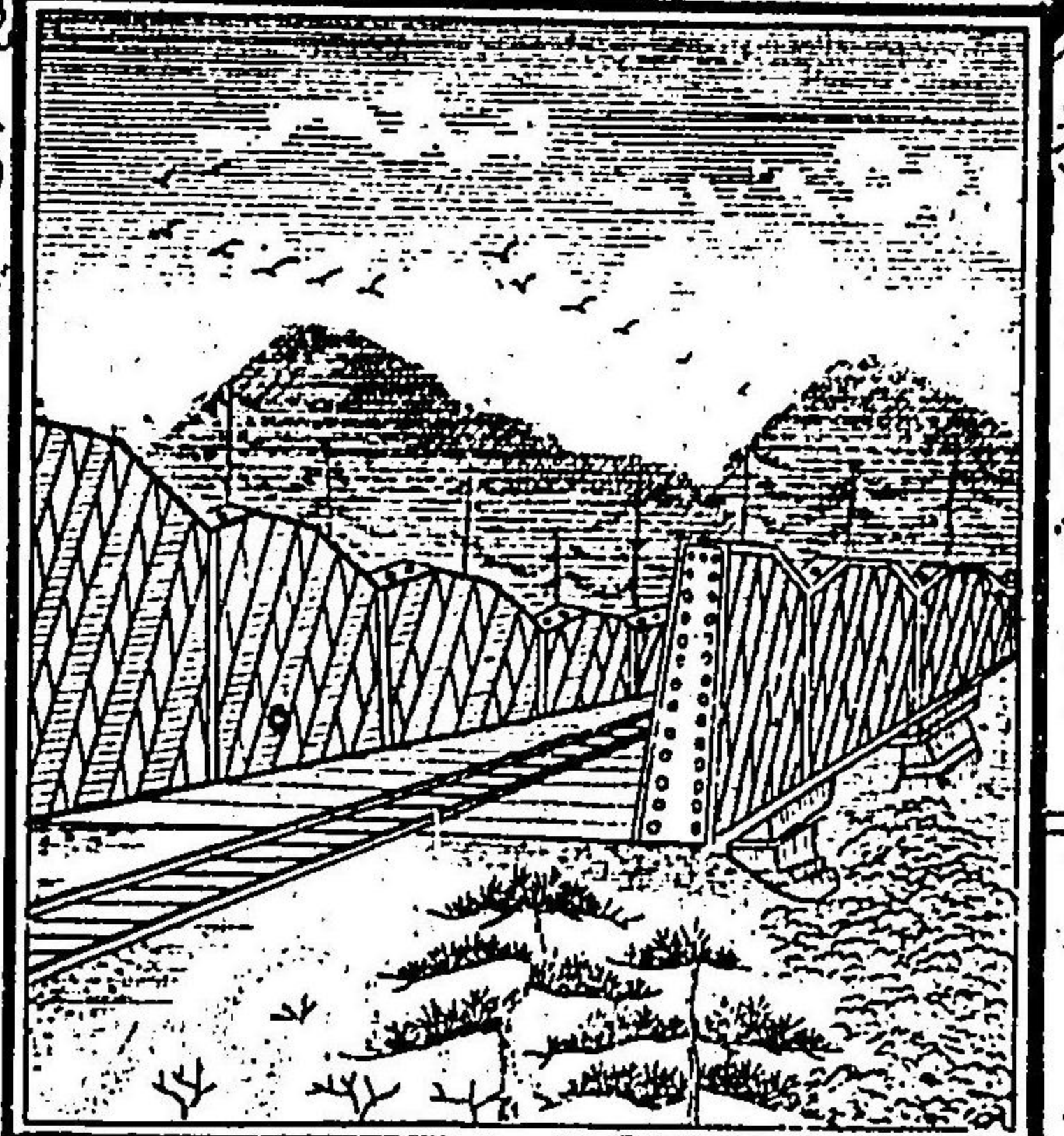
桂川鐵橋へ八丁

桂川の鐵橋

葛野郡西梅津村あり

京阪間汽車の通路ありて明治九年は建築
なり又近村下桂は廻地蔵尊あり華洛七道
の一あり久遠寺は桂の西河島はあり本派

本願寺の掛所の西山御坊と稱す開基の覚如上人



覚如上人の塔の堂の後ありケチくの面(當寺あり)早の年里人これを祭り雨を祈れハ忽其驗あり當村に災あまハケチくと鳴てその凶瑞を知らす故に名とす

大原野神社

乙訓郡大原野村あり

官幣中社にて祭神ハ武甕槌命齊主命天津兒屋根命姪九神の四座あり往昔仁明帝嘉祥三年左大臣冬嗣公之勸請して平

安城の守護神と定めぬ祭ハ二月八日

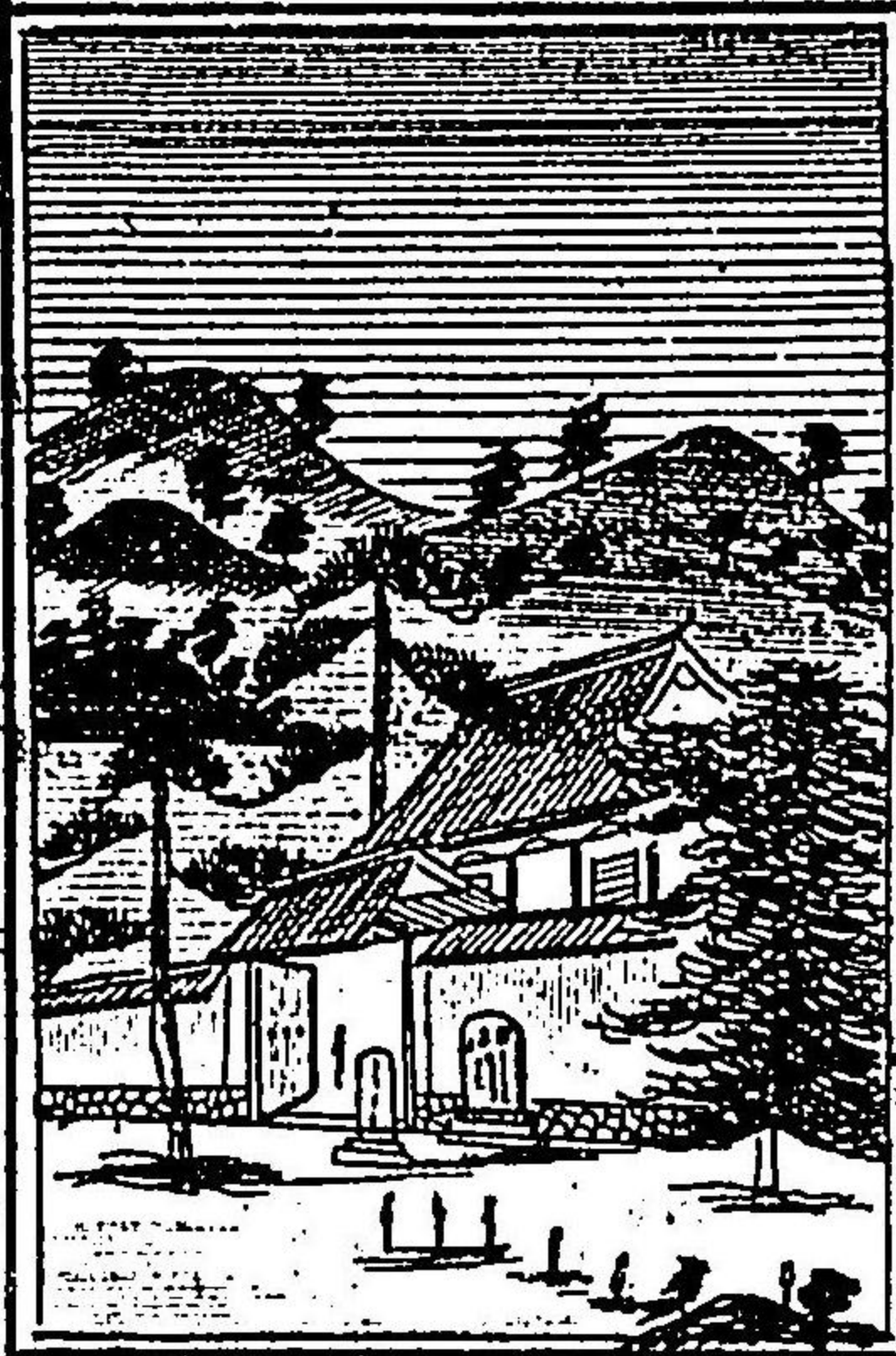


花乃寺

乙訓郡大原野村あり

小塩山勝持寺と号す宗旨ハ天台にて本尊ハ藥師如来傳教大本堂の額ハ小野道風の筆岩窟の石不動ハ弘法大師の作之西行

法師像西行櫻堂前の左右あり西行の菴

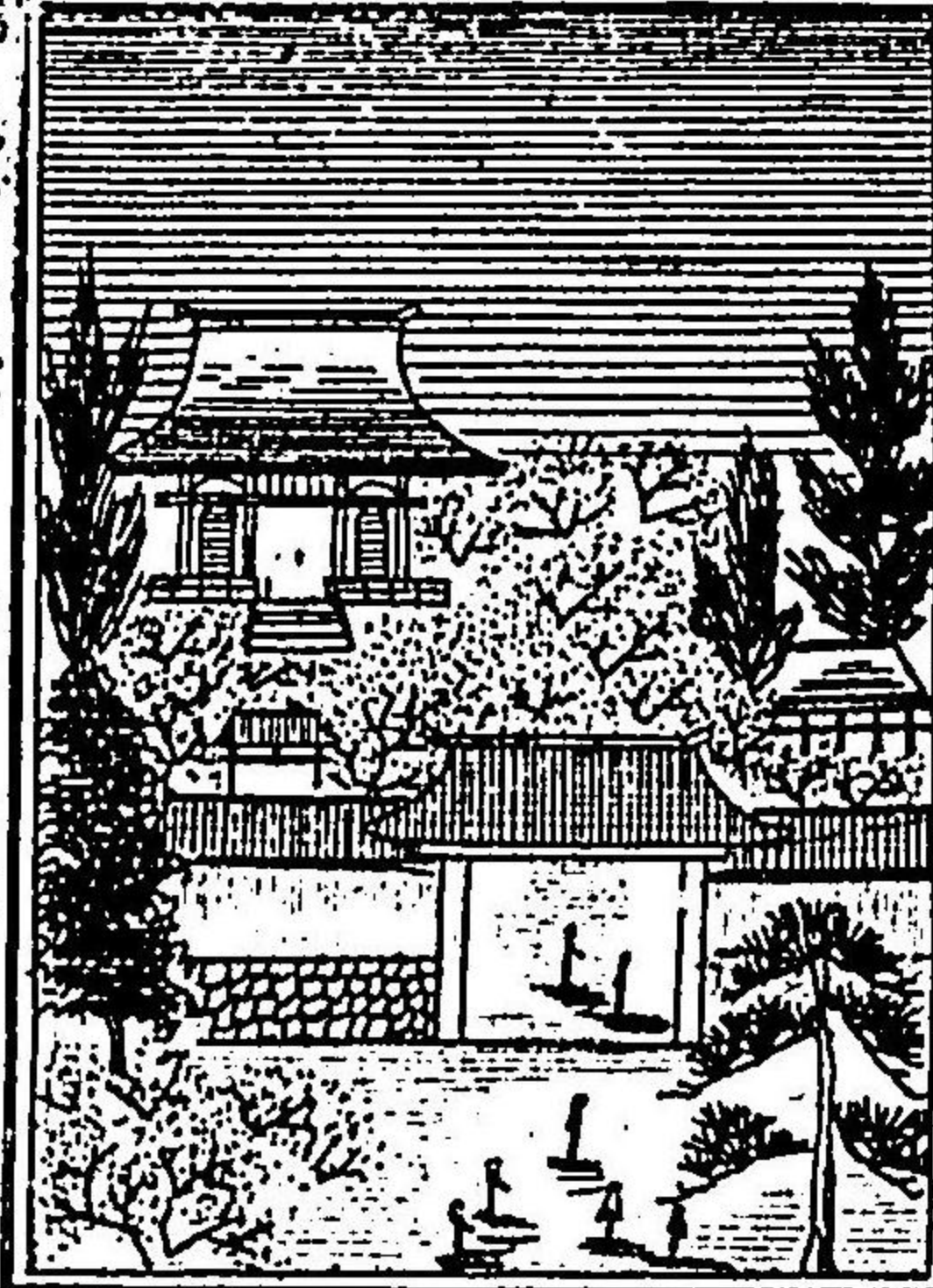


室ハ山上三丁むぐりあり當山の境内に櫻
花多し盛の頃ハ都下の貴賤こゝ来りて
終日花の陰まで哥よみ西行の霊を慰るも
多し

三鈷寺

岩倉の南灰谷の上あり

宗旨ハ天台眞言律
浄土四宗
兼学ヲ
て本尊佛
眼曼陀羅



ハ觀性法橋の筆ハ日本無二の曼陀羅ありて
左右の壇上より釋迦弥陀の二佛を安置す
惠心僧都の作ら當山の絶頂を鬚嶽と云く
三峯ありて其形三鈷に似たるをもつて三鈷
寺といふ甚景色のよき所あり

粟生光明寺

乙訓郡粟生村より

浄土宗西山流義の一本寺ハ本尊ハ圓光大
師の坐像ありて(円光大師四国へ左遷の時
母儀の消息を以て作り玉ふ本尊ハ世に張
籠の御影といふ)阿弥陀堂の本尊ハ惠心
僧都の作りて江州堅田淨御堂千鉢佛の
中尊なり熊谷蓮生法師諸国を負巡りて此
所よと云まり州菴をいとあまて安置す円
光大師の廟蓮生法師の塔ハ本堂のうらち
此山上より當寺の本堂ハ恰好比類なし
後代造立の規矩とす

善峯寺

西山善峯寺
ハ小塩の山上
あり天台宗
ありて本尊ハ



千手観音なり（此本尊ハ加茂の神木觀木ニ
行圓法師靈瑞を得て弘仁法師を招ぎ千手
の像を作らむ是洛陽華堂の本尊くその
餘材を以て六尺の像を作る當時の本尊是
なり白山水宝光坊あり○仙翁石路の傍
あり○阿智坂社ハ當山へ登る七曲の中
にあり此寺の守護神なり

柳谷観音堂

乙訓郡柳谷あり

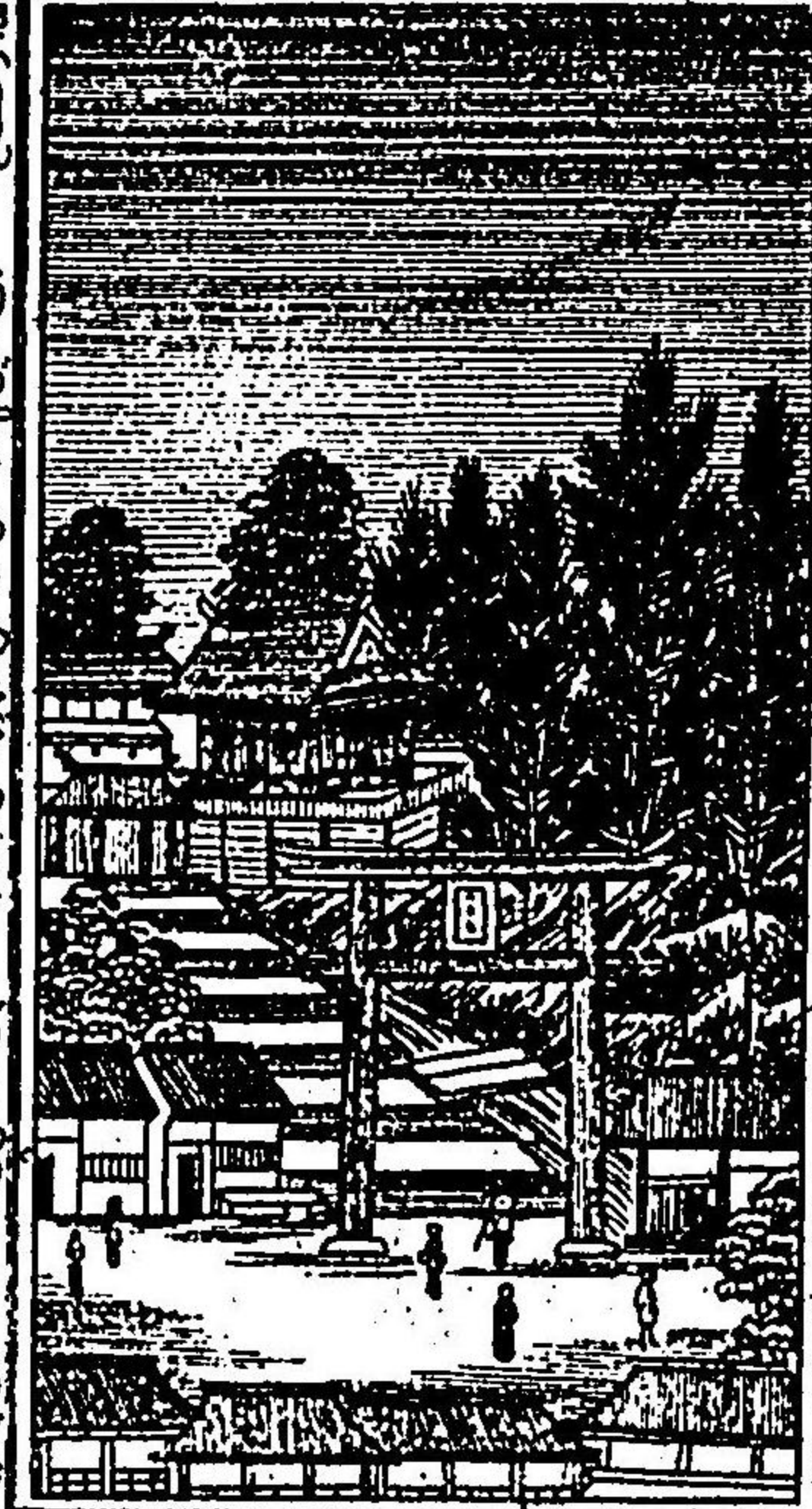
立願山
揚谷寺
と号す
本尊ハ
千手観
音ハ
て將軍
地藏毘



沙門天の脇士あり當寺ハ白川院の御宇水
觀上人閑居の地ありて此本尊を感得し玉
ふ○揚柳の瀧ハ本堂の下壇左あり諸人
此所ニ籠りて痛苦をまぬるも（此山あり
一流の溪川瀑々として石ヲ鳴て流れ小倉
の鳥居の前を経て山崎の北より淀川入
る）これを五位川といふ

向日神社

乙訓郡向日町あり



祭神ハ鷲鷯羽菅不合尊なり地主神ハ本殿
の南にありて白日明神と号す石座神降

臨の地ハ鳥居の内道の半ニあり

向日山ハ當社の山を以て又鳥見山とも云ふ

○此所ニ京阪間の鐵道ステーションあり

京都七條ステーションより二里あり

長岡天満宮 乙訓郡開田村ニあり

當社ハ菅丞相を祀る神殿の額ハ靈元帝の

震輸入社記ニ曰菅丞相太宰府よりつぎ

あふとを暫く此所ニ駕をとめあふあり

東小路

祐房と

つもの

此地ハ

て隨ひ

奉りて

御名残

をわ



みくらノ菅丞相にぐらう尊容をうつし祐房より玉ふ後ニ小社を管て長岡天満宮と崇め奉る。社頭の左右ハ池塘廣くして風生いてハ細浪漲り萍茂りてハ魚鱗かくる汀ハ梅櫻紅葉多くして風景は

天王山 右同郡大山寺ニあり

天王の社ハ素盞鳥の御子ハ王子を鎮座し玉ふなり鳥居此額ハ小野道風の筆なり例

祭ハ四月八日ありて神輿三基あり當社勸

請の年代詳

ならず神殿

梁の銘ニ曰

養老二年再



奥と書す

觀音寺ハ天王山の東半腹にあり真言宗よ
して佛殿の本尊ハ觀世音の立像聖德太子
の作く當寺の客殿より淀八幡の風景眼下
よ遮て魂を傷る此佳境なり

寶寺

右同所あり

補陀落山寶積寺

といふ真言宗

して本尊ハ十一

面觀世音の立像

して聖武帝行基

菩薩の兩作く當寺の什宝よ打出の小槌あり

聖武帝の御宇龍神捧しものなるより

妙喜菴ハ寶寺の麓にあり禪宗ありて本尊

十一面觀世音に千利休此所よ住して二疊

敷の園を建る秀吉公ありく渡御ありて茶



此湯ありしとぞ

離宮八幡宮

神殿ハ八幡宮を崇奉りて社壇の下にハ

石清水涌出す鳥居の額ハ行成卿の筆あり

○此所の西よ山城福津の國界ありこれより

大阪に至る是を西街道といふ

○離宮ハ幡宮の前より淀川の岸へ出て舟

渡しを越へ橋本より男山よ詣て淀の方へ

下り横大路鳥羽を経て東寺よ戻り京よ入る

城南神社

紀伊郡よ鳥羽村よあり

伊勢石

清水加

茂松尾

平野稻

荷春日

の七社



を祭る

男山八幡宮

級喜郡八幡莊旭奉あり

官幣大社にて本社八三座を祭る應神天皇玉依姫神功皇后あり清和天皇貞観二年

創建
境地廣

大やし

て攝社

末社多

く楠正

成の裁

一楠の

大木東

社殿

伏見墨染

墨染ハ鐘水町の北三町をうりにありむし



紀伊郡あり

大木東回廊の外あり希代の大木あり○

社殿黄金の通あり麓は放生川あり

此所までハ深草といひて野邊ハ櫻多し

寛平三年堀川太政大臣昭宣公薨し玉ふ時

上野岑雄哀傷の和哥を詠せし此より

此櫻墨染ハ咲しとたり

古今集 深草ハ野邊の櫻し心ありハ

此春なかり墨染まさけ

墨染寺ハ同所南側あり清和天皇降誕の

舊地ハ今ハ法華宗にて日秀上人開基す

○京橋邊より

大阪への下り

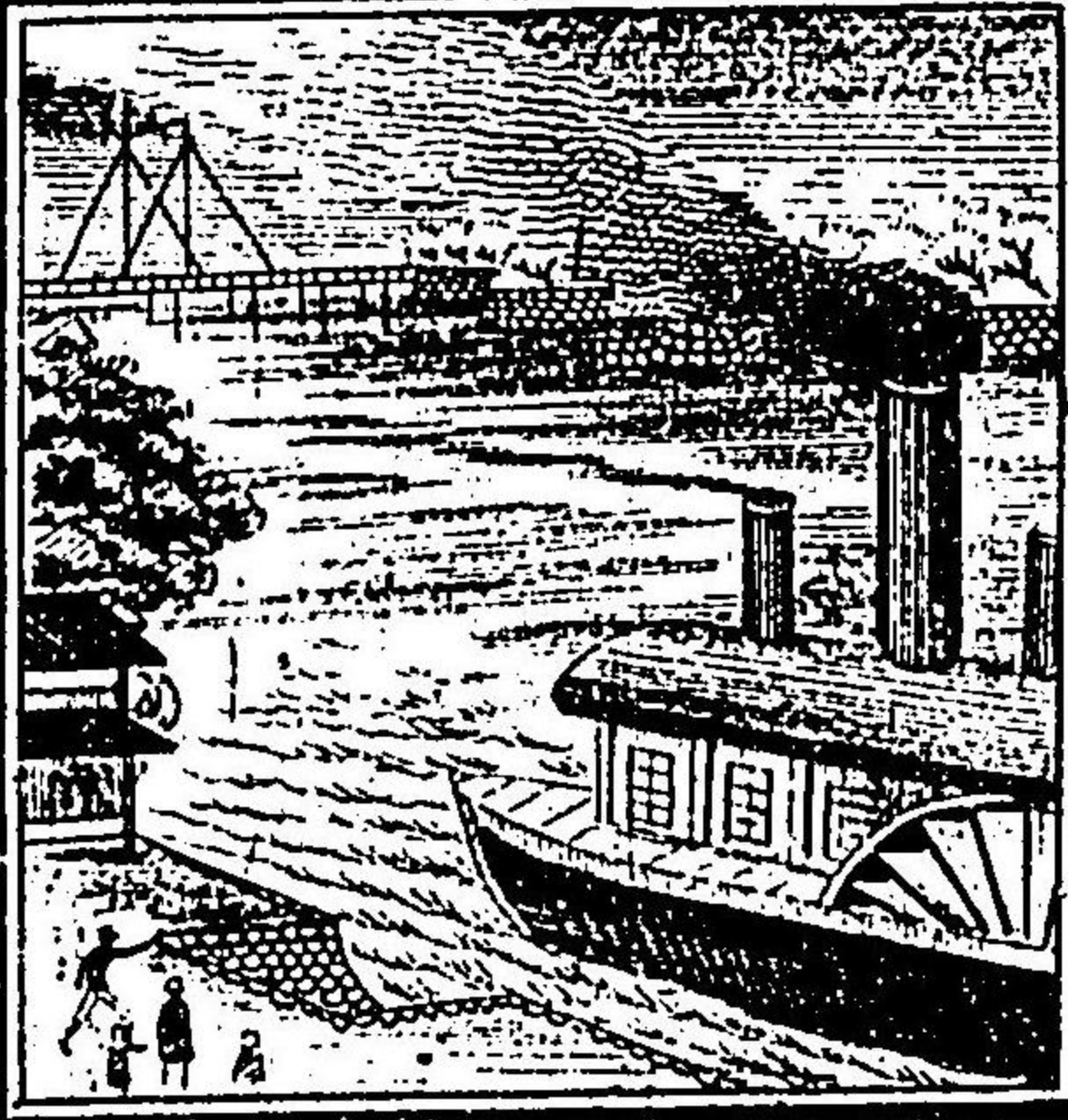
船ハ晝夜み出

又汽船も晝夜

数度出るなり

この近邊ハ旅

宿屋多し



欣淨寺

墨染の南あり

海土宗ありて本尊は阿彌陀佛を安置す
聖徳太子の御作なり此地は古
少將の第宅なり少將の塚小野小町の
池あり

伏見市街の東あり

山上に宇治見臺といふ
所あり殿下宇治川及び巨椋湖を眺望す
絶景の地ありて梅桃の花を賞する都人
遊ぶ

宇治平等院

久世郡宇治橋の南あり

天台宗なり初河原左大臣融公の別荘
其後陽成院此地は行宮を建られ宇
治院と号す長徳四年十月御堂関白此院を
得て山荘と遊覧の地とす五ひ其後子息
宇治関白頼通公永承七年は寺となして平

等院と号す○佛殿ハ鳳凰と象り左右の高

樓回廊を西翼と一後背の廊を尾とす棟の

上は雌雄の鳳凰あり金銅を風は随ふて舞故

鳳凰堂といふこをハ永承年中頼通公建立

り曾て回廊の災あり○本尊阿彌陀佛ハ

長六尺の坐像ありて定朝の作く堂内の長

押は廿五菩薩の像あり同四壁并三方の唐

戸は浄土九品此相を画く繪師の長者為成

の筆は天蓋瓔珞等ハ七寶を鏤め古代の作

物ありて美麗莊嚴他よりびなく○扇の芝

ハ源三位頼政此所と於て自殺す○駒繫松

頼政馬をうつるを鑑懸

所なり

松頼政鏤をぬき阿字池

鳳凰堂のめぐりある池に鐘

恵心僧都の作く

この鐘は三井寺のうつ

標しりて本朝三鐘の

其一なり

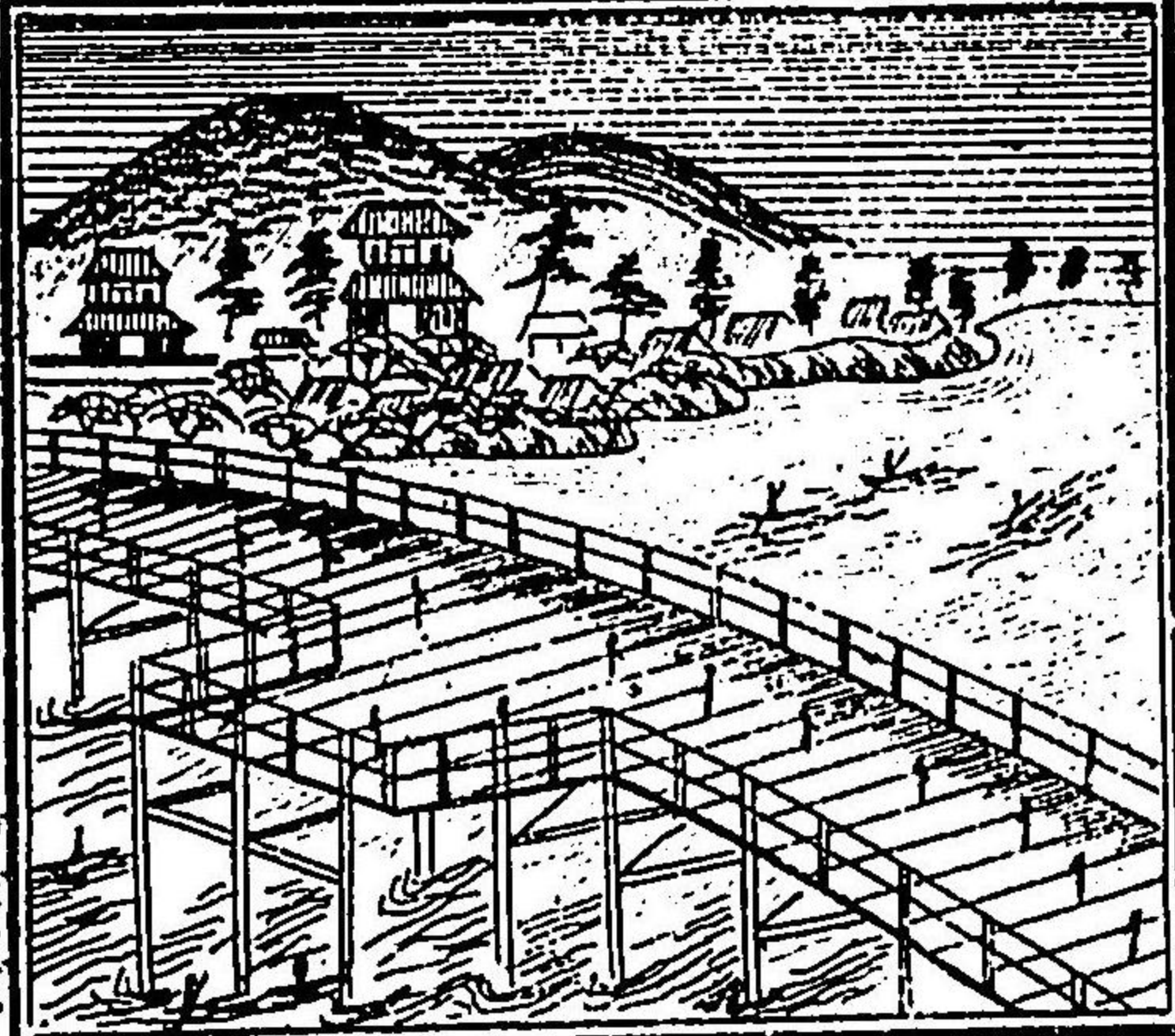


宇治橋

もどめい孝徳
天皇の御宇大
化二年元興
寺の道昭和尙
此橋をりけし
なり長さ八十

三間五尺五寸

○三間水 山城の名水なり李吉公伏見御在城
の時常よ汲り玉ふとふ○通圓か茶屋ハ
橋の東詰ありつゝよりへよりゆたの人の茶
を商ふ茶店よ通圓が像あり



興聖寺

久世郡宇治川の北にあり

曹洞宗よりて開基は道元禪師あり正保年
中万安和尚中興して諸道へ淀城主永井直
政の建立なり川岸より門前までを琴坂と

つゝ左右に櫻紅葉をうけて山吹を透垣と

す○観流亭 岸の久東の亀石河にあり中宿芝心
院下岸の



三室戸寺

宇治郡三室戸村にあり

明星山といふ
本尊千手観
音の閣浮檀
金の立像心
宇治山の東
岩瀬の水底

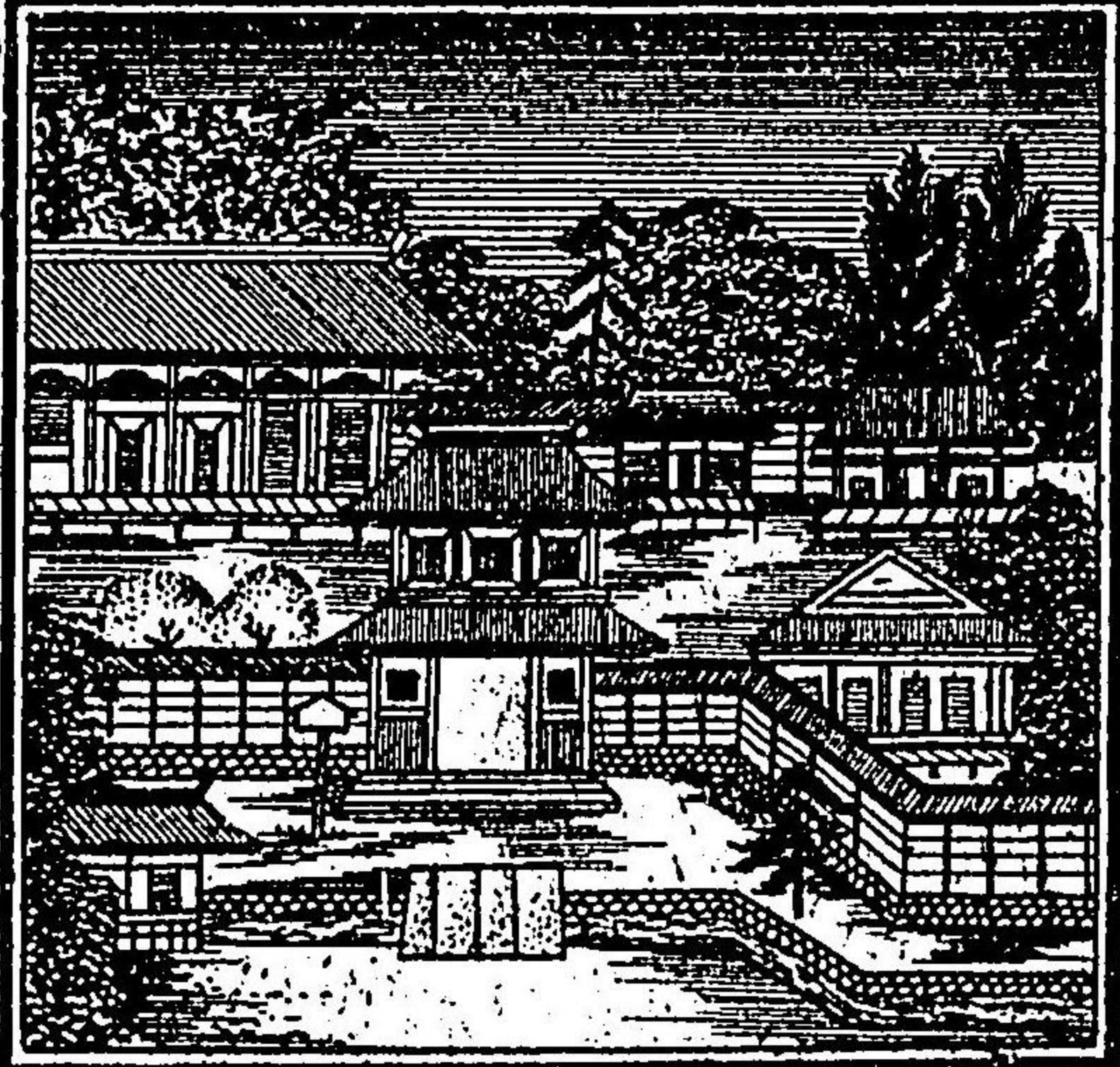


より出現す。西國十番。天台宗よりして智證大師の開基人

黄檗山万福寺

宇治郡大輪田村あり

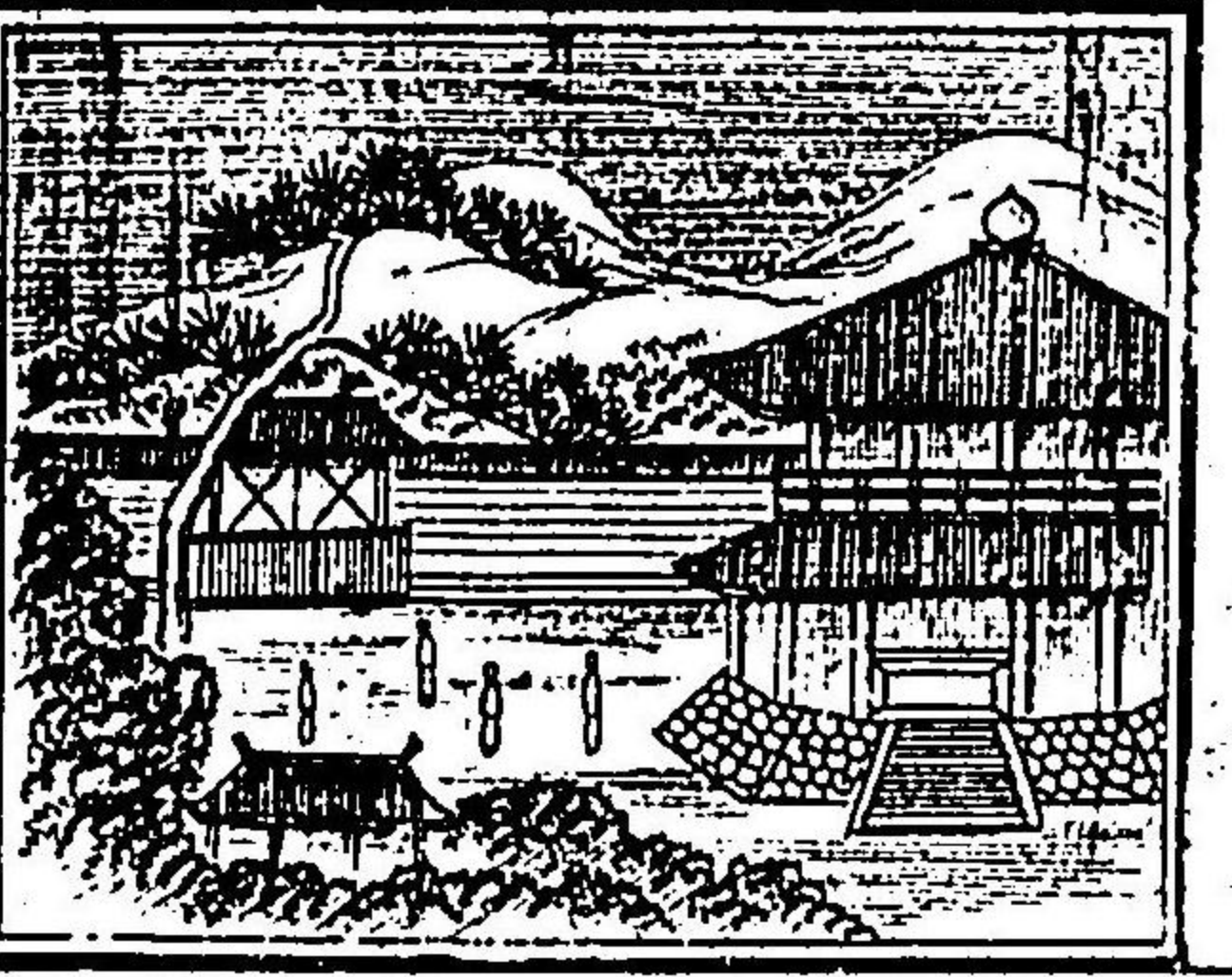
開山隱元和尚の大明福州の人なり承應三年東渡し万治二年公命此勝地を賜り寛文元年九月より伽藍を草創し精舎の經營多くなり支那風をうつす同十三年四月後水尾上皇より大光普照國師の号を賜ふ



日野薬師

宇治郡日野村あり

東光山法界寺より本尊薬師如来運慶の作人後壇より丈六の弥陀の像を安置す定朝の作人世に乳汁の不足なるもの祈願をこむる靈驗あり



醍醐寺

宇治郡醍醐村山上あり深雪山と号す

真言宗にて理源大師の開基人如意輪堂の如意輪觀世音



を安置す西國順礼所第十番入

三寶院

山上を上醍醐
朝しのひ麓
を下醍醐と
号す法務の
三寶院御門
跡と称す
櫻の名所なり



勸修寺

宇治郡勸修寺村あり
真言宗あり本尊觀世音延喜帝御等身
の像あり

花山元慶寺

宇治郡北花山村あり
天台宗の本尊藥師如来
僧正遍照



の作なり八皇六十五代の帝此寺より剃髮
し玉ふ故に花山院と稱し奉りし

御香宮

紀伊郡伏見城山の西あり
神功皇后を祭る
御香水の鳥居の傍あり此水よりして名とす

藤の森神社

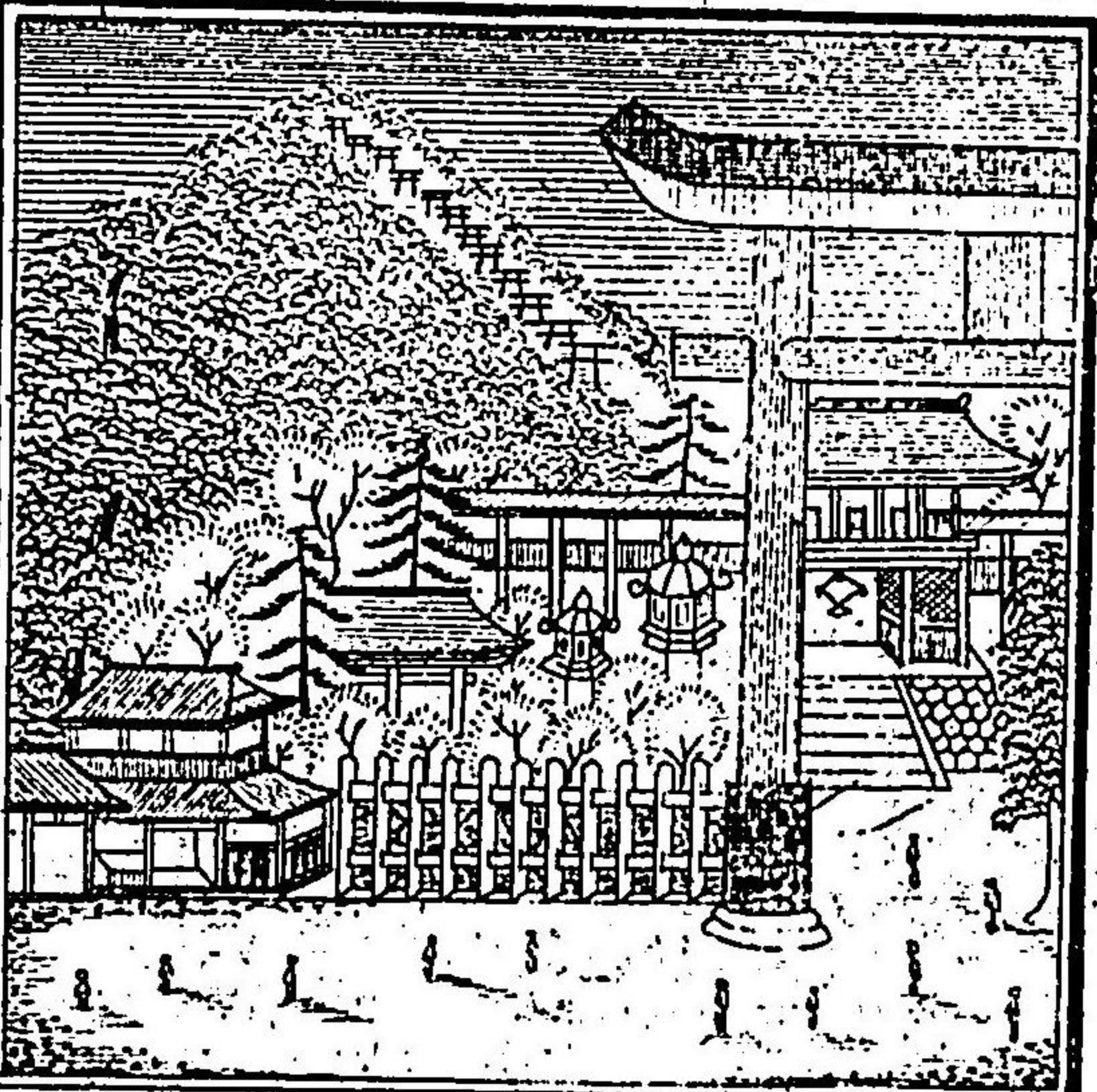
紀伊郡深草あり
本殿の中央に舎人親王東へ早良親王西へ伊豫親王を祭る境内に旗塚蒙古塚あり



稻荷神社

紀伊郡伏見街道南あり

官幣大社なり
人皇四十三代
元明帝の御宇
和銅四年二月
十一日午



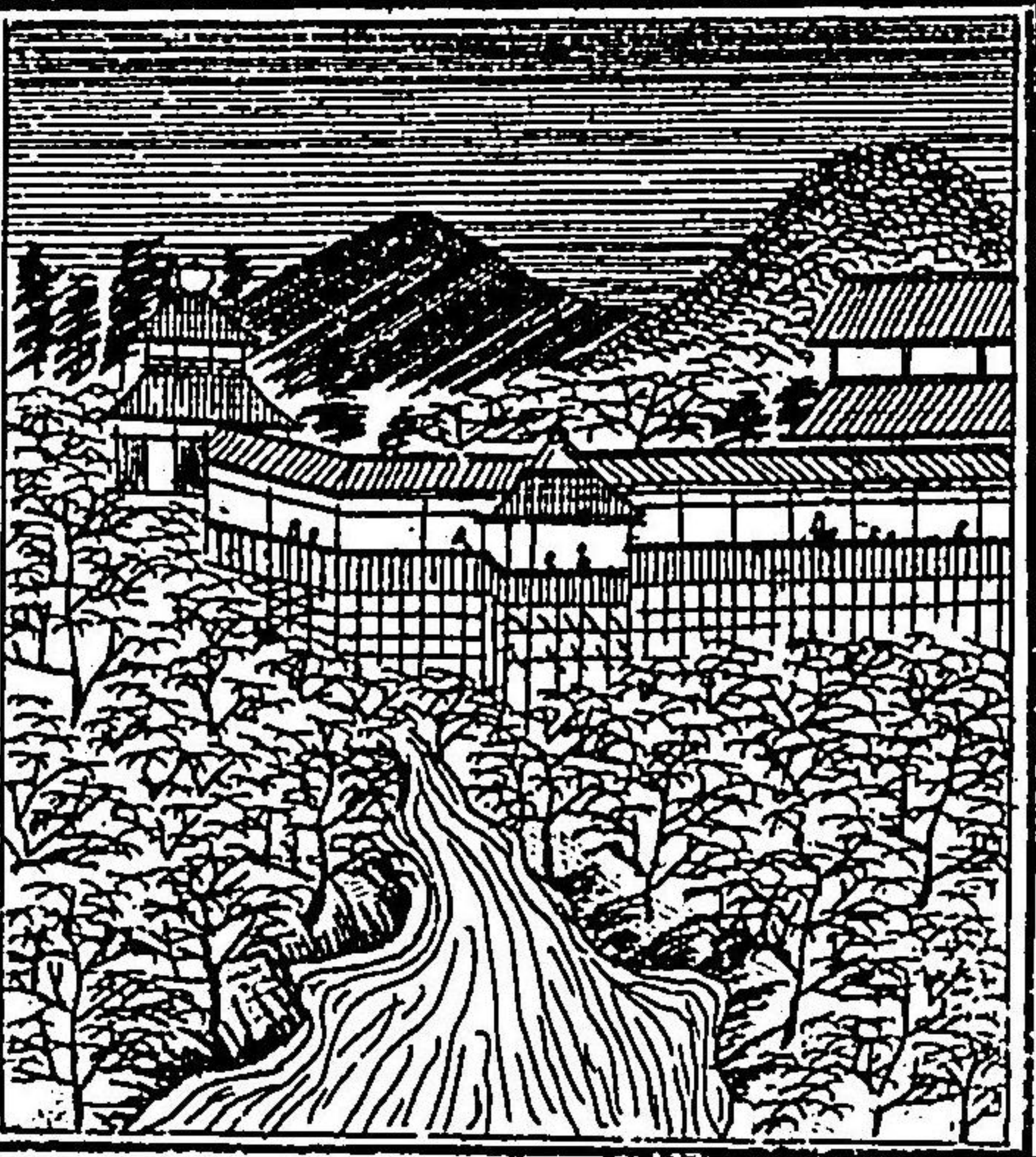
の曰此山より出現し玉ふ本社第一宇賀御魂
神第二素盞尊第三大市姫上田中社四大
神此二神を併せて五座と称す弘長三年
告あつて文永年中より併奉るなり又田中社
の客人神大歳神ハ鶴と化して稻此實を
含んで来現し玉ふ二月此初午参りし和銅年

中二月初の午日出現より恒例の祭事とする
官祭ハ四月九日私祭ハ五月上旬の卯の日ハ
神輿五基渡御ありこれより東福寺へ七丁
門前ニ京阪間鐵道ステーションあり

東福寺

本町十八丁目あり

恵日山と号す
五山の第一
開山ハ
聖一國師
當寺乃
涅槃像



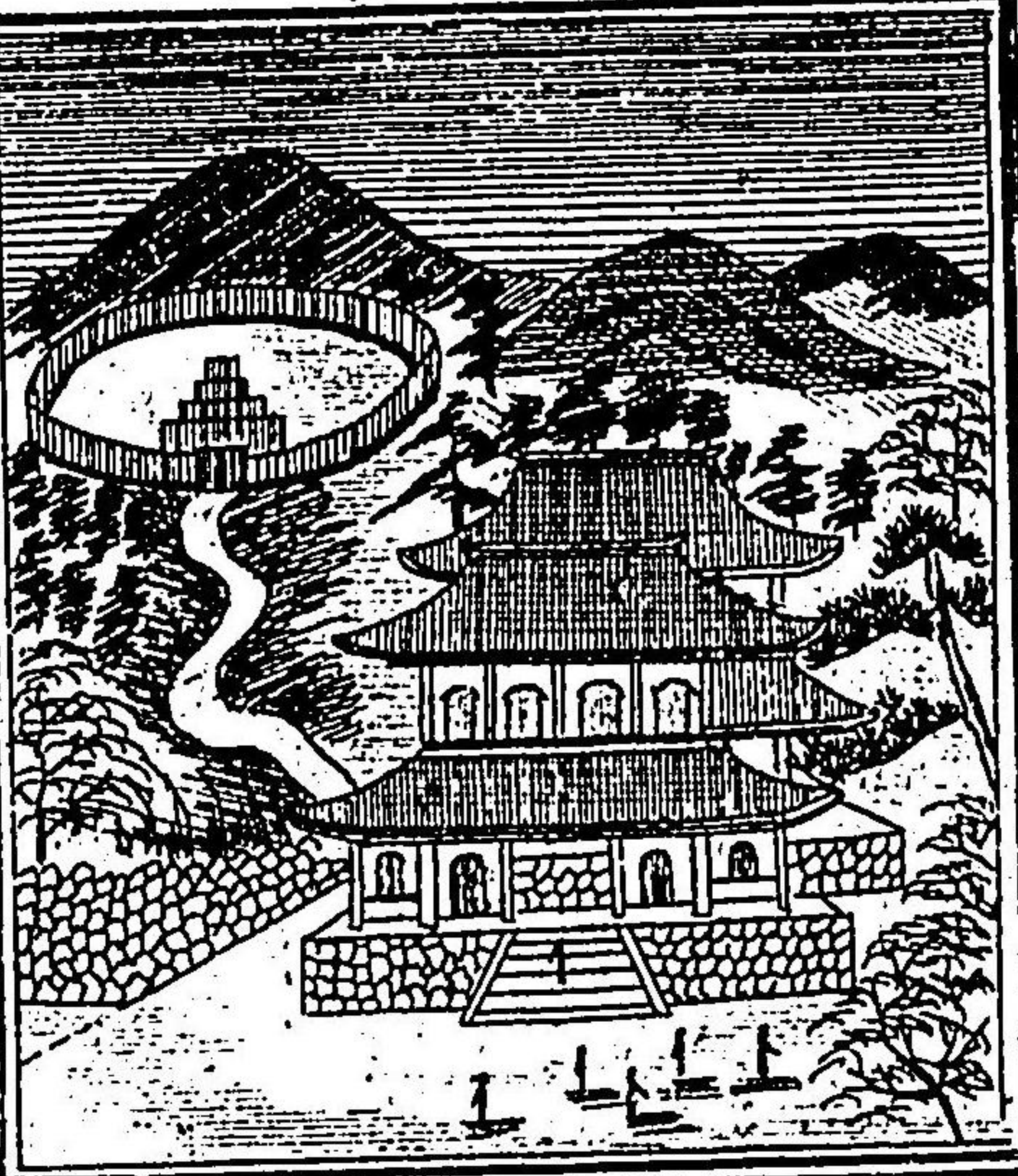
ハ兆殿司の画して世に名高し方丈の額
ハ張即之の筆選佛場の額ハ徑山無準の筆
ハ通天橋の額ハ普明國師の筆橋下の溪を

洗玉礪とふ此のく楓多し秋のすへ
紅錦の色さあかりルまバ洛陽の奇観

泉涌寺

愛宕郡今熊野村あり

弘法大師の開基なり
中奥の開山ハ
俊祐法師とせ
より以



来天台真言禪律の四宗を兼學す天子の官
寺とすハ八十六代四條院を權輿とす是
より以來代々の帝當山へ葬り奉る陵ハ前
帝神主殿の前あり

新熊野觀音

右同所あり

真言宗善能寺
と号す本尊觀
世音ハ弘法大
師の作あり
西國十五番の
札所あり

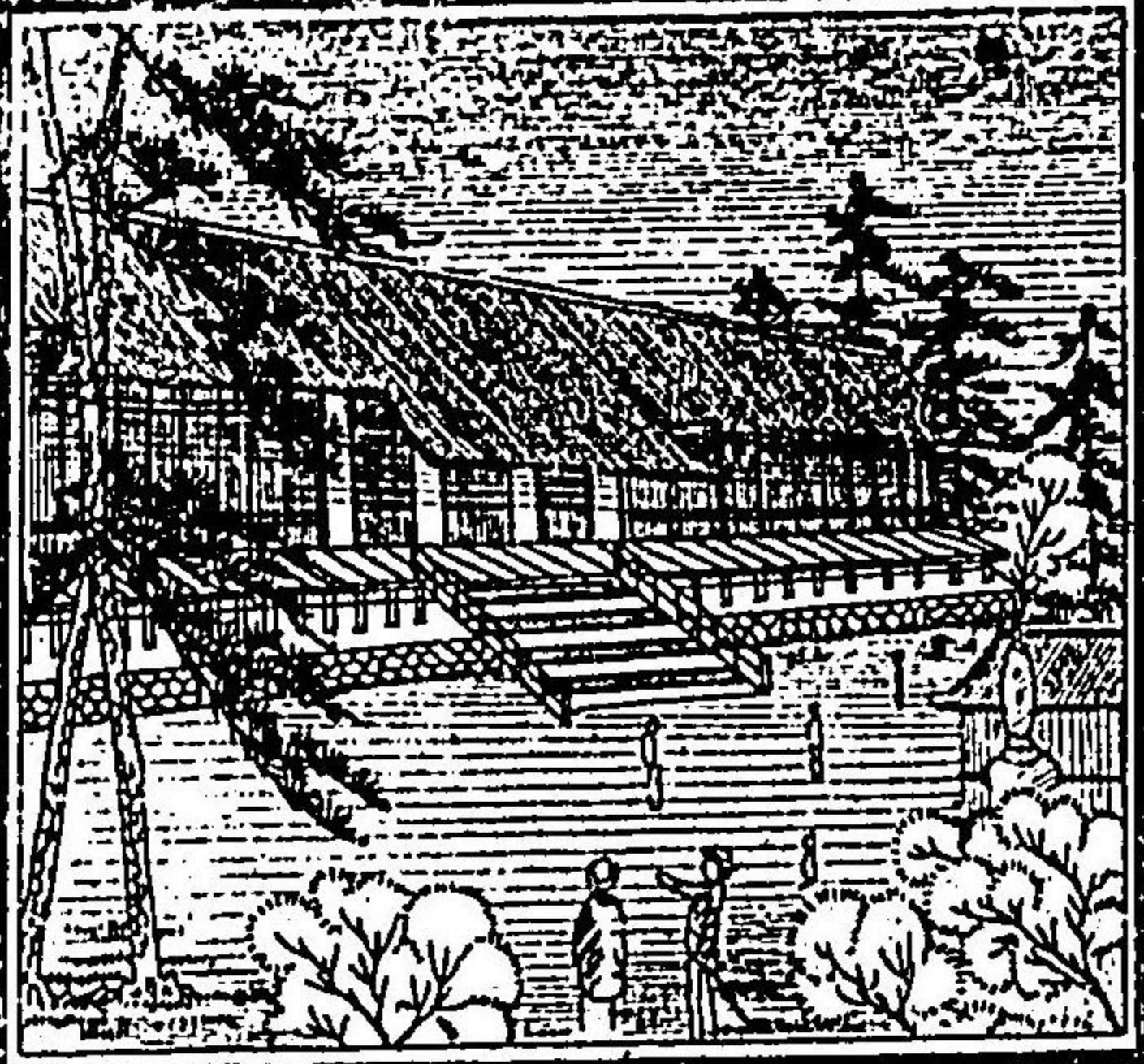


これより三十三間堂ハ八丁あり

三十三間堂

七条通の南あり

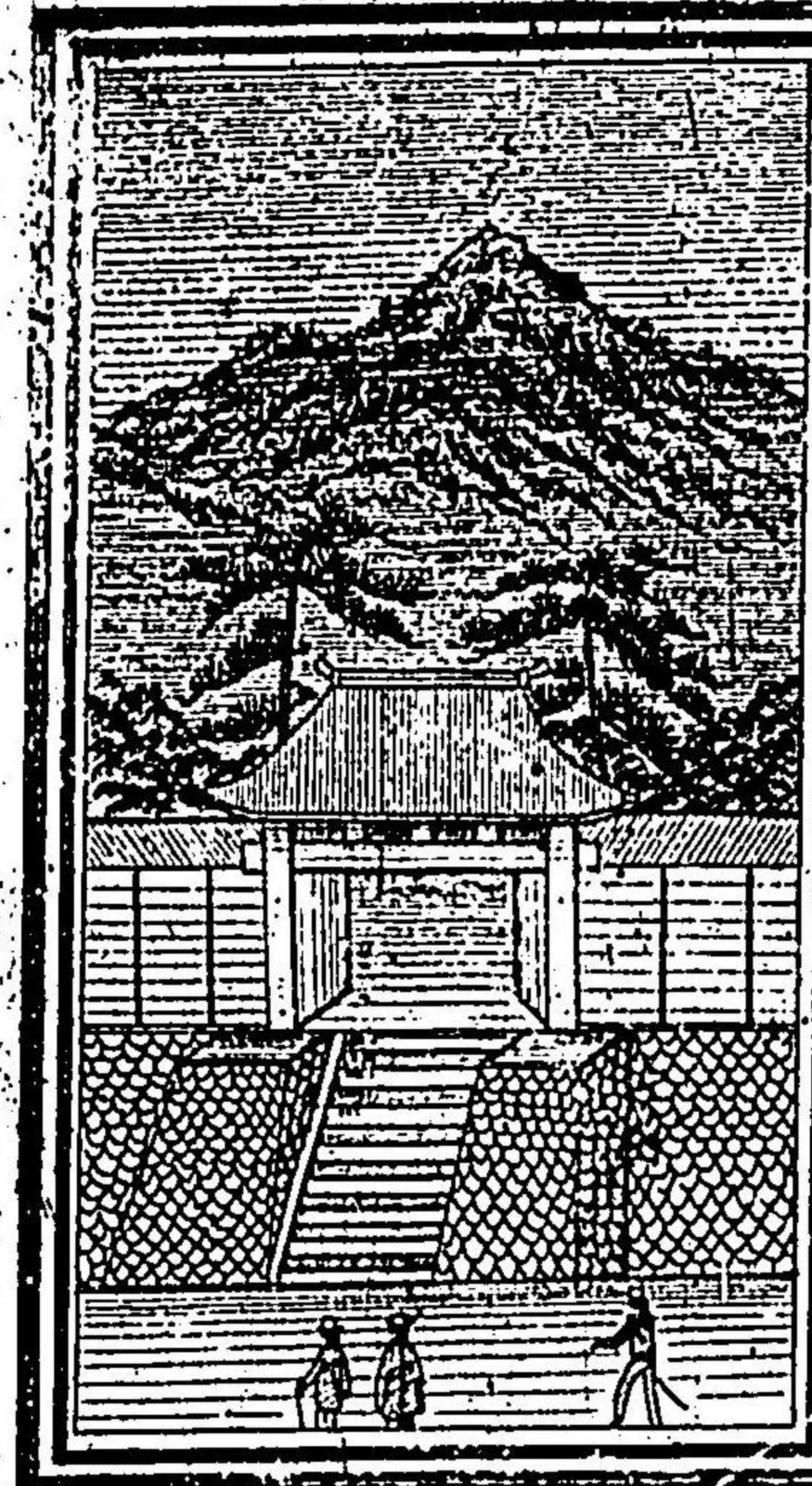
蓮華王院と号
す後白川院の
御願として平
忠盛奉行し建
立す(堂東向南
北六十六間ハ
二間を隔て柱
を立とれハ三



十三間堂とりよ本尊の千手観音の坐像お
して御丈八尺作の康慶あり二十八部衆各
壇上の安置す千手観音一千體の堂内左右
まきしはす運慶湛慶の兩作なり○む
堂のしりら大矢敷あり連年詰候の家臣
出て射術の譽を争ふ當所より通矢の檢證
出て其一を得るものゝ金銀の座を渡す貞
享三年紀州和佐基八郎總矢一万三千五十
三通矢八千百三十三みく一を得たり

智積院

十三間堂の東北にあり



智積院ハ宗旨新義真言なり本尊ハ不動明
王興教大師の作當寺ハ豊太閤の子兼君追
福のつめ草創し祥雲寺とりよ紀州根来
寺滅て後新義派の徒を敷きて愁訴す
是より祥雲寺を賜て智積院と号し新義
派の學室となる

豊國神社

京都市大佛正面にあり

別格官幣社豊太閤を祭る官祭ハ九月十八日明

治十年

四月十八日

私祭を

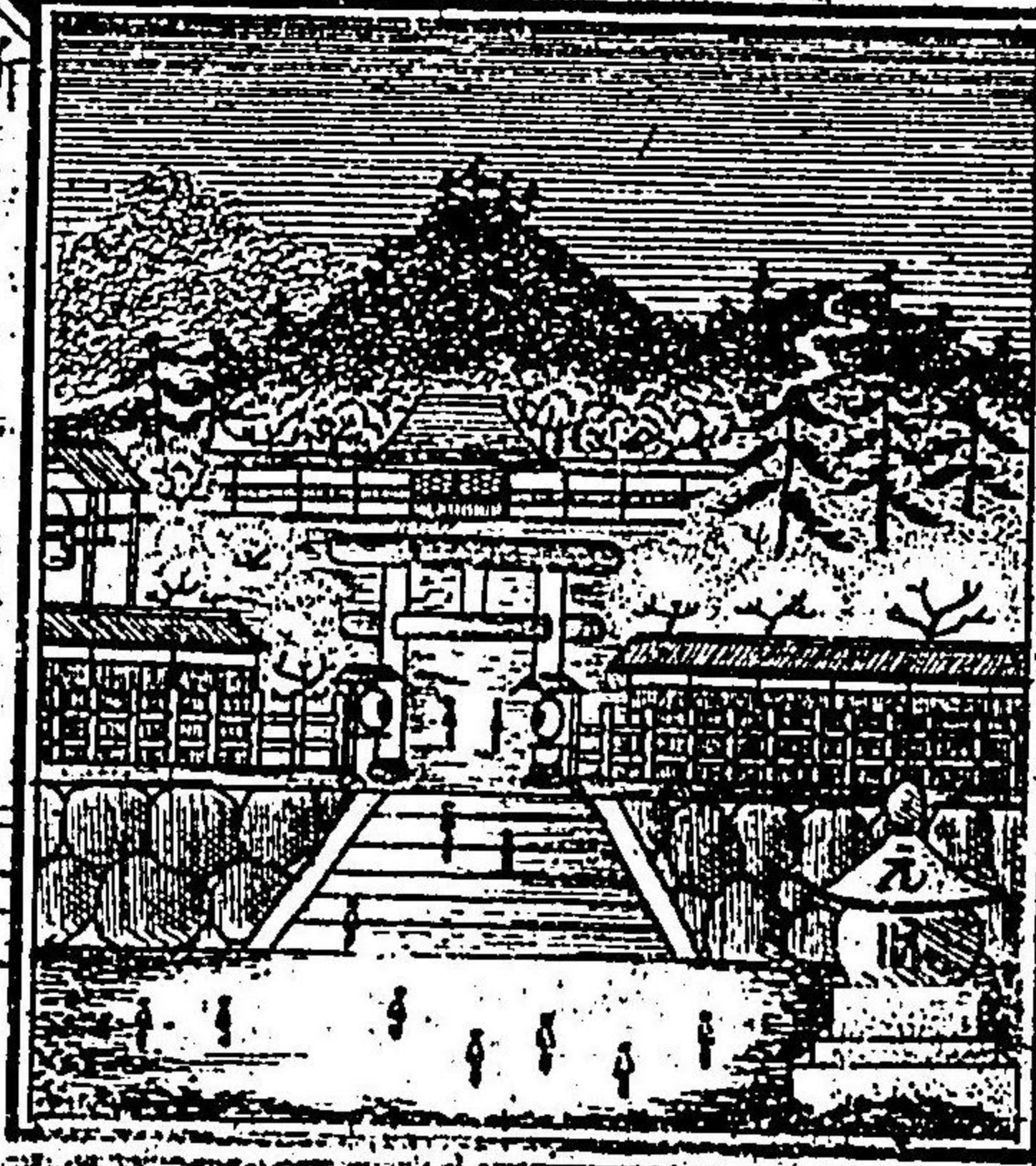
再興す

後山阿

弥陀ガ

峯ハ豊

太閤の



新
三十一

廟あり大佛方廣寺の北に地續さん

大佛方廣寺

右同所あり

天台宗

天正十四年

豊臣秀吉

公の建立

みくろ寛

政十年回

禄す其后

今の半像

を作る

大鐘高さ一丈四尺経り九尺二寸厚さ九寸

慶長十九年豊臣秀頼の鑄造なり

耳塚

右同所あり

文祿元年朝鮮征伐の時先鋒如藤清正小西

行長等より敵の耳鼻をとり秀吉公の実檢



よ入れ

を此塚

に埋め

國威を

不朽

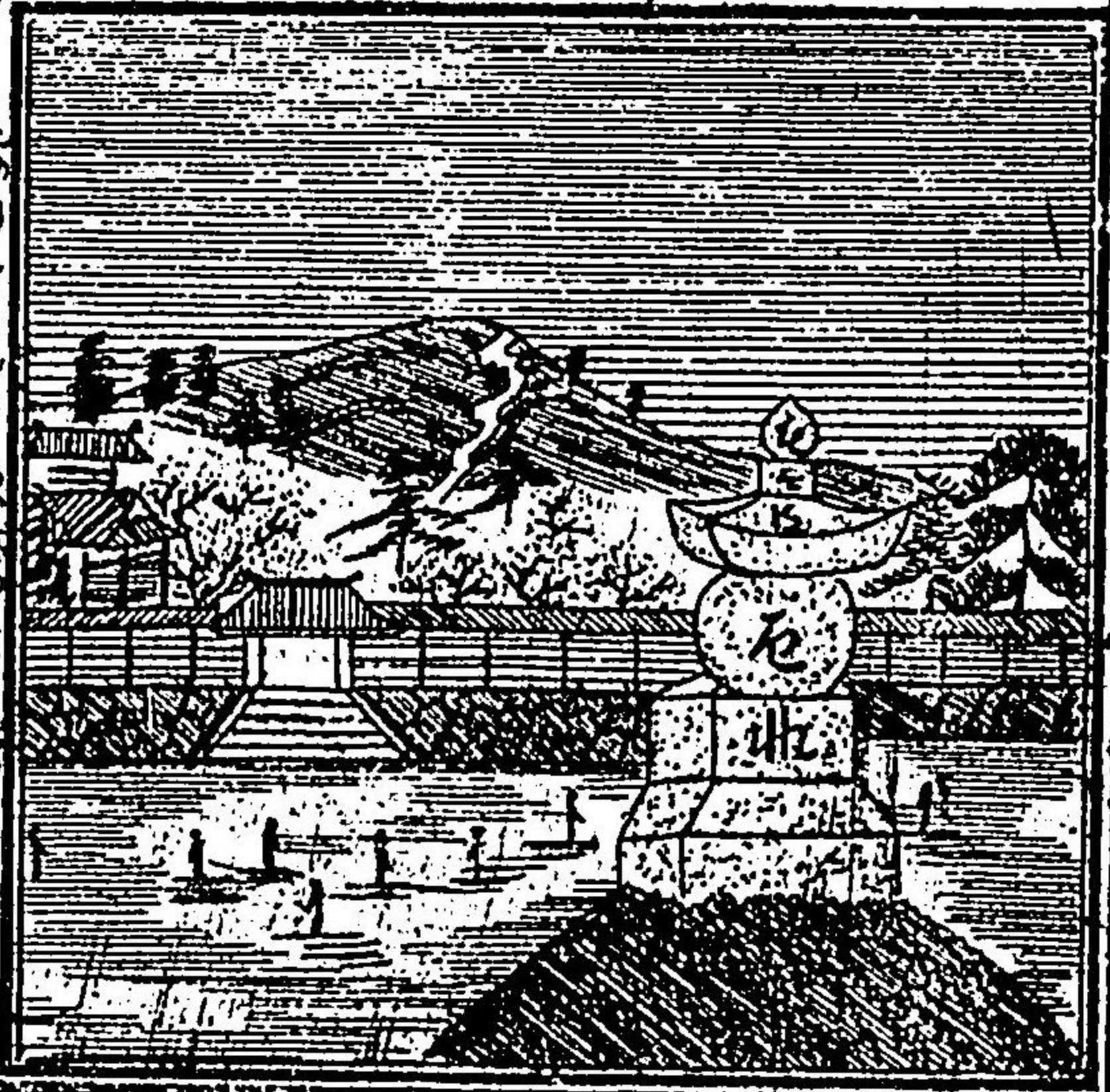
傳る所

りて巨

大の五

輪の塔

を建るなり此西の方名物の大佛餅あり



小松谷正林寺

大佛殿の東北あり

宗首ハ浄土本堂ハ殿舎作りよりして九條殿

よりの御寄附とて法然上人此御堂より

ルと黒谷傳記にあり○此所より西人家の北

の方谷あり是を小松谷と云ふ小松内大臣重

盛公の山莊として燈籠堂の地あり

歌中山清閑寺

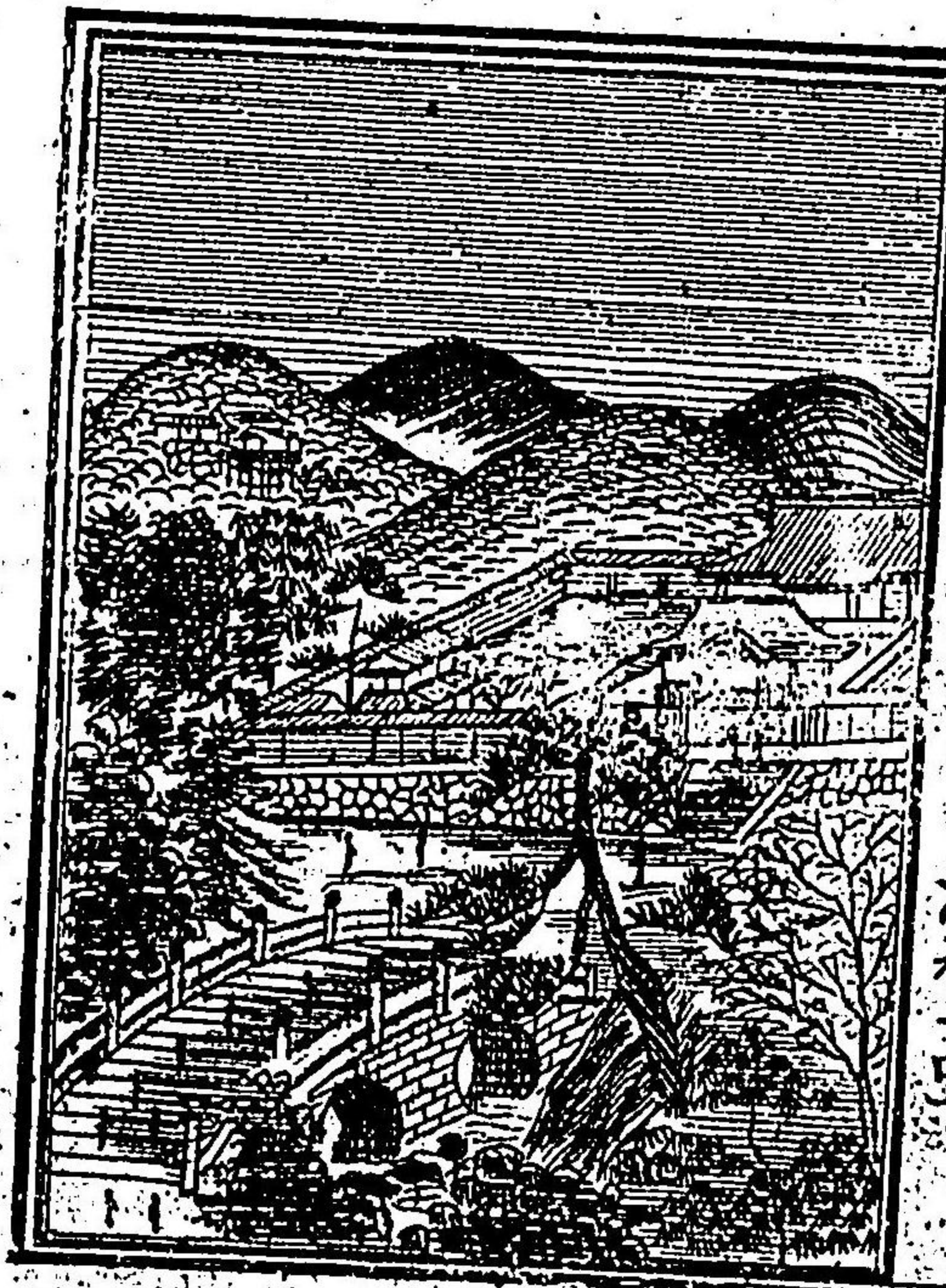
小松谷の良あり

本尊ハ千手観音の立像菅丞相の御作あり
歌中山ハ清閑寺の北音羽山の間をさす

西大谷

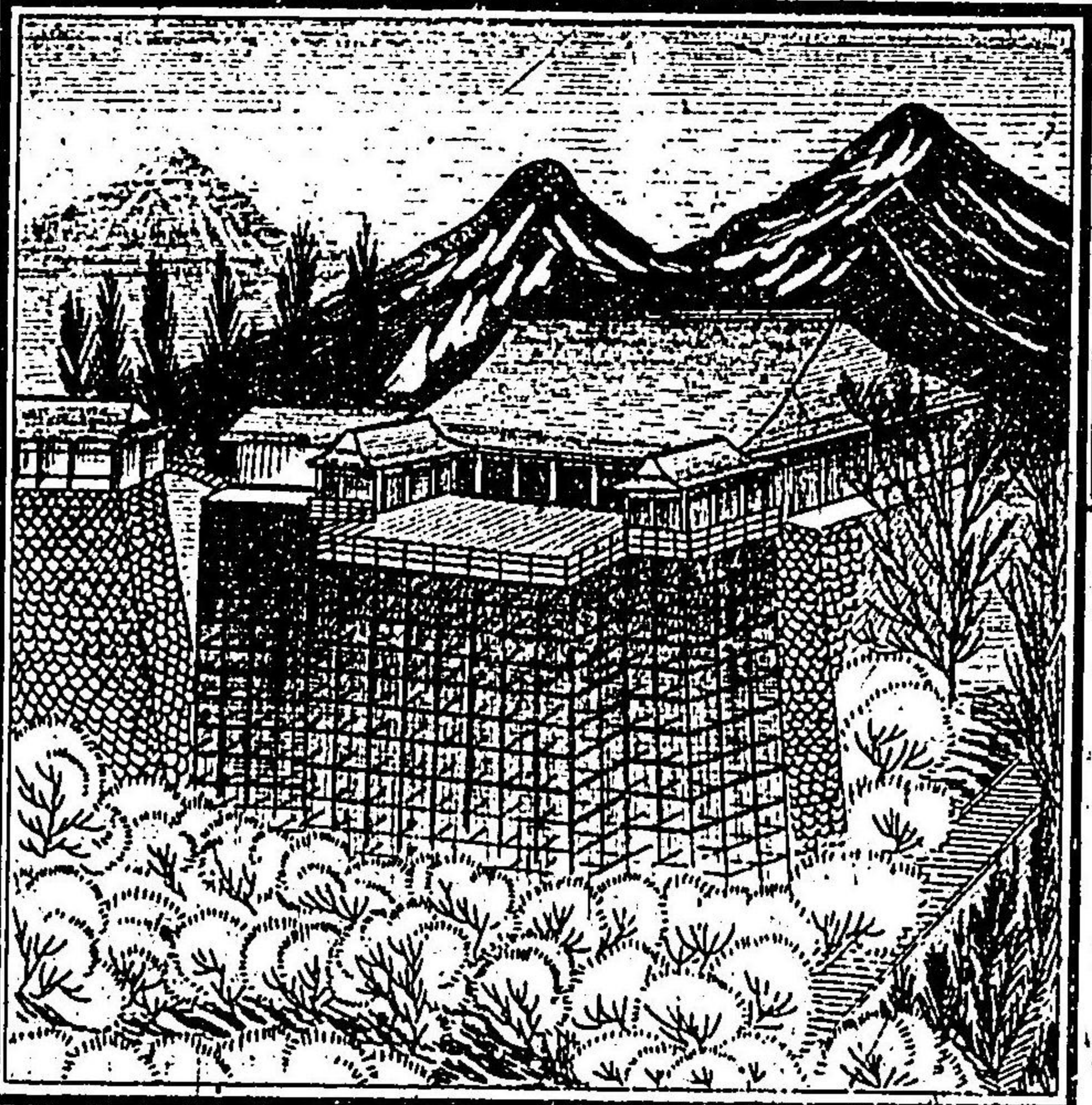
五條の東あり

本派本願寺見真大師の廟所ハ唐門の前池
不蓮を植へ白石の目ガ橋あり東ハ鳥辺山
通妙寺ハよおとめん傳兵衛の墓あり是
より清水への近道あり 清水ハ四丁



音羽山清水寺

京都市中京通り交當り



真言宗マて本尊ハ十二面千手千眼観世音
菩薩西國十七番の札所ハ開基ハ宝亀九年
の夏大和国小島寺の沙門延鎮此地ハ草菴
を結び後坂上田村ハ延暦二十年ハ東夷征

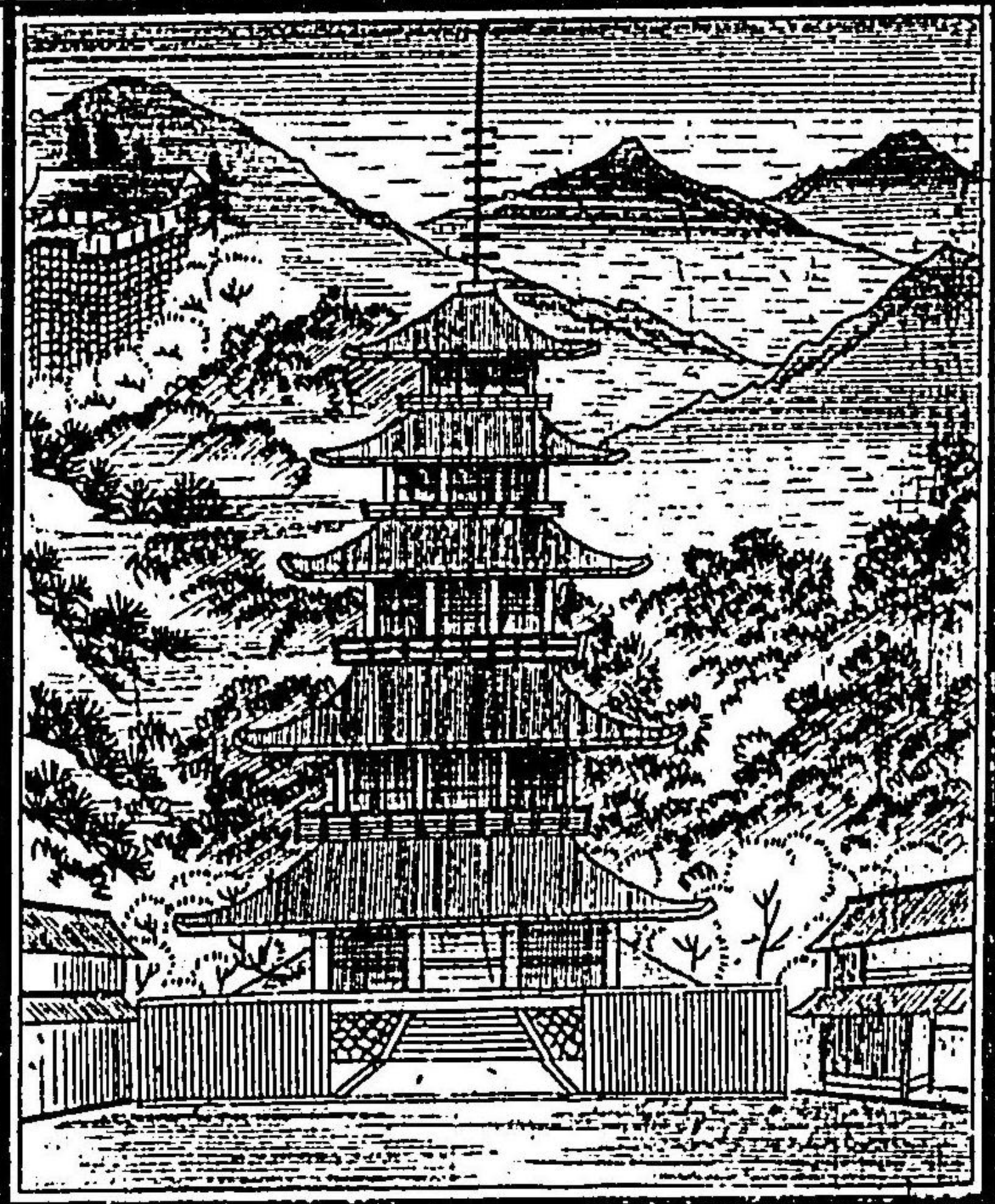
伐の時此本尊ヲ祈り悉く退治し玉ふ同二十
四年田村九堂塔を建立す又大同二年紫震
殿を賜ひて伽藍とす観音寺を改めて清
水寺と号せり當山ハむしり櫻の名物く
の阿弥陀堂ハ龍山寺と号す本尊ハ弥陀の
坐像を安置す法然上人此堂にて不斷常行
念佛を開闢し玉ふ今は退轉なし○田村堂
ハ田村將軍鈴鹿權現行殿延鎮等の像を
安置す○音羽瀧ハ奥の院の下ニある瀧口
三す西のうへへ落て四季増減かし

八坂塔

清水三寧坂ニあり

八坂法觀寺ハ聖徳太子の草創なり古ハ樓
門伽藍鎮守等嚴堂なりしハ破壊して今總
ニ残るのニ三重塔本尊ハ大日釋迦阿闍室佛
なりむしり淨藏貴所此寺ニ住す阿るハ
塔大ニ傾く淨藏塔前ニ坐して持念す朝

よと見ると見る塔直ゆく元の如くまなりとふ



靈山正法寺

八坂の東ニ下なりあり

往昔傳教大師の開基ゆへ山門の別院なり
中興國阿上人住玉ひて宗旨を時宗と改阿
弥陀堂の本尊ハ齒佛と号すこの阿弥陀佛
ハ笑ひ玉ふ相好ゆへ御口よりむふ齒見ゆ
故世ニ齒佛と号す○勤王戦死者の招魂場あり

高臺寺

京都市下河原南あり



慶長年中太閤秀吉公の北の政所御建立の菩提所なり鷺峯山といふ宗旨は禪と佛殿の本尊は釋迦佛迦葉阿難を安置す祖堂ありの廊下を臥龍といふ雪月堂の額ありこれに書れは秀吉公北の政所の御魄舎あり當寺大木の櫻數株ありて花の盛は遊宴を催し秋の頃ハ萩の花を愛するの雅人多し

雙林寺

高臺寺の北あり

古ハ天台宗の別院として傳教大師の開基く至徳年中中國阿上人移住し時宗と改む本尊ハ藥師如來



來りて傳教大師の作本堂の前より平判官康頼と頼阿法師の塔あり又此所ハ文阿弥といふ宴席あり其西ハ西行菴芭蕉堂大雅堂等ありて文人雅客常ニ相集る

東大谷

雙林寺に隣りてあり

大谷派本願寺の祖廟あり阿弥陀堂の本尊ハ安阿弥の作親鸞聖人の廟ハ後の山腹あり

て墳上ふんじやうに虎石とらいしあり石の形虎とらに似にとまば名なとす

長樂寺ハ一丁



東山長樂寺

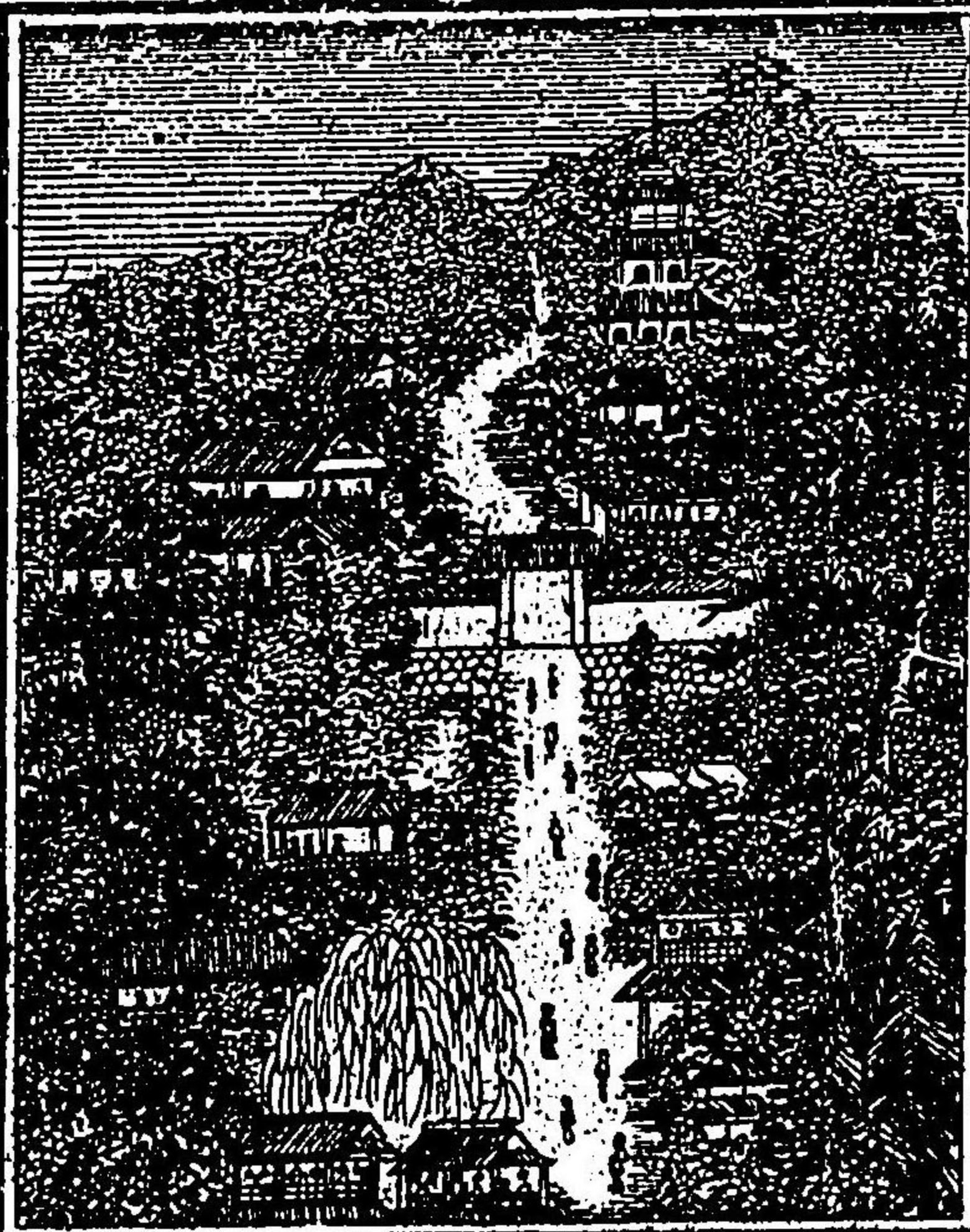
東大谷の北隣あり

開基ハ傳教大師でんけうだいしりて去いも天台てんたいの別院べつゐんに當山たうざんの景色ハ唐土たうどの長樂寺ちやうらくじに似にるとて斯あつ名なるとぞ後のちニ國阿止人住持くわあしにんぢゆうぢして時宗ときむねにあらとむ安徳帝御衣あんとくていぎんえの幢たうに當寺たうじの什寶じつぼうの當山たうざんハ洛東らくとう第一だいいちの風景ふうけいにて鳳城ほうじやう九陌くうまつの大おほ

路小路北ぢせうぢみハ加茂二葉山かものふたばやまより南みなみハ鳩とむの峯たかね淀いづみの川か瀬せをゆくと舟ふねを眼まなこ下したに見みゆるん

圓山安養寺

長樂寺の北あり



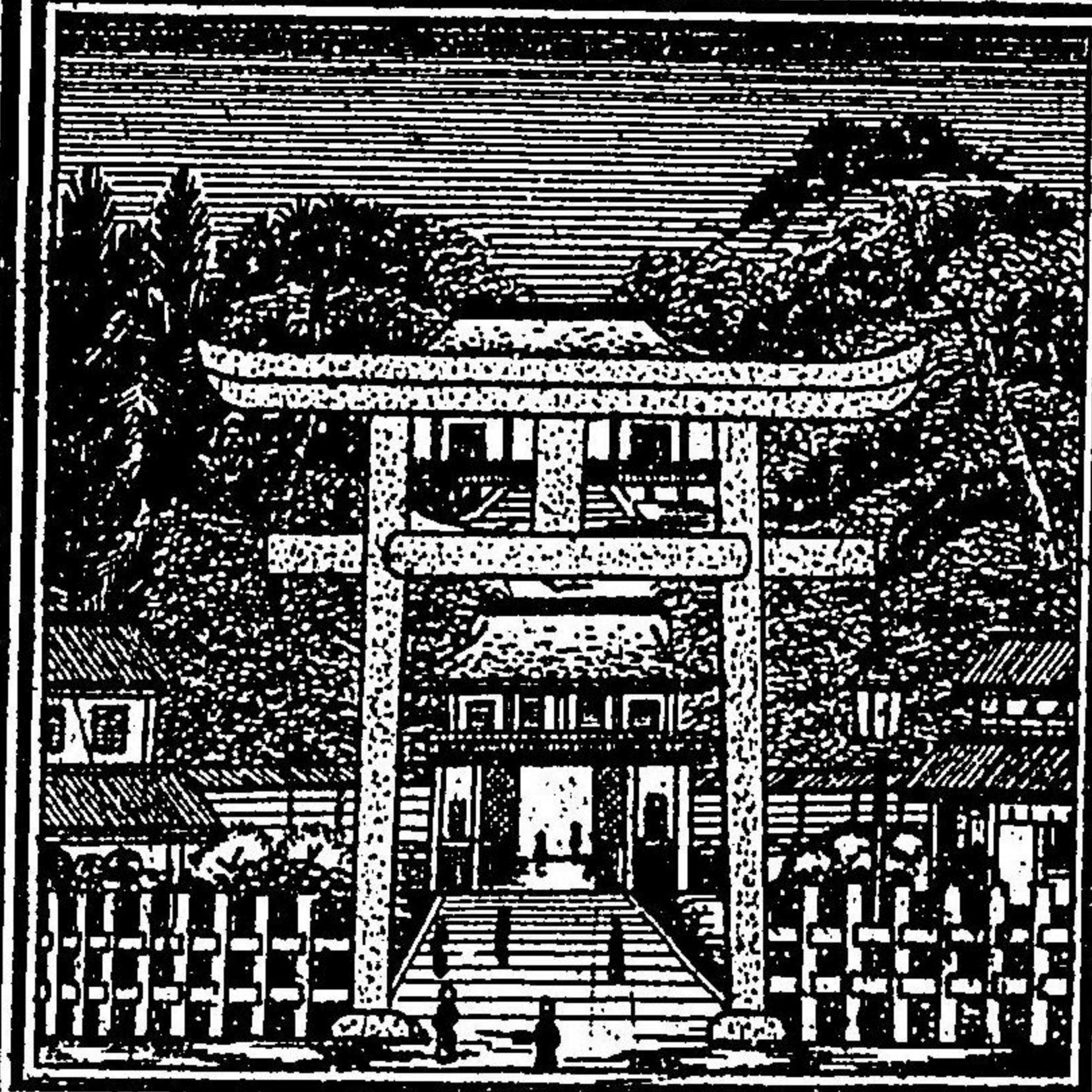
當山たうざんも舊天台きうてんたいの別院べつゐんりて傳教大師でんけうだいしの開基かいぎなり後のちニ國阿止人住職くわあしにんぢゆうぢして時宗ときむねと改あらたむ○吉水きちみづの井いハ鎮守ぢんしゆ辨財天べんざいてんのくさくさあり○惣門そうもんの左ひだりなるを左阿弥さあみといひ右みぎなるを正阿弥しやうあみ

といひ上るる也阿弥といふ料理を業とし多人
集會し貸す也阿弥は西洋料理及び外國人の
旅宿を兼るるも眺望絶佳なりて京都市
街のふま及びす山城の名山大川を一目の下
見多し○鑛泉は三層の樓を構へ其近邊
茶店多し眺望頗るよろし

八坂神社

京都市四條通川東のふまあり

舊祇園
社といふ
神殿の
中央へ
素盞鳥
尊東の
間へ八
王子三女
五男
西の間へ

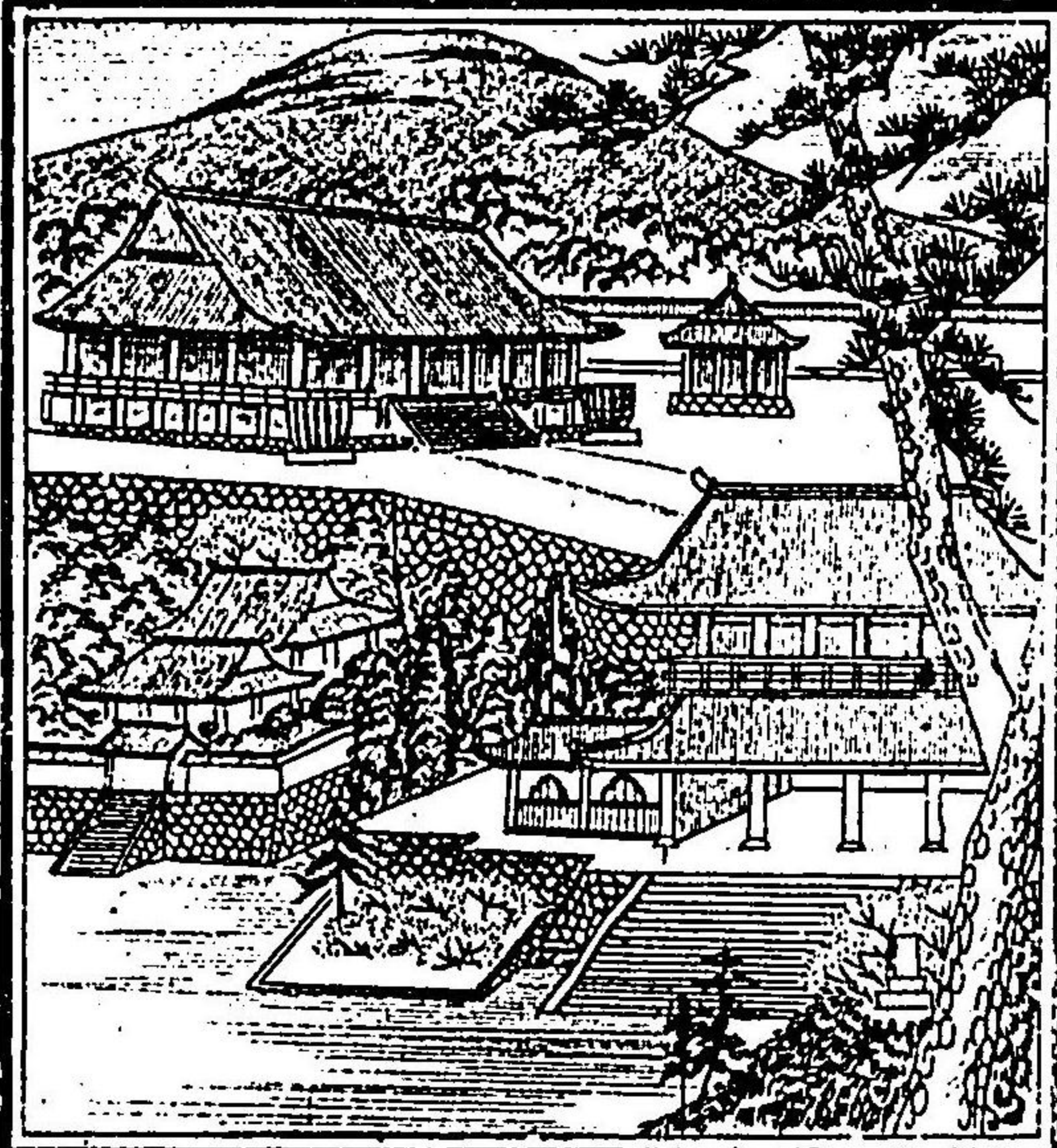


稲田姫本御前官祭は六月十五日私祭は七月十
七日同廿四日山鉾の行粧祭禮の例式日本無
双の神事境内は櫻樹多し花の頃夜櫻殊
は賑へり

知恩院

八坂神社の北隣あり

華頂山
大谷寺
浄土宗
の惣本
山



て鎮西流義あり元祖圓光大師宗風開發の壺
場あり吉水の禪場とい是なり山門は掲る華

頂山の額ハ靈元法皇の震筆ハ本堂大谷寺の額ハ後奈良院の震筆トシテ須弥の壇上ハ圓光大師の像を安置す大師の廟ハ東の山上ハあり○瓜生石ハ黒門の前ハあり○塔中崇泰院ハ見真大師廟塔の遺跡あり○鐘樓ハ本堂の巽山上ハあり洪鐘高さ一丈八尺徑九尺厚さ九寸五寸鐘の音三里ハ聴ゆるといふ堂山ハ櫻數株あり糸きり浅黄さる世ハ名高し

植髮堂

植髮の尊像ハ舊青蓮院ニ在せし時此地をひらき堂宇を建立し萃頂山御堂と称す本尊ハ阿弥陀佛の座像を安置し

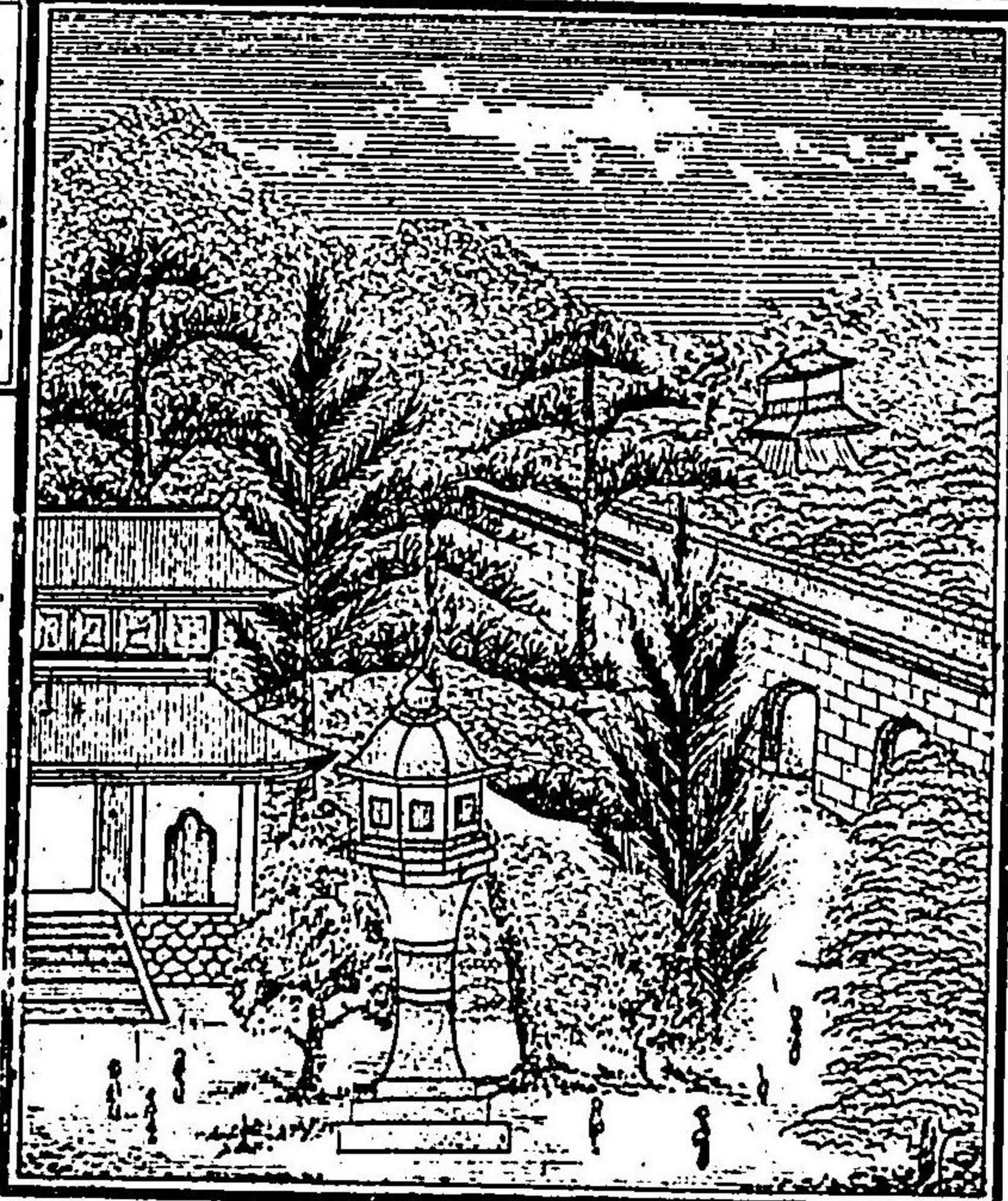


右の壇上の厨子ハ此尊像を安置す長三尺寸立像なり小葵の直衣ハ薄紅梅の御衣を召し紫の亀甲形の指貫を着し見る児童の御影なり九歳の春青蓮院ニて翠の髪を薙玉へし御貌を御師匠の慈鎮和尚うしをりれりの翠の髪を御頭ニ植置せらる是を植髮の尊影ト号し一宗の道俗偈仰日よまて繁昌の靈地トなる

南禪寺

愛宕郡南禪寺村ニあり

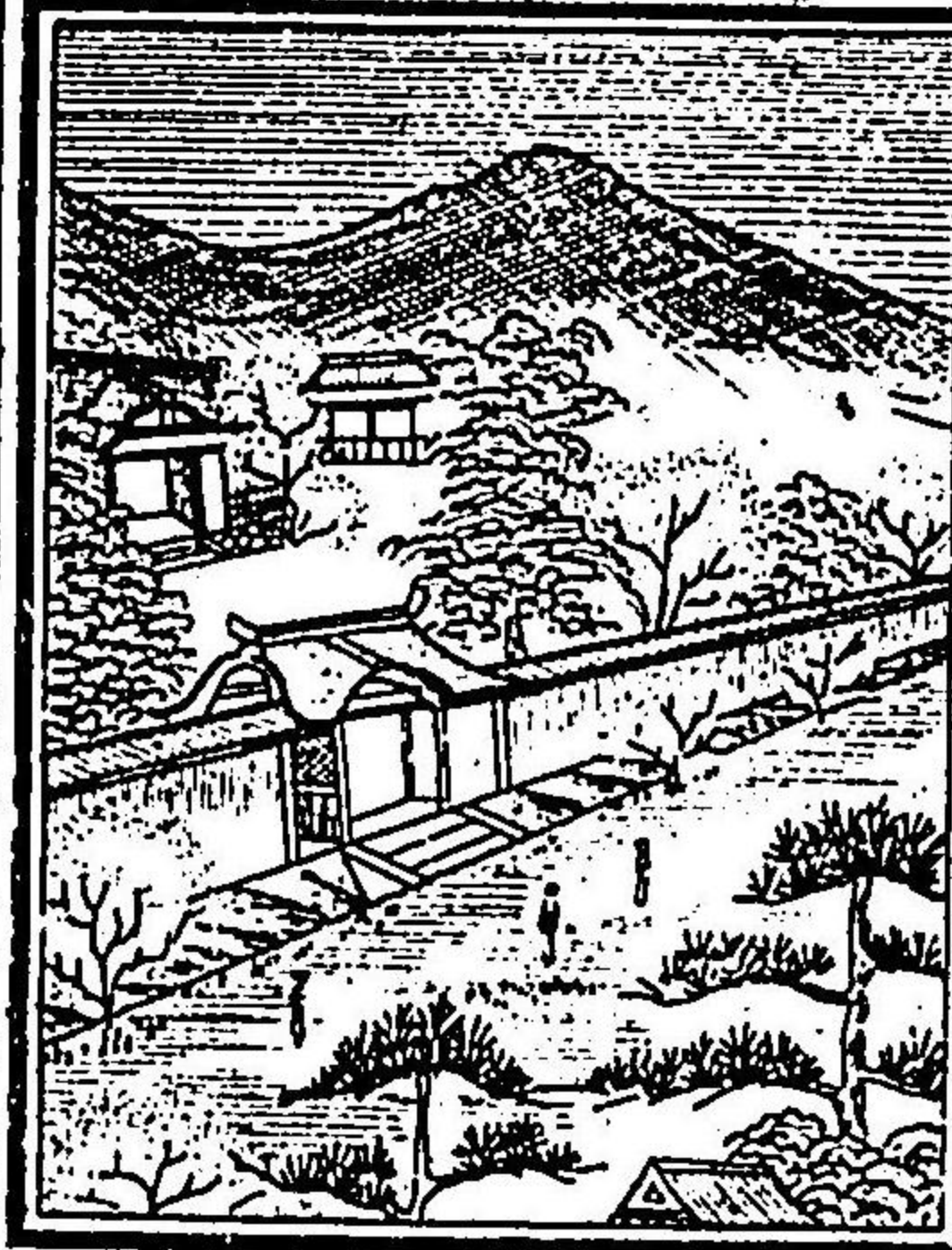
瑞龍山太平興國南禪寺ハ舊龜山法皇の皇居なり一を關山大明國師ニ賜て五山の上の号を蒙る山門ハ五鳳樓ト号し寛永年中藤堂高虎の再建なり藤堂を造る石の大燈籠一基山門の外ニあり高さ二丈餘石ハ白川の産あり希代の大燈籠あり駒の瀧ハ東の峯ニあり



金地院

南禪寺の門内あり

當院より東
照宮の社ありて白砂より
鳳凰竹を植る樓門左右
より隨身の

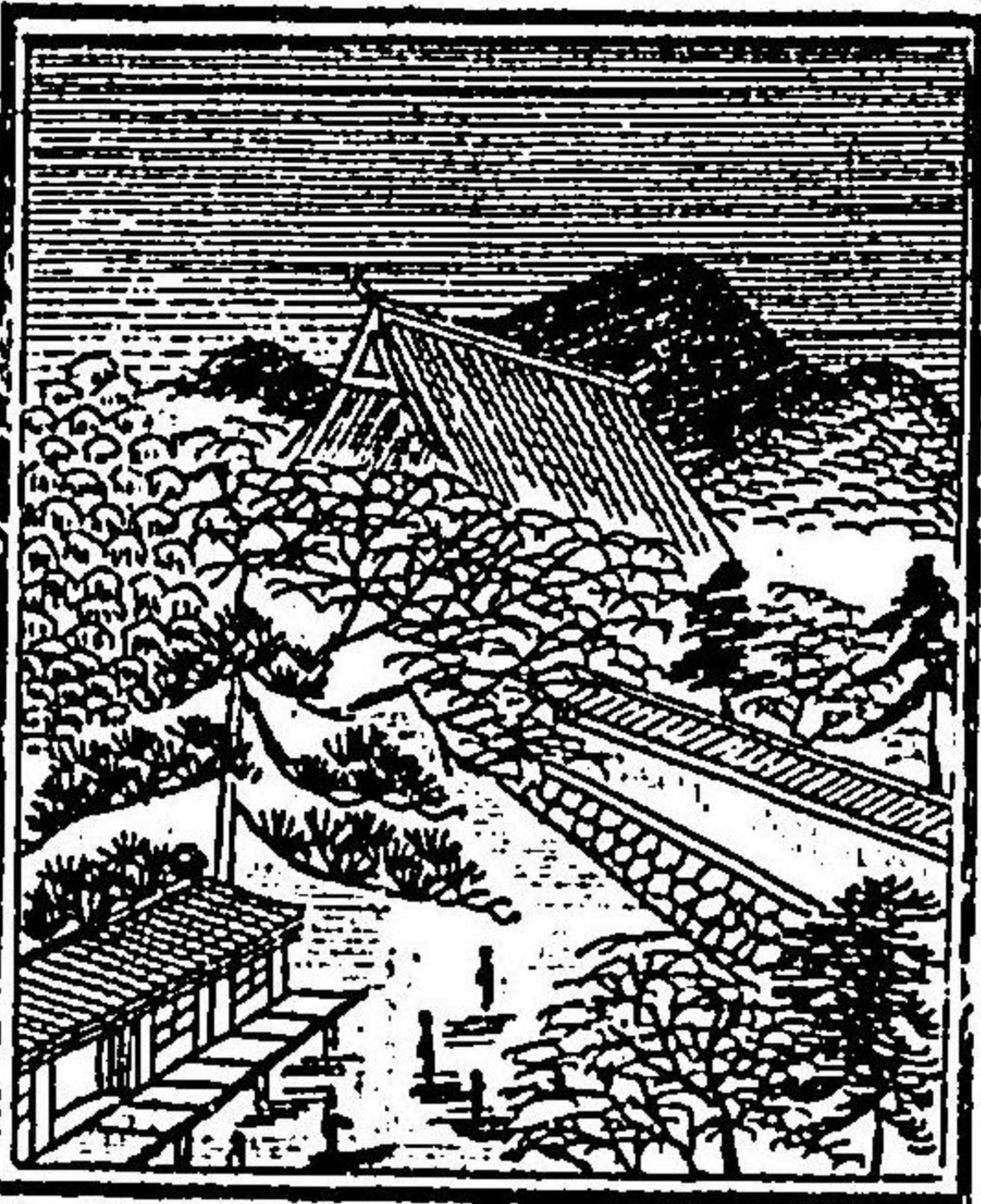


像を置當院の開山ハ大業和尚なり五山僧祿司
の号を蒙る

永觀堂

南禪寺の二丁北あり

聖衆來迎山禪
林寺永觀堂ハ
浄土宗ありて
西山派ハ本堂
の阿弥陀如来
を願本尊と号

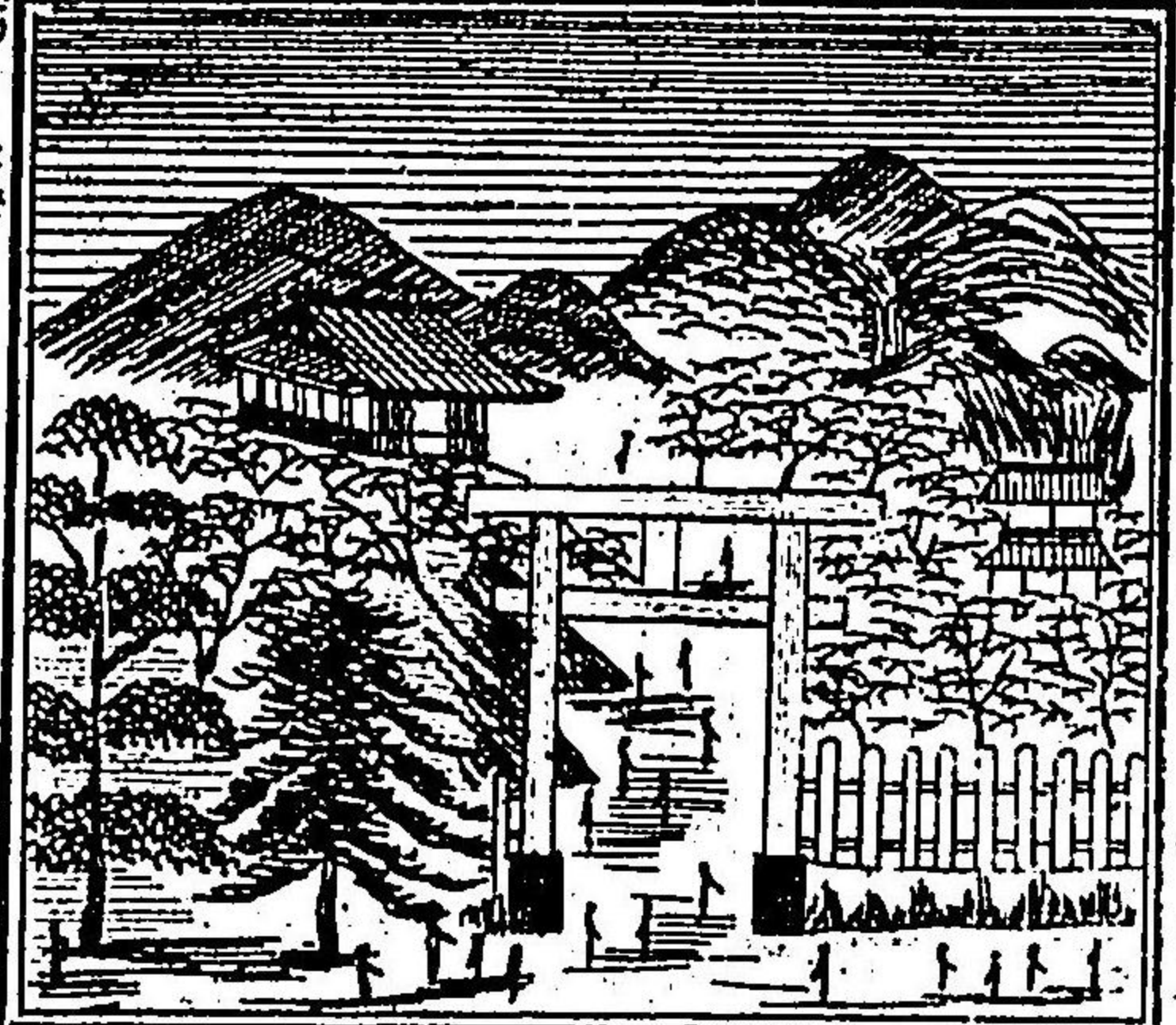


才長三尺餘の立像なり祖師堂ハ善導大
師圓光大師西山上人の三影を安置す經藏
の額ハ黄檗高泉北筆なり聖衆來迎の松ハ堂
前よりありは夜四が異香薫ト音樂聞へて
菩薩來集の粧ひ此松の枝よりありとなり
山号ハ此謂よりちたり中門の左に諸化の學
校あり講堂ハ甘露殿と願あり

若王子社

愛宕郡若王子村にあり

後白川法皇の
勸請ありて舊
天台宗修驗道
兼職の寺にて
正東山と云ふ
御維新後神社
に改む山中
三箇の瀧あり
風景絶佳く紅葉の時



黒谷

愛宕郡岡崎村にあり

紫雲山金戒光明寺と号す浄土宗鎮西四箇の
一本寺なり駒山西塔の黒谷をうつりて新黒
谷と称す本尊ハ元祖大師の像を安置す自
作の勢至堂ハ圓光大師の廟塔く熊谷堂ハ
蓮生法師自作の像平敦盛の畫像を安置す

三重塔の文殊菩薩ハ日本三文殊の其一なり
紫雲西ハ塔の北にあり元祖大師一宗開發
の時此石より紫雲となひき異香薫じると
なり又熊谷鎧掛松あり



真如堂

神樂岡の東南にあり

鈴聲山真正極樂寺真如堂ハ天台宗にて開
基ハ戒算上人なり本尊ハ阿彌陀佛の立像

長三尺三寸慈覺大師の作なり抑此尊像ハ江州志賀郡苗鹿明神より神木を得玉ひ此木夜毎光明を放怪て割て見玉ふま佛開鮮あり故ま此尊像を彫刻す吉田へ四丁



吉田神社

愛宕郡吉田村にあり

當社ハ清和天皇の御宇貞觀二年中納言山蔭卿の勸請く檜門の額ハ日本最上兩大神宮中門の額ハ日本最上神祇齋場とあり共ま清水谷實秋卿の筆なり本殿大元宮ハ日本神祇三十一百三十二座を鎮座し奉る春日の社ハ西の麓にあり是も山蔭卿の勸請なり當所ハ一面の岡山にして神樂岡と称す



聖護院

九太町鴨川の東にあり

開基ハ智證大師ハ中頃より三井の御門主法親王御住職玉ひ修

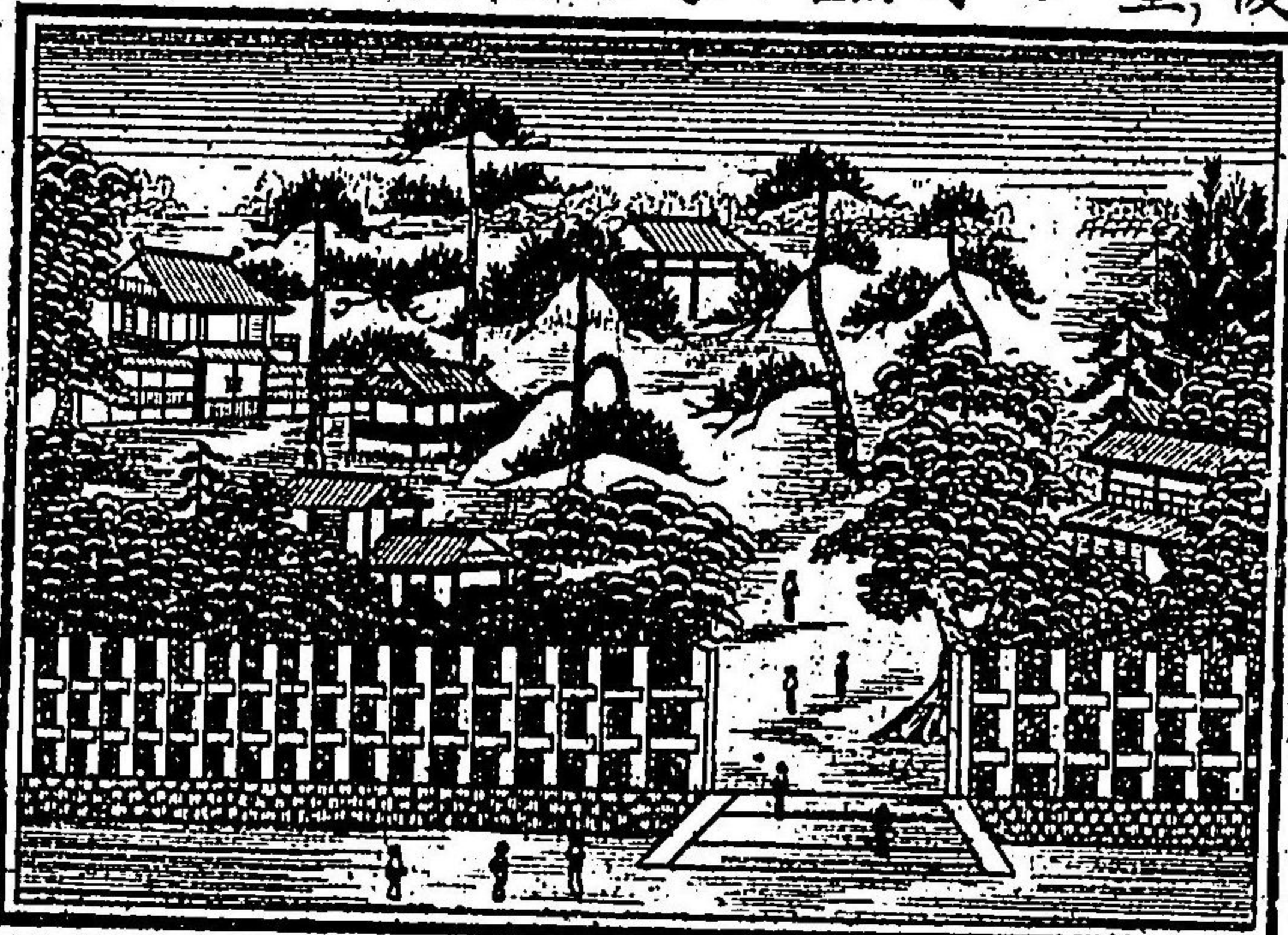


撰者名不明
驗道を兼て山伏を管領し玉ひし

熊野神社

右同所の西あり

當社の後
白河上皇
の勅願
して熊野
新宮を勧
請し玉ふ
境内廣う
らすと
とも老樹
森々として
翁鬱蒼蒼
炎暑の時
納涼の地たり



銀閣寺

愛宕郡浄土寺村あり

慈照寺と号す禪宗にて夢窓國師を開祖
とす原此地は足利八代の將軍義政公の別荘
なり故に東山殿と号す○東求堂は義政公の
持佛堂として觀世音を本尊とす西のくま
壇よりくろ水引は濃紫の印金なり古渡りて
せま稀なる奇物とぞ若松の画は相阿弥の筆
喇々鳥ハ永納の画は茶湯の間は四畳半にて

東山殿の
物敷奇之
これ茶亭
四畳半の
○二重の
高閣あり
上を心空
殿下を潮



音閣とふ。此庭ハ東山殿の好みて茶道相阿弥の作あり庭中の風光真妙なり山水の法式をせきまじり四時の壯觀足らざるなり未代庭造の軌範とする

詩仙堂

愛宕郡一乗寺村あり

石川丈山の山莊ハ四壁ハ漢晋唐宋の詩人三十六人の像を畫し其人の詩を丈山につく書して画ハ狩野尚信とぞ故詩仙堂とす

百萬遍

愛宕郡

田中村あり

長徳山知恩寺百萬遍ハ浄土宗鎮西派四ヶの一の本寺なり古ハ加茂の神宮寺なりて慈覺大師の艸

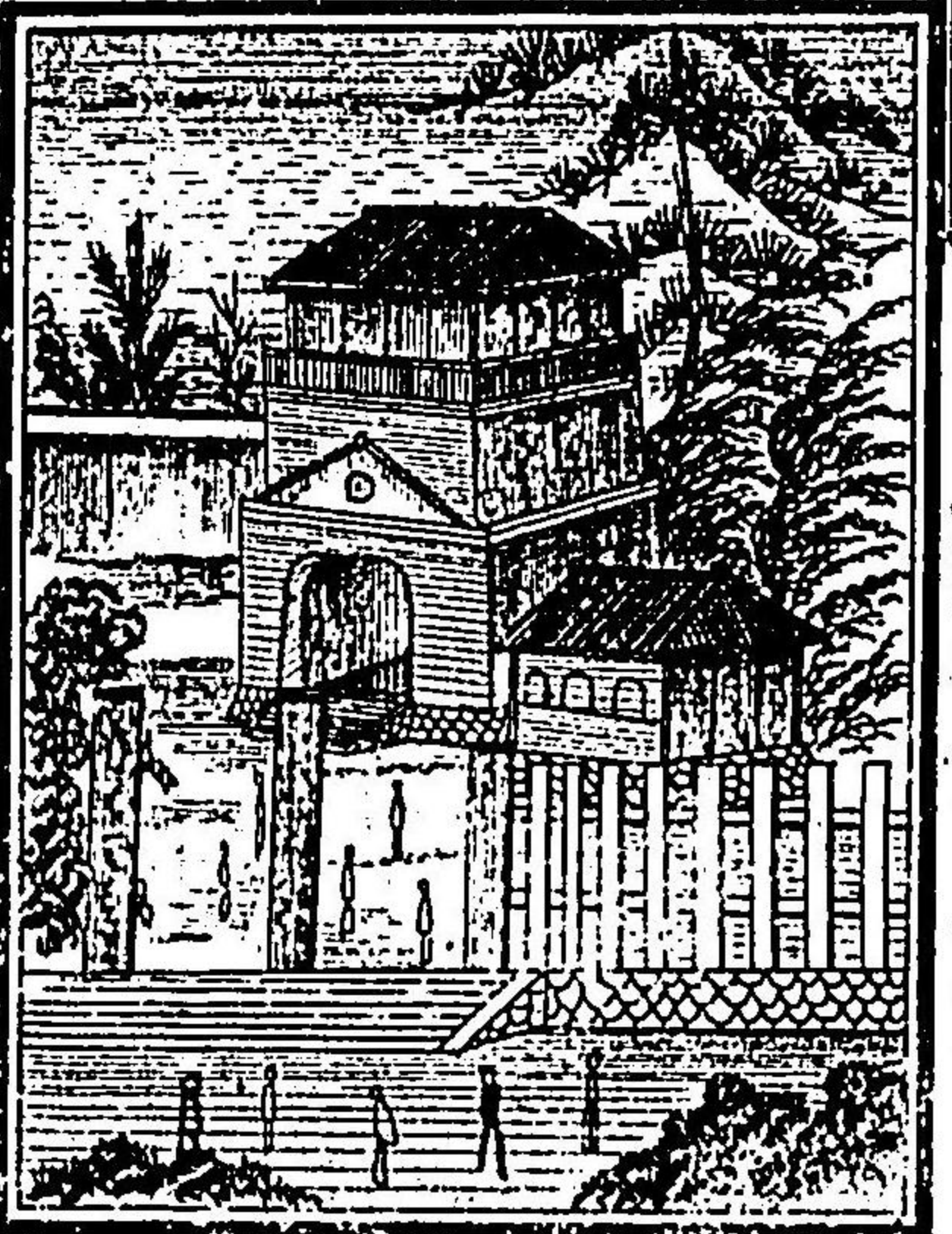


創あり圓光大師加茂下上を尊信ありて感應を得玉ひ一宗を弘通一玉へりある時鳴皇太神宮懇望ありて末世衆生のため一枚起請を書しめ玉ふ是より當寺を改て念佛の道場とて徒弟勢觀房源智上人へ附屬一玉ふ

療病院

河原町通廣小路の北あり

府立に
地鴨川
に望み
風景頗
る佳く
器械完
備し病室多し治療ハ數名の醫學士これをつ



うまじる。○醫學校あり學期ハ四年あり療病院と相心するふより臨床講義實驗ハ甚便

利あり

護王神社

鳥九道上等者町あり

別格官幣社祭神ハ和氣清盛公あり元高雄山は有しを明治十九年遷す



梨木神社

寺町通荒神口上ル所あり

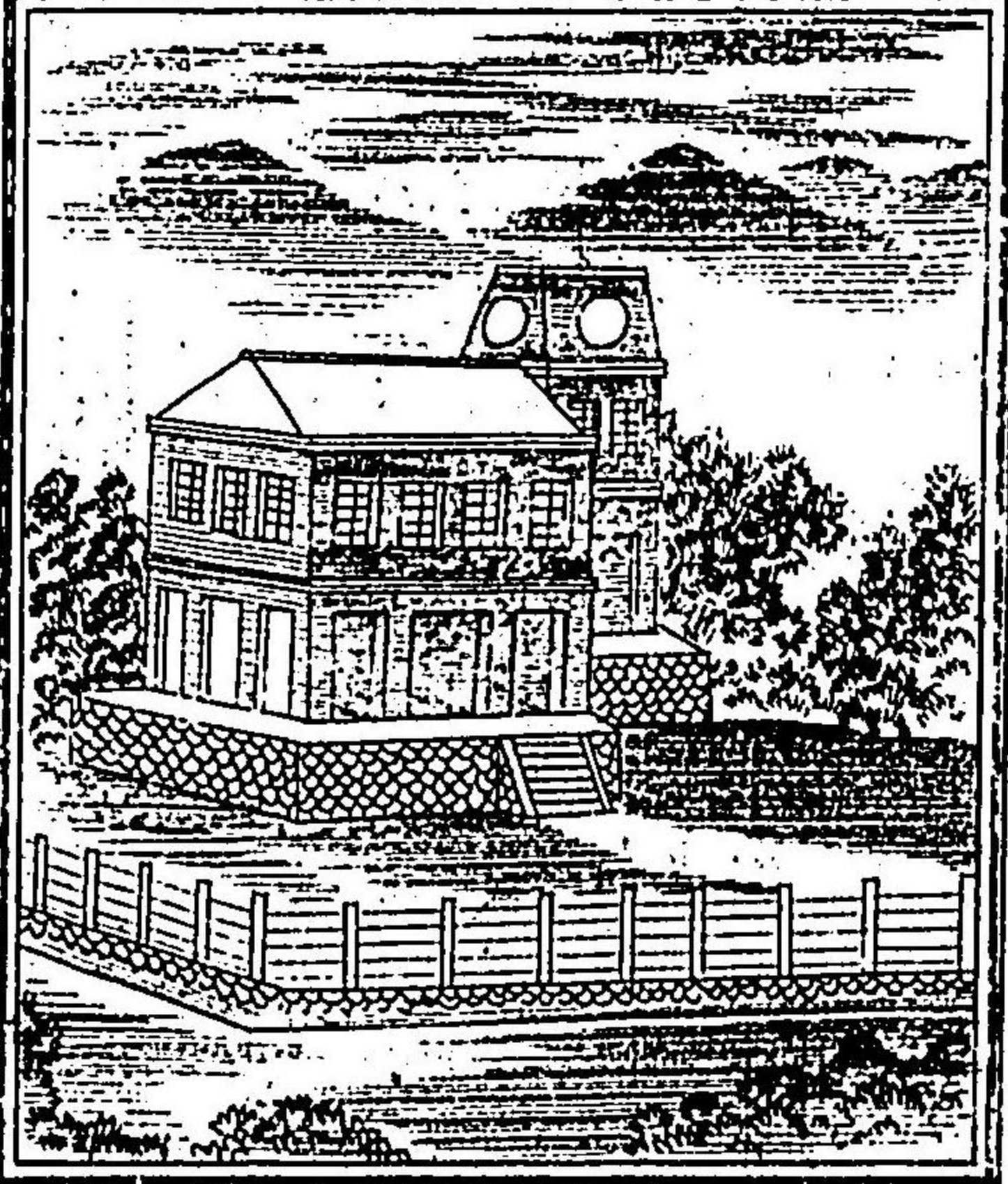
別格官幣社にして祭神ハ三條忠成公之明治十八年九月創建せらる



同志社

今出川与丸の東あり

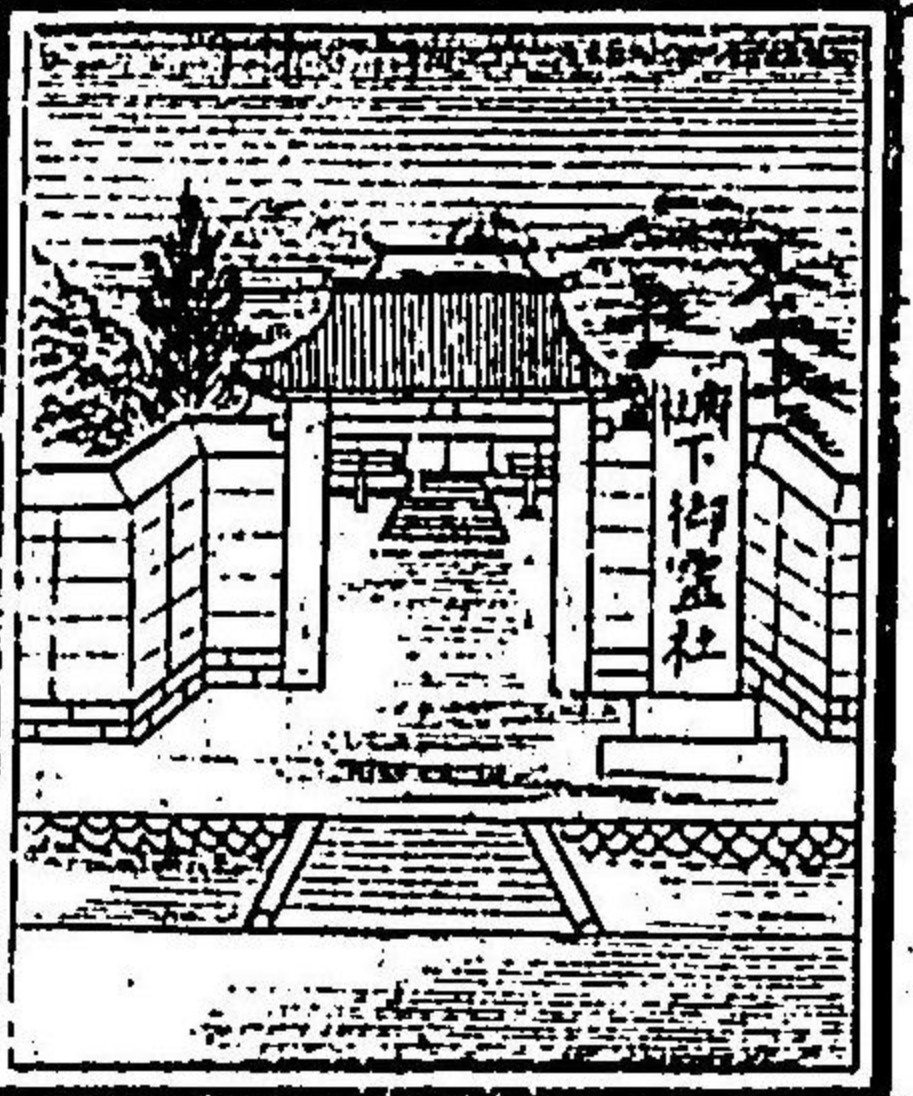
豫備學校 普通學校 神學校 女學校 寺を設く其教負多く宗教家



下御靈社

寺町通竹屋町上ル

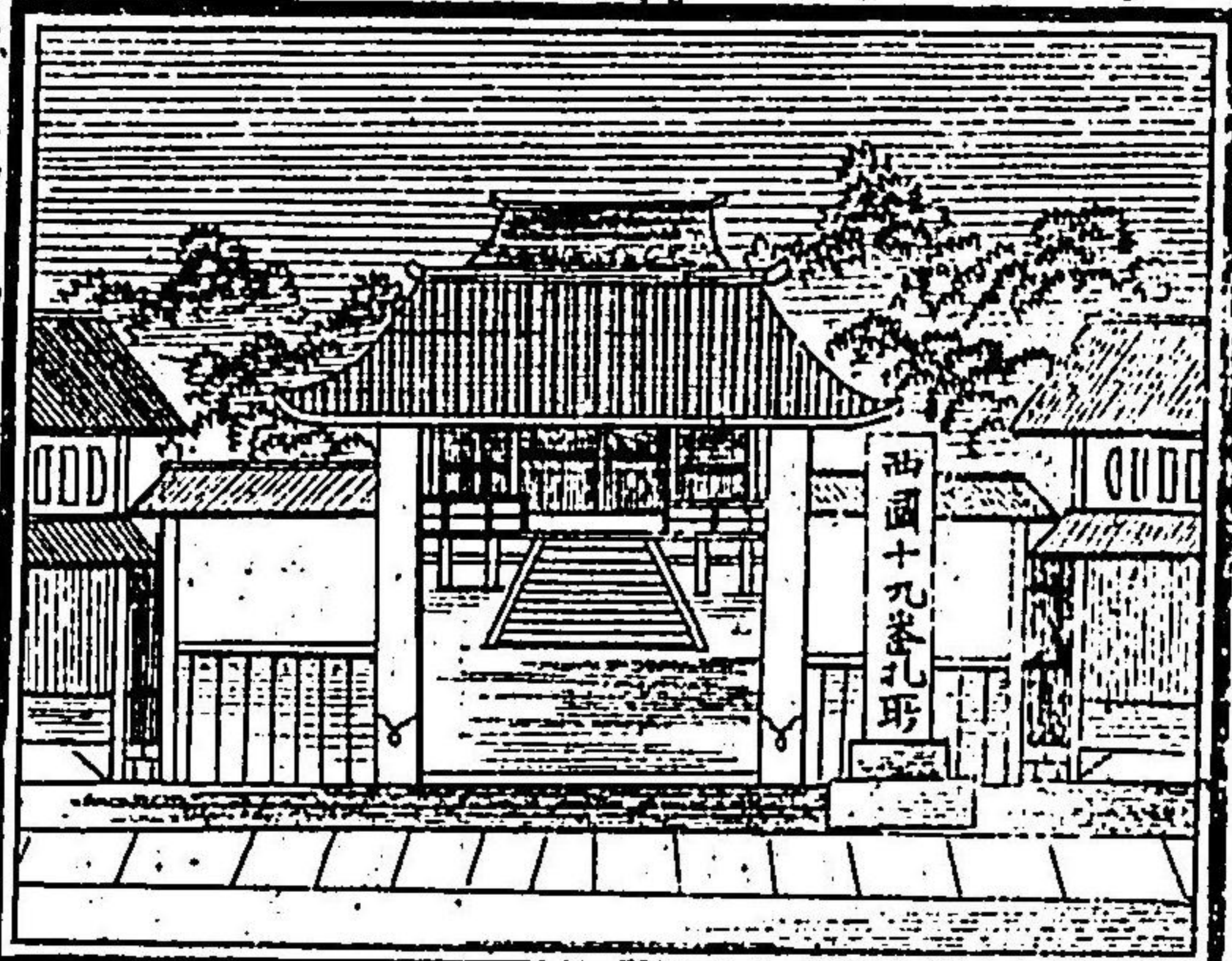
祭る所八所の御靈ありて上御靈と同等なり例祭ハ上御靈と同日なり八所の神名ハ上とある



革堂

右同所の南隣りあり

行願寺と号す
天台宗ありて
本尊十一面千
手観音ハ長八
尺の立像行圓
上人の作心當
寺の開基行圓
上人元鎮西の
人寛光二年



皇城ニ遊び頭ニ寶冠をいづた身ニ華
衣を着せるや人華上人と呼り因て此寺を
革堂と稱す當寺ともめり一條通新町の西
あり故ニ一條革堂といふ西國十九番の札所

妙満寺

寺町通二條の南あり

妙塔山と号す日蓮宗ありて開基日什上

人なり永徳三年ニ建立あり元の地ハ綾小路堀
川の西あり當寺ニ紀州日高川道成寺の鐘
あり今堂内ニ藏む

本能寺

寺町通押小路の南あり

日蓮宗ありて勝劣派なり開基日隆上人初
地ハ六角の南油小路の東あり織田信長公の
塔本堂の東あり題目曼陀羅日蓮上人の筆
表具ハ紺地の純子ニ唐草の地紋ありこれを
世ニ本能寺切といふ

頂妙寺

二條橋東の北三丁あり

日蓮宗ありて一致派なり開基ハ權大僧都
法印日祝上人當寺樓門の二天東ハ持国
天西ハ多門天ありて運慶安阿弥の兩作あり
靈驗あらうて常ニ詣人絶ず

檀王法輪寺

三條橋東詰あり

浄土宗ありて本尊阿弥陀佛ハ惠心の作なり

主夜神の祠、開基袋中上人の勸請、應驗ありとて常々詣人多し

六角堂

六角通東洞院西へ外あり



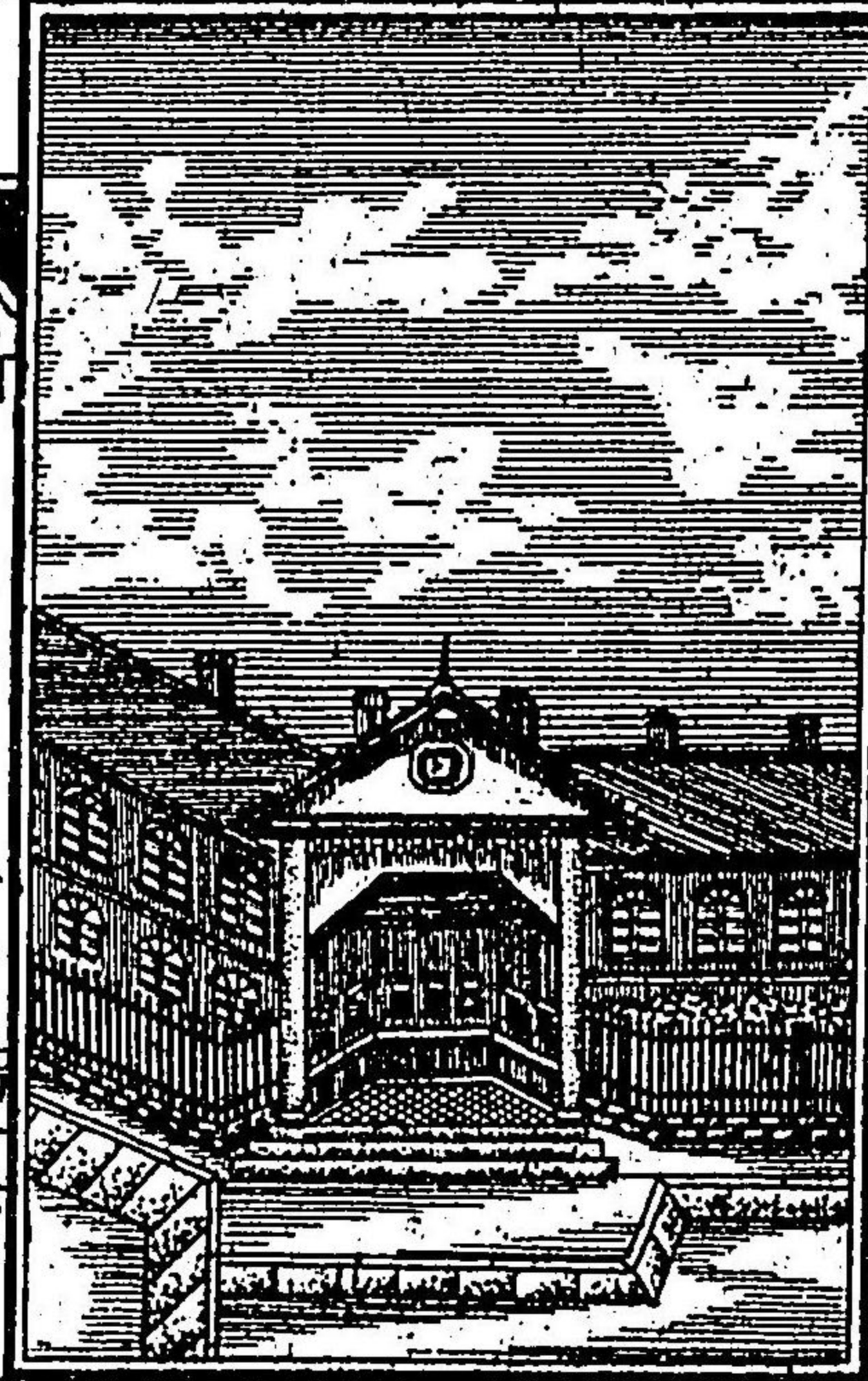
天台宗よりて頂法寺といふ開基ハ聖徳太子なり本尊如意輪観音ハ金像、長一寸八分

此尊像ハも、淡路國岩屋浦ニ夜々光あり

漁人ニ見ゆと云ふ網をあらす、朱の唐櫃を得たり其櫃の上ニ正覺如意輪の像一軀謹上日本國之王家と書せり、内裏ニ献る、太子見玉ひて是を我前生七世の持尊なりと尊崇し玉ひり、○當寺住職池の坊ハ立花の家本とす、○西國十八番の札所なり

郵便局

三條通東洞院角あり



電信分局

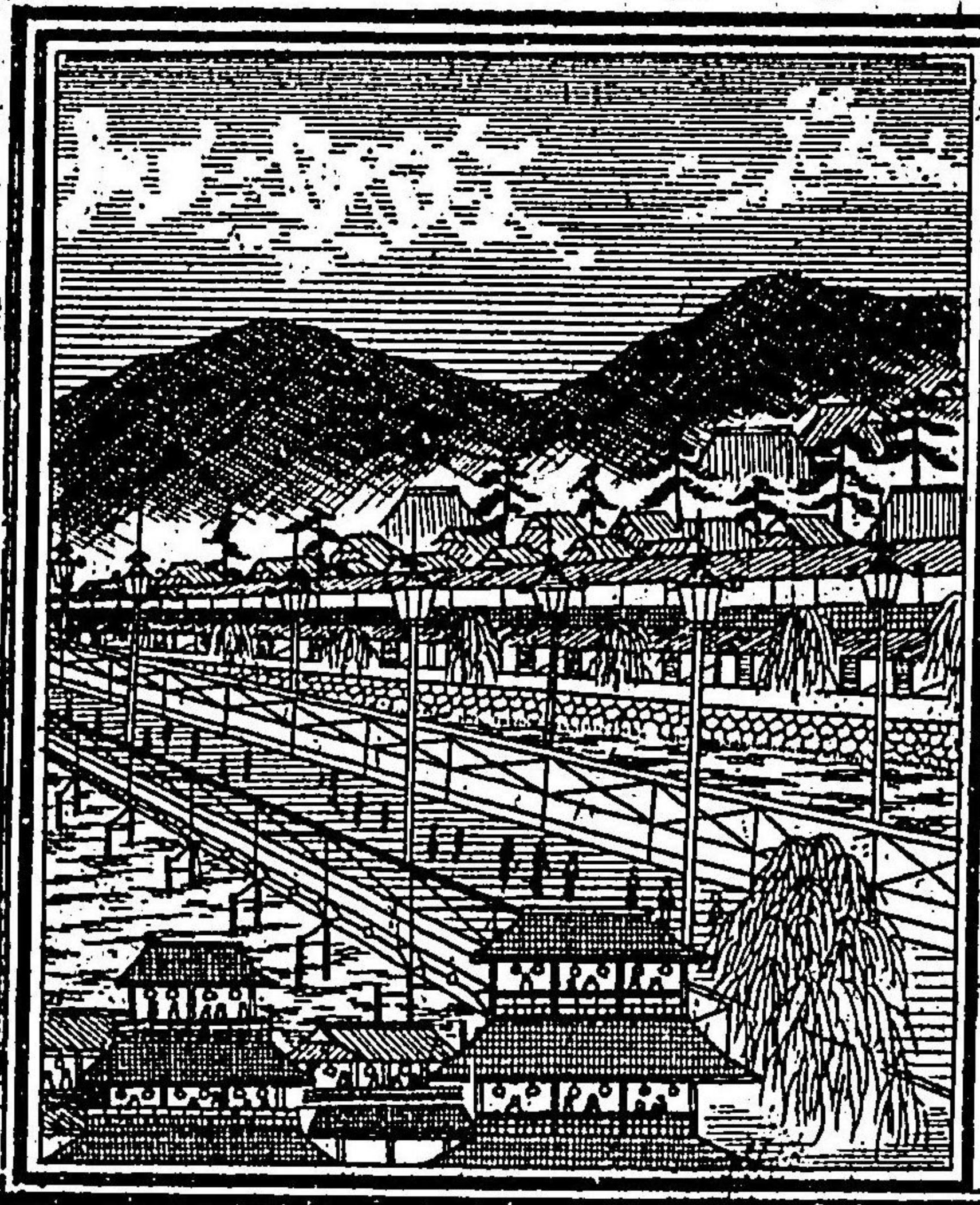
右同所

明治廿三年
郵便局(合)
併となり郵
便電信局と
称せらる



四條鐵橋

鴨川四條通ニ架す



明治七年四月一日落成す橋の東兩側は劇
場あり河原の夕涼に四條より二條に至る水
流なき処へ床机を置き茶菓氷水店等を出
し休憩して涼を納るは供す万點の燈火煌々
とて天を照らして奇觀なり

祇園新地遊廓

四條通川東あり

八坂神社の下は
ありて貸座敷中
最も有名なるは
一力と称す藝
娼妓の衣服装
飾頗る優美な
し歌舞は長
ずもの多し



先斗町へ鴨川の西涯より四條より三條までの
間あり是又衣服裝飾頗る美なり○祇園

新地の南に花見小路と稱する処ありと云々祇園
座と云ふ演劇場あり又南に安井神社及び建
仁寺等あり

安井神社

祭神ハ讚岐國象頭山ニ同し世人ありて
安井の金毘羅と稱し都下の諸人常ニ絶る
事なり此地ハ古より藤の名所とて徳天
皇の如阿波内侍此所ニ住せ玉ふ

建仁寺

大和大路四條南ニあり



東山建仁禪寺ハ五山の第三なり開基ハ千光
國師ハ土御門院の勅願にて征夷將軍源頼
家卿敷地を寄附し建仁三年伽藍を造營す
山内ニ六條河原院の古ありむらハ陀羅尼
經を誦して撞く此鐘の音を稱して建仁
寺の陀羅尼といふ○菩提樹本堂の傍あり
此水開山國師宋國より將來するものと
又南の門ハ矢立門といふこれハ平家の一門にて
門脇教盛卿の館の門なりといふ

摩利支天

建仁寺南門内ニあり

嘉曆二年唐土より將來せし靈像ハ應驗
ありて常ニ詣人多し

蛭子社

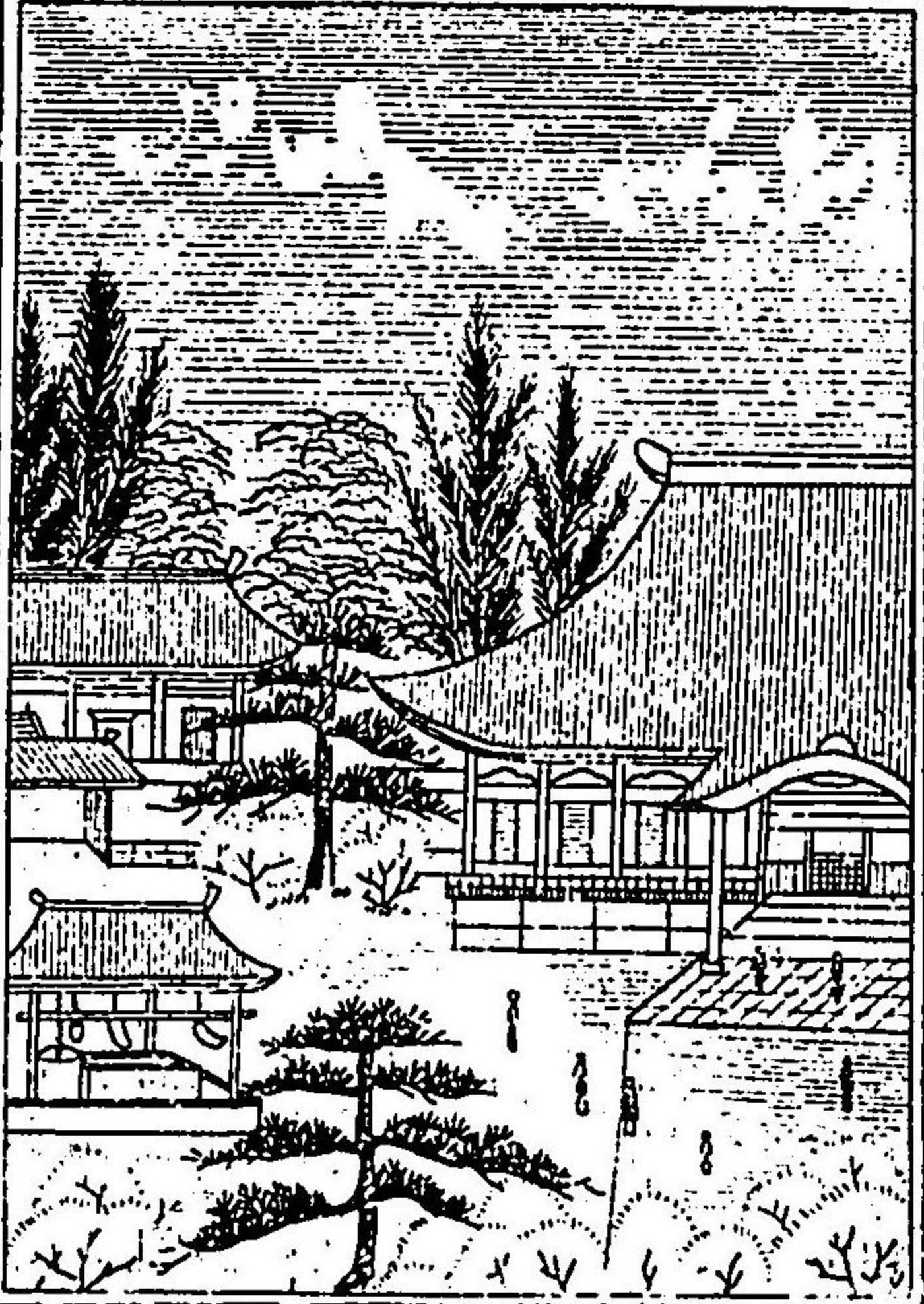
大和大路松原の北ニあり

祭る所蛭子命此處の産土神とて建仁寺
の開山千光國師の勸請するも此社建仁寺
の境内なり後ハ大和大路をひききて門外

とちなり

六波羅密寺

大和大路松原南にあり



普陀落山六波羅密寺ハ真言宗にして本尊十一面觀音ハ長一丈空也上人の作也西國十七番の札所あり

玠皇寺

松原通大和大路の東にあり

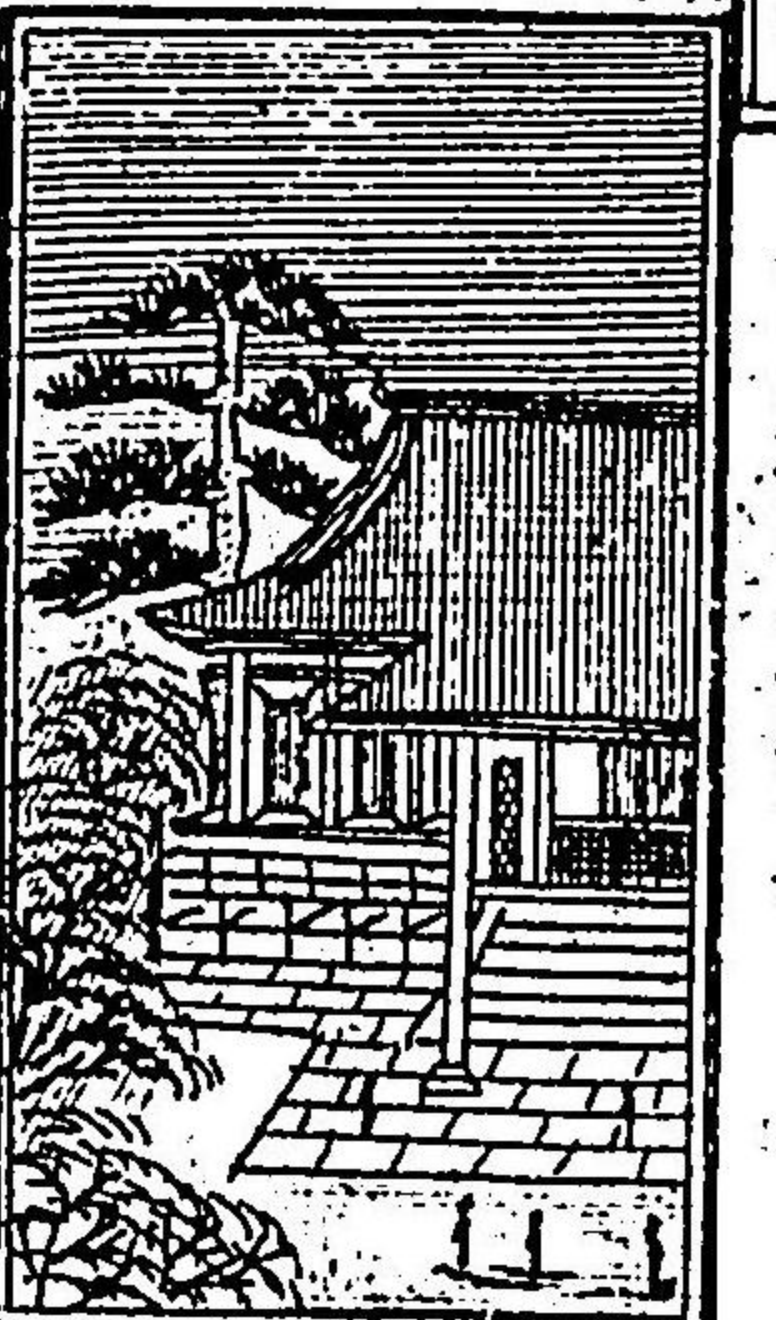
六道と号す本尊藥師如來ハ傳教大師の作也篁堂ハ小野篁の像を安置す迎鐘ハ七月

九日十日參詣の人此鐘を撞て精靈を迎ふ

因幡藥師

松原通東洞院西にあり

因幡堂平等寺といふ真言宗ハ本尊藥師如來ハ立像也長六尺二寸基磐の上ニ在玉ふ脇士ハ白月光主神ハ菩薩と安置す此本尊ハ旛檀木の像にして釋尊ハつらり刻玉ハ聖容ハ日本三如來の其一なり



三如來ハ信州善光寺弥陀如來嵯峨の釋迦如來と此藥師如來

佛光寺

仏光寺通高倉の南にあり

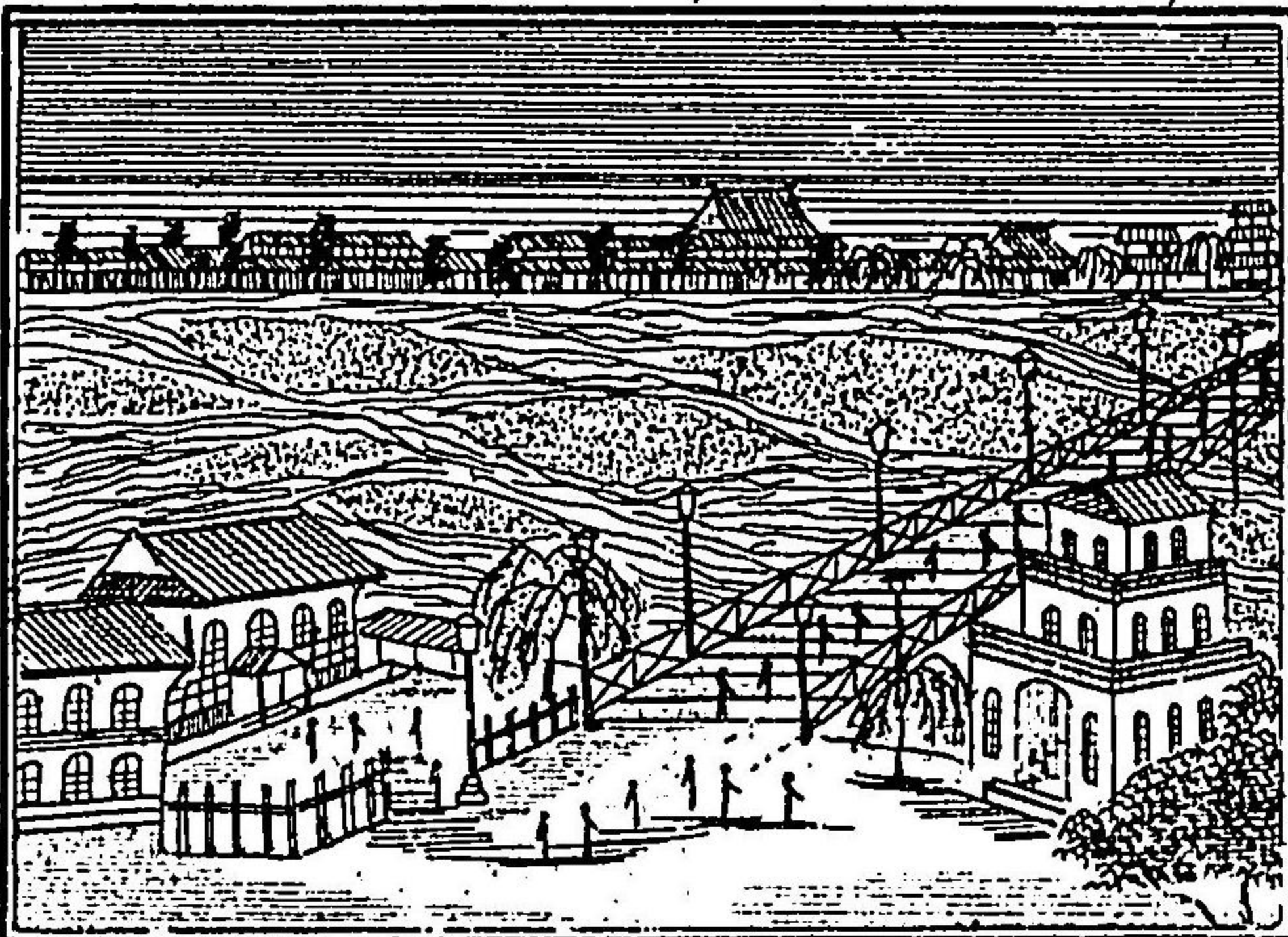
汁谷山と号す真宗の本山にして佛光寺派と稱す本堂ハ見真大師自作の御影を安置



す阿彌陀堂本尊の立像阿彌陀佛を安置す慈
覺大師の作の脇壇の聖徳太子自作の六像圓
光大師自作の像を安置す

五條橋

五條通鴨川に架す



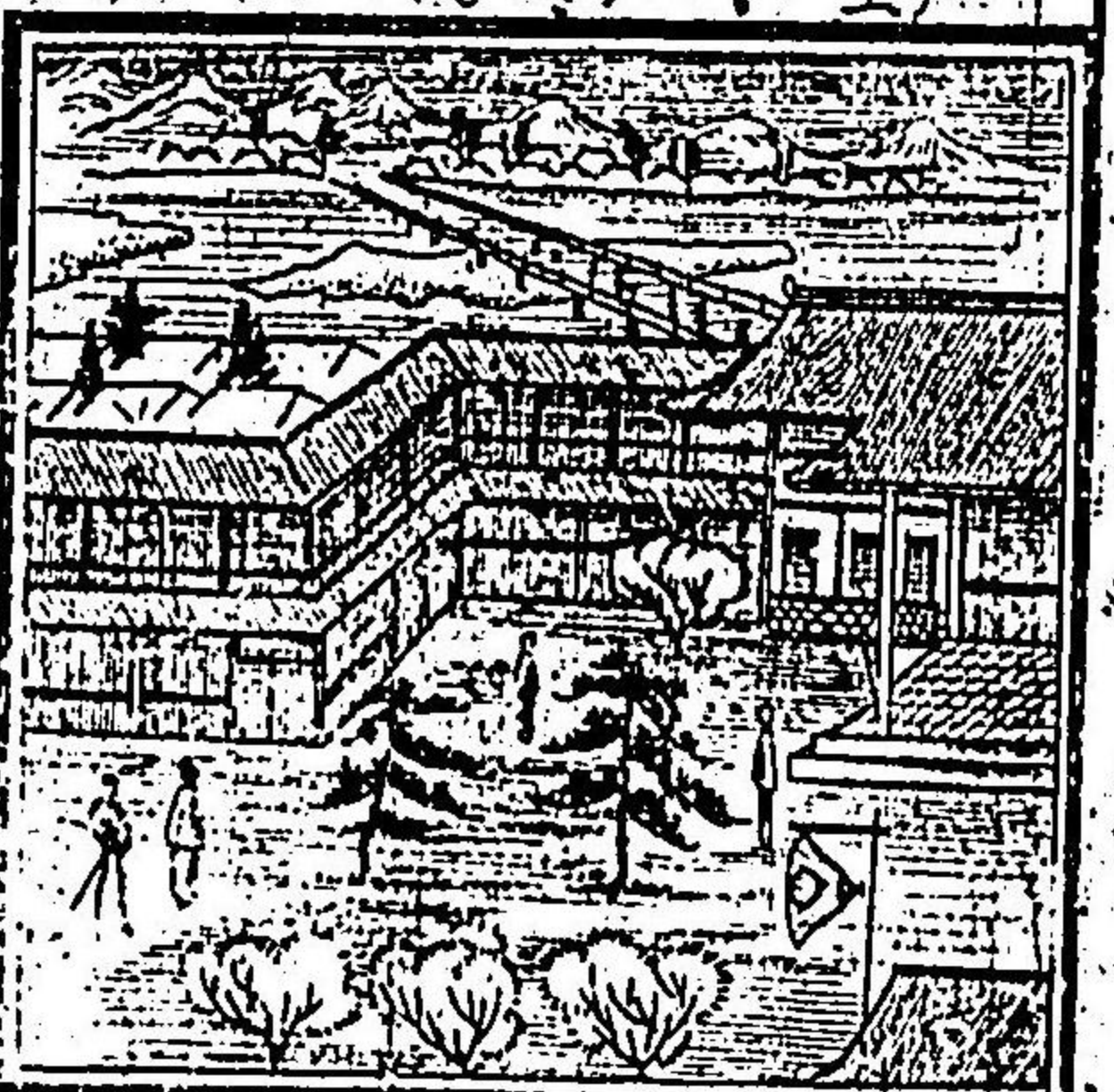
五條橋はも
いめ松原通
よりあり則ち
ソノへの五
條通く秀吉
公の時此所
より川す故
よ五條橋通
とよ此橋
上の半より
東は向へハ
浴東の勝地木の間くよありはきて平安の

住景くよ止る

御影堂

五條通寺町西あり

新善光寺せらふ
天長年中檀林皇
後の建立よて関
基弘法大師く
中興王阿上人真
言宗を改め時宗
となる本尊阿彌
陀佛ハ安阿彌の作く坊中扇を折て業よ



家数軒ありて名物なり

大雲院

龍池山貞
安寺といふ
浄土宗よ
て関基



八貞安上人あり

神宮教會

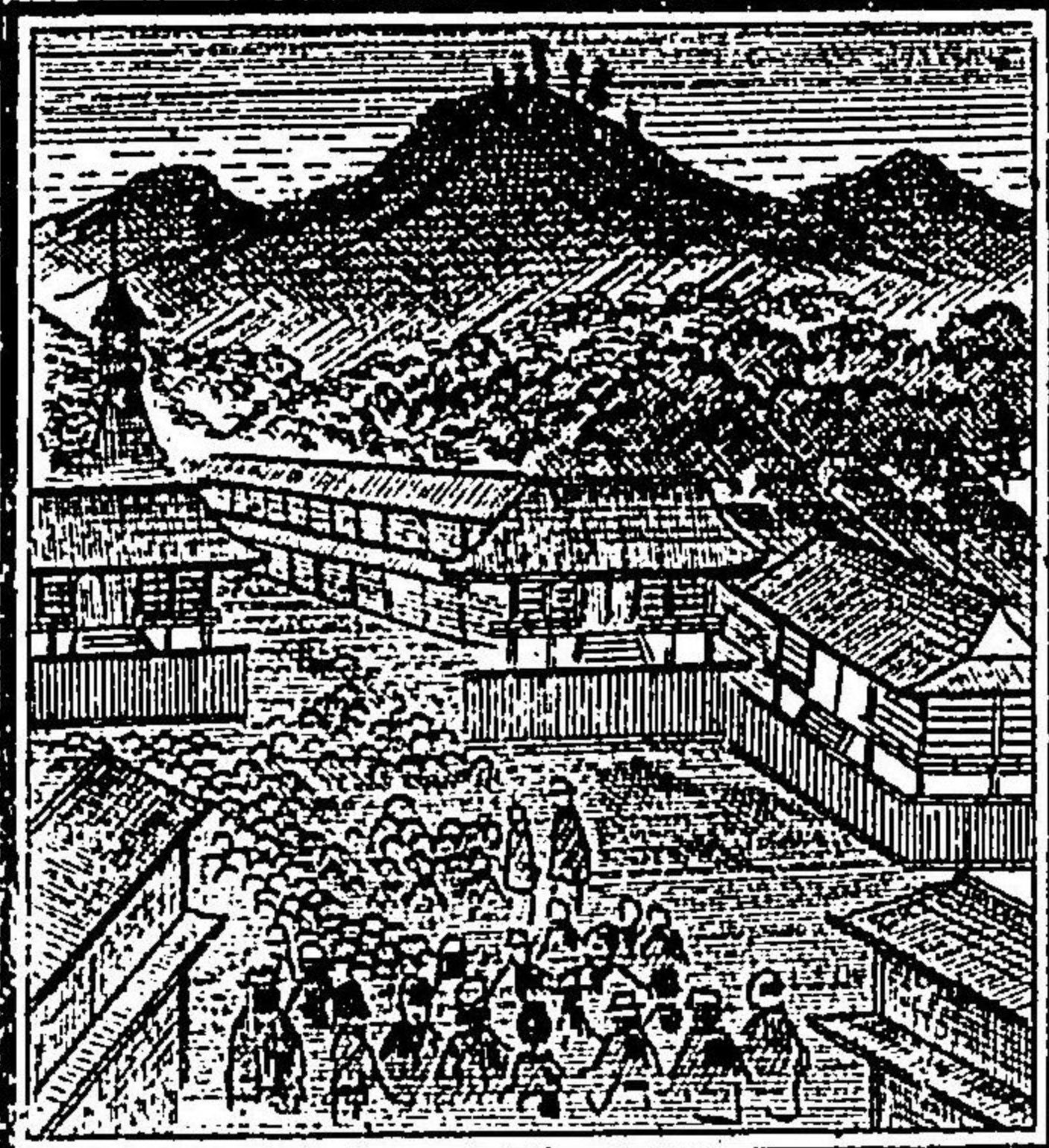
神宮司廳の出張所にて太神宮を祭り事務を取扱ふなり時々説教あり



八坂神社御旅所

四條通寺町東あり

此地を御旅町といふ祇園會の神輿三基此所ニ神幸一玉ひ御旅中七日の間詣



人群集す

金蓮寺

京極通四條の北あり

四條道場と稱す時宗より本尊阿彌陀佛開基淨阿上人親戀地藏運慶の作人杜鶴松の方丈の東あり杜鶴洛陽來る時先此木に至りて啼初るとたり

深殿地藏

右同所の南口あり

十住心院といふ真言宗より本尊地藏尊弘法大師の作深殿皇后常尊信ありて當院を建立一玉ふ故深殿地藏と稱す

蛸藥師

右同所蛸藥師通行當あり

永福寺といふ舊圓福寺の境内本尊藥師佛の石像より長二尺傳教大師の作人の鯉地藏の堂の前あり

和泉式部の塔

右同所蛸藥師の北あり

誠心院の境内和泉式部此寺に入て尼たり

て住しとん傍に軒端梅と言水の墓あり

新京極

維新後

三條より

四條まで

の敷地寺

の境内を

開通し

る一筋

の街路

とて諸

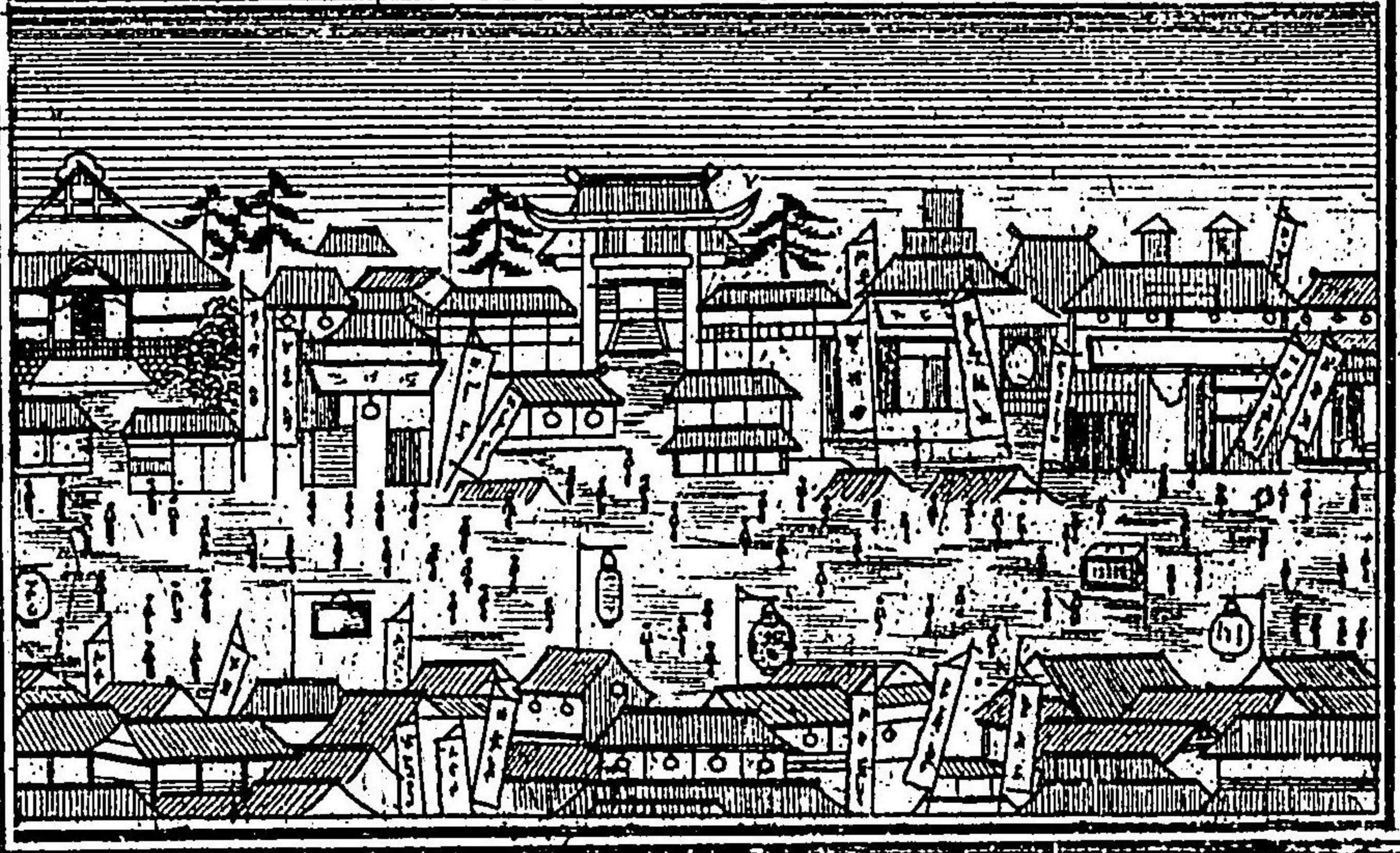
興行席

遊技場

飲食店

と雑貨

店を以て



充す故

旅客一

とびこ

み来れ

終日耳

目を慰

るを

得べし

其敏花

雑沓京

都第一

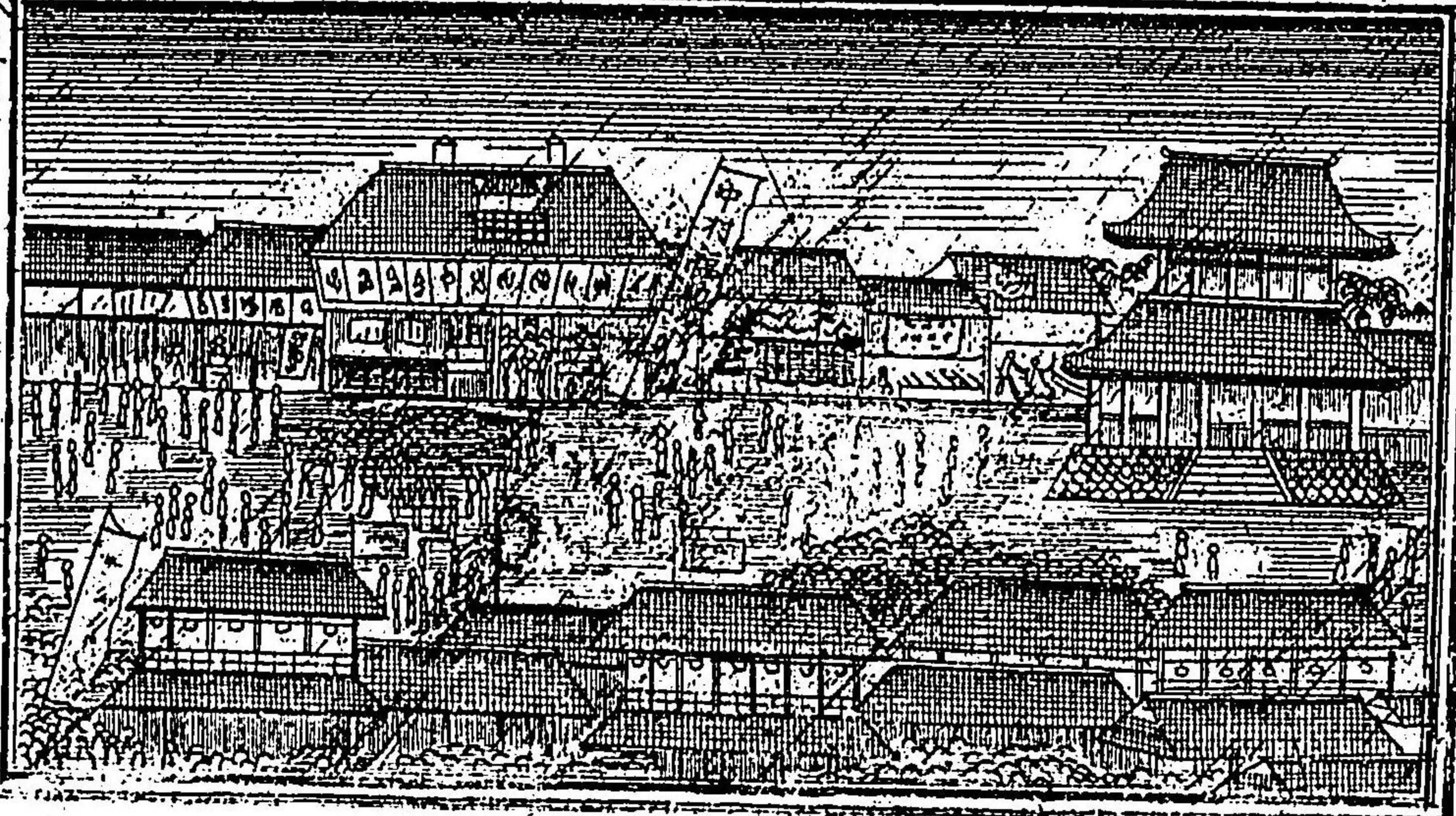
とす今

其種類

を擧げ

○芝居

り三條



の南もあるを常磐座といひ六角通もあるを夷
谷座といふ六角通の南は大黒座と福井座あり
四條の北は坂井座あり大概年中絶へず真行せ
り其中は夷谷座と福井座ハ女能優く○浄瑠
璃ハ女大夫の席ニヶ所あり新内も定席ニヶ所
あり○俄狂言ハ定席ニヶ所あり○講談及ひ
昔もまゝの定席数ヶ所あり此外見せざる等
数ヶ所あり○手踊の定席ニヶ所あり○遊技
場ハ玉突室内射的揚弓大弓等数ヶ所あり
○飲食店ハ西洋料理精進料理店をも善哉
餅屋すゝ屋等一とく備わらざるな

誓願寺

右同所六角通の突ありあり

浄土宗より深草流義の一本寺と本願ハ
天智天皇開基ハ惠隠僧都といふ本尊阿彌陀
佛ハ長八尺の坐像より賢問子芥子國兩
人の作く六字の額ハ一遍上人の筆と

本國寺

堀川松原の南あり

日蓮宗の本山より一致派開基ハ日蓮上
人よてもめハ相州鎌倉松葉谷に建立ありて
一宗最初の寺貞和元年光明帝の勅よりつ
て相州鎌倉より華洛六條堀川に移す

本派本願寺

西六條一あり



本派本願寺の草創ハ文永九年洛東大谷に
 してて廟堂を建す龜山院勅願所として
 龍谷山本願寺の号を賜ふ第八代蓮如上人の時
 宗義大に繁昌す山門の衆徒これを始て當寺を
 破却すそれより以來行々に移り天正十九年八月六
 條堀川に移す本堂ハ見真大師自作の影像
 を安置す（此像ハ開山在世の時彫刻し玉ひ息
 女覺信尼公へさつけ玉ひしを聖人の滅後遺骨
 を細抹して漆と和し潤色せり故に骨肉御影と
 稱す坐像にして長二尺五寸餘又本堂ハ大谷
 本願寺の時紫宸殿拜領より御堂造り紫宸
 殿の模形之堂前之高塙也内裏は同じ）

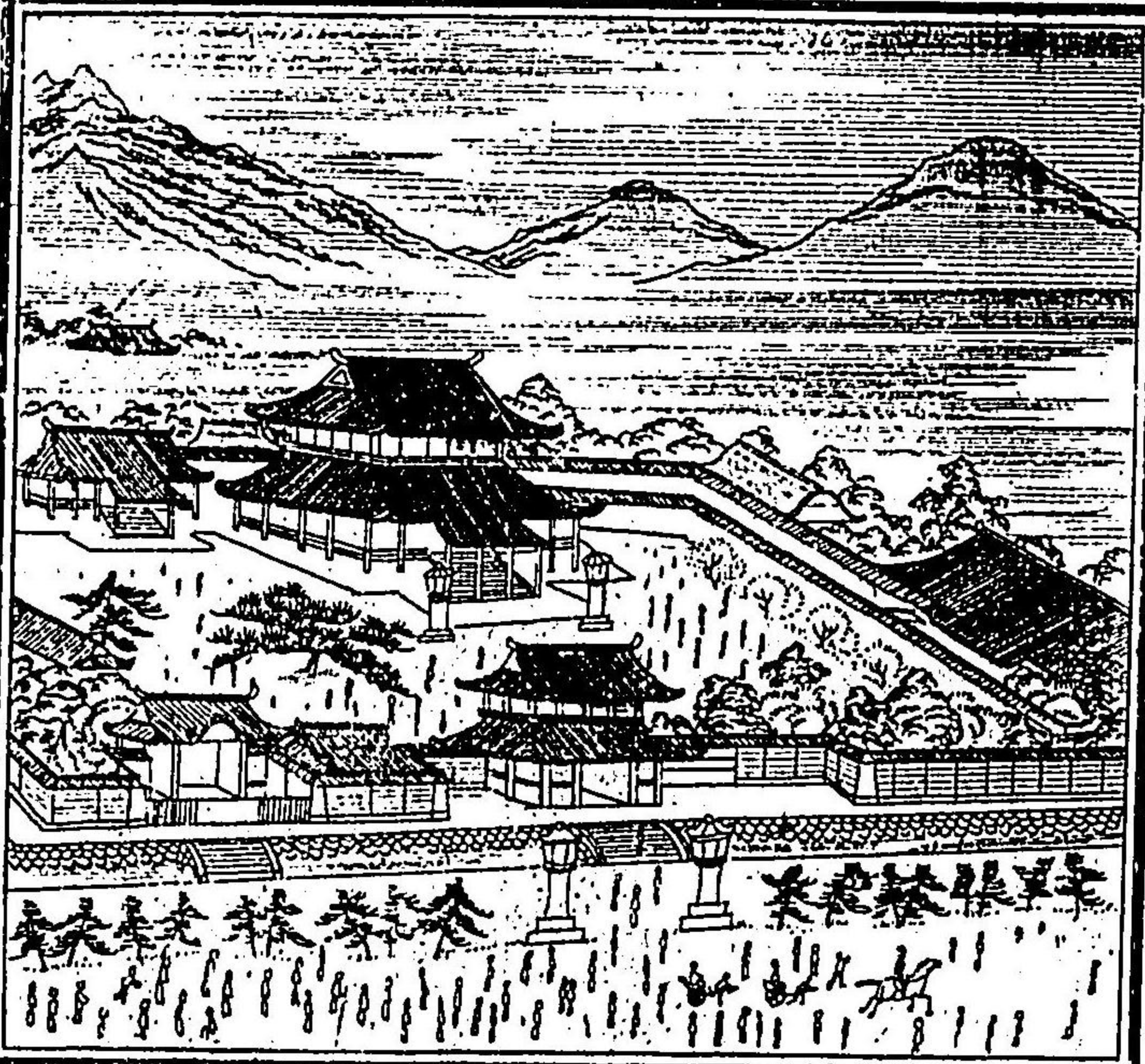
興正寺

西本願寺の南隣あり

當寺の初ハ見真大師四十歳の時山科に造
 營し高弟真佛上人に附屬し玉ひり其後天正
 十九年此地よりつす

大谷派本願寺

東六條あり

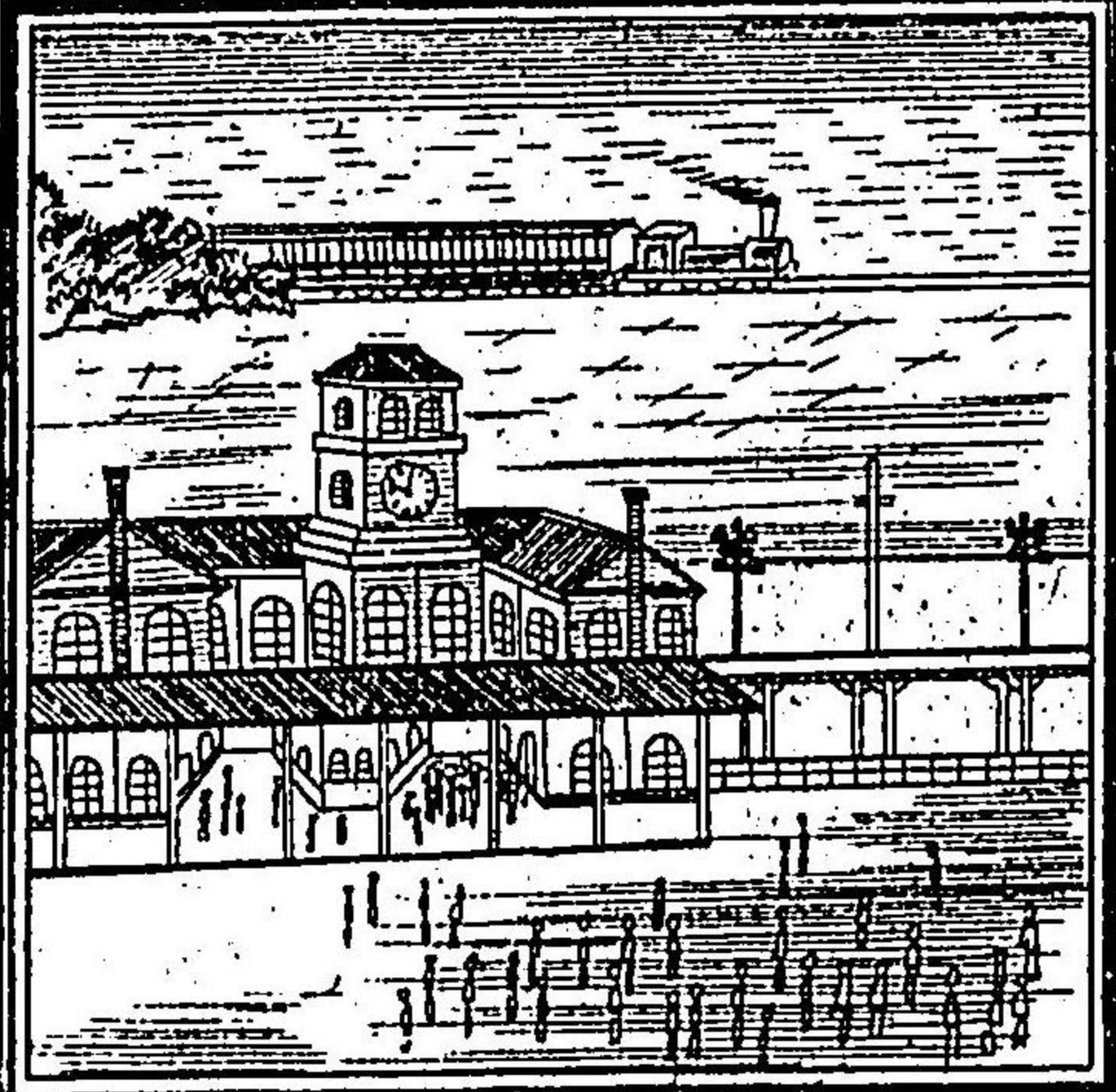


大谷派本願寺ハ開山より第十一世顯如上人の
 嫡子教如上人慶長七年徳川家康公の台命を
 蒙り六町四方の寺地を賜り新に御堂を營

東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脈を相續す本堂の見真大師自作の像を安置す坐像ありて長二尺五寸餘ん此尊像もめハ上州厩橋妙安寺あり名命よりて當寺ヨウラフす○堂宇ハ元治の兵燹マモクク焼失セテを以て其後再建ニ着手し本堂ハ略落成す實ニ宏大なるもの少て目を驚ク

ステーション

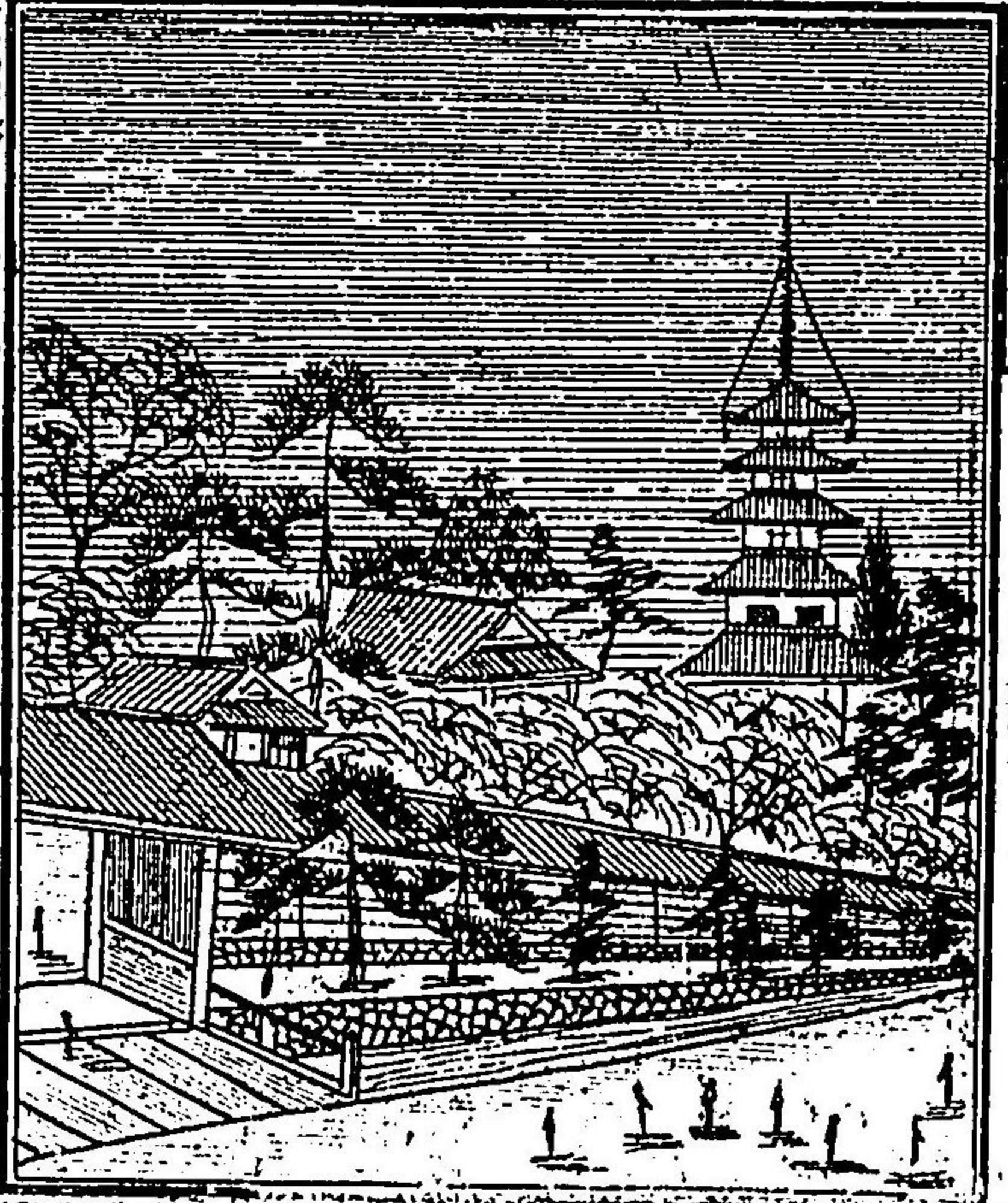
鳥丸通七條南あり



西ハ大坂神戸を経て山陽道ニ至リ東ハ東海道を經て東京ニ達ス

東寺

大宮の西八條の南あり



八幡山教王護國寺秘密傳法院と号す真言宗の源よりて開祖ハ弘法大師之元此地ハ大内裏の時鴻臚館之後寺となり空海ノ賜にて東寺と号す

六孫王社

八條通千本東あり

祭神ハ經基公ノ源氏の祖神ナリて徳川家の

造營たり神前しんぜんの諸侯しよこうより奉納ほうなつの石燈籠いしとうろう多し

壬生寺 四條千本東南しんせいあり

宗旨しゆじハ真言律しんごんりつヲ本尊ほんそん地藏菩薩ぢぢいぼさつハ長三尺
ヲて坐像ざざう正曆二年しやうりやくににの草創そうしやう開基かいきハ三井寺さんせいの
快賢大僧都くわいけんたいそうだう之地藏尊彫刻ぢぢいそんてうかくの志願しげんを祭まつし佛工ぶつこう
定朝ぢやうてう命いのちトて一千日せんにち間まヲ作り終おひる相好さうこう圓備えんび
して恰生身あつしやうしんの如ごとし是こゝろ當寺たうじの本尊ほんそんハ大念だいなん
佛ぶつ毎年まいねん四月しがつ十六日じゅうろくにちより廿八日にじゅうはちにち種々しゆしゆの猿樂さるがをす
是こゝろを壬生しんせいの狂言きやうげんトす

島原 傾城かたじ町まちハ朱雀しゆくわく
野のコこチち古来こらい
の遊里あそびあり
いいままおおひひ
いいままおおひひ
衰おとろへへととり



官幣社鎮座地名

下鴨御祖神社	愛宕郡下加茂村あり
上加茂別雷神社	今、上加茂村あり
男山八幡宮	綴喜郡八幡荘あり
松尾神社	葛野郡上山田村あり
平野神社	今、小北山村あり
稻荷神社	紀伊郡伏水街道黒南あり
吉田神社	愛宕郡吉田村あり
大原野神社	乙訓郡大原野村あり
八坂神社	京都市四条通東あり
北野神社	今御前通今出川行當あり
貴船神社	愛宕郡貴船村あり
白峯神社	京都市今出川通小川河原あり
豊國神社	今大佛正面あり
建勲神社	愛宕郡舟岡山あり
護王神社	京都市島芝通下長者町あり
梨木神社	今寺町通荒神口あり

禮祭

加茂祭	五月五日	稻荷祭	五月七日
松尾祭	五月七日	補御祭	四月十日
今宮祭	五月十五日	御靈祭	五月十八日
八坂祭	七月廿四日	粟田祭	十月十五日
北野祭	十月四日	印吉祭	五月十四日

新京都名所圖繪終
新京都名所圖繪
五十六

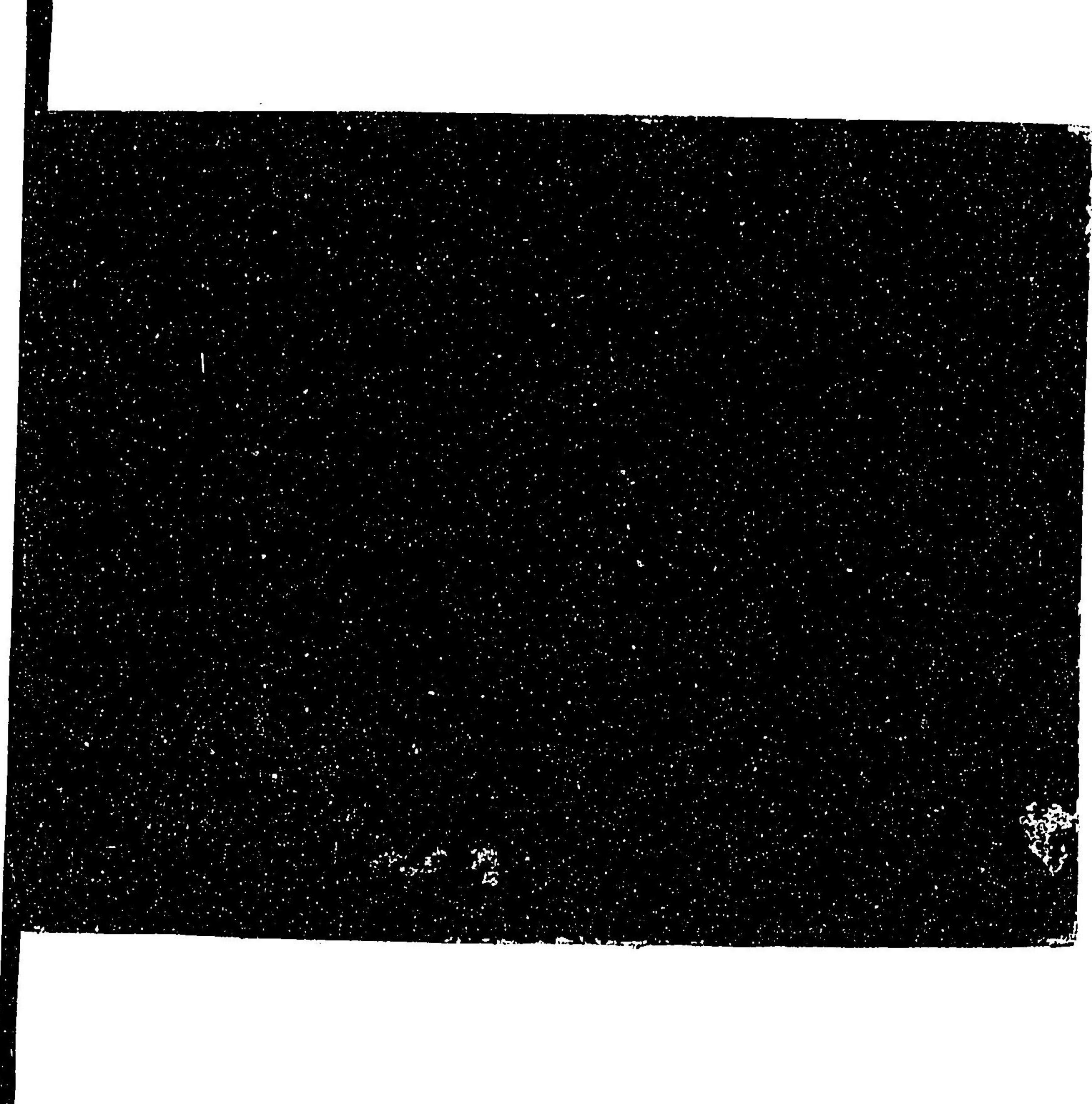
明治廿六年一月廿五日印刷
全 年 今 月 今 日 出 版

京都市上京区三條通烏丸
西入東玉屋町廿九番戶
編輯者 小林元之助

京都市下京區麩屋町通
錦小路上ル梅屋町拾三番戶
印刷者 寺田熊次郎

京都市下京區綾小路柳馬場
西入綾材木町十七番戶
發行者 寺田榮助

定價金拾五錢



特57
998

025388-000-9

特57-998

京都名所図絵 (新撰)

小林 元之助 / 編

M26

ADC-2834

